

日本ボーイスカウト茨城県連盟

# 事業実施計画

2024 実行スケジュール



2024年6月8日

## 2024年度事業計画

### 【2024(令和6)年度重点目標】

スカウティングの本質を確認し、社会に貢献できるスカウトを育てるための仕組みを確立する。  
～より良き社会を創るために、社会地域においてリーダーシップを発揮できるスカウトを育てる～

ボーイスカウト茨城県連盟は、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟の中長期計画に準拠し、「活動的で自立したスカウトを育てる」ことを目指してきました。また、県連盟創立70周年では「茨城県連の未来のための取り組み」が提言されました。これらを受けて、2023年度は「茨城県連盟中期計画（5カ年計画）」を策定し、県連盟事業の指針を定め、それに取り組んでおり、2024年度も引き続き取り組んでいきます。

### 1. 基本方針

重点目標を達成するために、2023年度に「茨城県連盟中期計画」を策定し、組織的・計画的に事業を開始しました。この中期計画は、茨城県連盟で執行する全ての事業（委員会等の会議開催・管理的事業を除く）を網羅しています。昨年2023年度に基本施策に基づく各種事業展開スケジュールを定め、本年から本格的に実施・展開していきます。

中期計画であることから、2027年度までの施策に大きな変更はありませんが、本年度は「基本施策」に1項目を追加します。

#### 【基本施策】

- ① 茨城県連盟をより活気ある組織にするために
- ② 多くの人に関わったスカウティング
- ③ スカウトの成長・社会課題の解決に貢献するスカウティング
- ④ より良き指導者の育成
- ⑤ 県連盟運営の適正化に関する取り組み
- ⑥ 全てのスカウトが楽しく・愉快地に活動できる取り組み

※「施策」「事業」については、「茨城県連盟中期計画書」をご覧ください。

### 2. 本年度実施する事業

県連盟の重点目標および基本方針に基づき2023度に取り組む事業は、2023年度年次総会において下記のとおり決定しました。その目標の達成、ビジョンの実現のための2023年度県連事業の行動計画を2023年9月の臨時理事会で決定しました。

今2024年度は、当初示された中期計画実行計画に2023年度行動計画の修正を加えて、下記のとおり実施します。

\*文中（I-1-①）等の表記は、中期計画の I：（基本施策）、-1：（施策）、-①：（事業）を表しています。

### 【理事会全体として取り組む事業】

- I-1-① 「スカウティングとは何か」を確認し、地区を通して団が正しく理解する
- I-1-② スカウティングを推進する者としての気概の醸成
- I-2-① 様々な団体や地域と連携したプログラム開発を推進
- II-3-① 維持会員登録推進と情報発信の取組み
- II-3-② 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用
- IV-1-① スカウティングにおける成人の関与のあり方の確立、「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用
- V-1-① 事務局業務の適正化（業務の整理と人員）と県連ルールの再確認
- V-2-① 全ての組織でのジェンダーバランスと青年参画のルール化の推進
- V-3-① 茨城県連の適正なる運営に向けた任務の確認と執行
- 一般① 理事会、常任理事会、企画調整委員会の運営
- 一般② 「ワクワク自然体験あそび」が各団で取組まれるための支援
- 一般③ 団・隊組織のあるべきイメージの提示と、AIS ポリシーの研究
- 一般④ 県連盟・地区役員等や団・隊指導者層の高齢化の解消及び次期役員・指導者の育成
- 一般⑤ 「日日の善行」運動の新たな推進
- 一般⑥ WB 研修所の実施場所の確保
- 一般⑦ 県連役員、県連委員会委員の全体集会の実施

### 【地区代表理事（地区委員長）】

- I-1-① 「スカウティングとは何か」を確認し、地区を通して団が正しく理解する
- I-2-② スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究
- I-2-③ 地域の青少年に体験活動を提供する取組み
- II-1-① 団・隊組織の正常化と、団・隊指導者の資質の向上
- II-1-④ 地域の青少年に体験活動を提供する取組み
- II-3-② 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用
- IV-1-② インサービス・サポート（ISS）の適切な運用
- V-4-① 任務別指導者任命状、退任時の表彰状についての取組み
- VI-1-① 「楽しい」スカウティングの実現（理解と普及）
- VI-1-② 「スカウティングはゲームである」の実現（理解と普及）

### 【総務委員会】

- I-1-① 「スカウティングとは何か」を確認し、地区を通して団が正しく理解する
- I-2-② スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究
- I-2-⑤ 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立
- II-1-② ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取組み
- II-1-③ ボーイスカウト隊以上で新規加盟員、カブ隊からの上進スカウトを増やす取組み
- II-3-② 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用
- III-1-③ 「スカウトならば誰でも救急法ができ、地域や日常生活で役立てることができる」の実現に向けた取組み
- III-2-① 災害時に有用なスキルを習得するためのプログラムなどの開発の推進
- 一般① 震災等の復興支援活動への奉仕手続の整備と参加の奨励
- 一般② 制定から10年が経った茨城県連盟規定等の時代に即した内容への修正の検討
- 一般③ 団委員長セミナー、団委員研修会の開催
- 一般④ 「団における危機管理マニュアル作成の手引き」の団への作成支援
- 一般⑤ ボーイスカウト振興茨城議員連盟との連携、及び「意見交換会」の実施
- 一般⑥ ボーイスカウト茨城県連盟維持財団との連携

- 一般 ⑦ セーフ・フロム・ハーム研修（基本編、実践編）の実施
- 一般 ⑧ 納品されたスカウト用品の各団送付の適正化
- 一般 ⑨ 各種委員会から提供されるプログラムについて、その活動を支援するプログラム用品の紹介

## 【地域連携・広報委員会】

- I-1-① 「スカウティングとは何か」を確認し、地区を通して団が正しく理解する
- I-1-② スカウティングを推進する者としての気概の醸成
- I-2-① 様々な団体や地域と連携したプログラム開発を推進
- I-2-③ 地域の青少年に体験活動を提供する取り組み
- I-2-④ スカウト運動のブランディング（価値やイメージを高く認知してもらうために行う取り組み）と地域への恒常的に情報
- I-2-⑤ 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立
- II-1-② ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取り組み
- II-1-④ 地域の青少年に体験活動を提供する取り組み
- II-2-② 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立
- II-3-① 維持会員登録推進と情報発信の取組み
- III-3-① スカウトにとって魅力ある ICT の活用
- III-3-② スカウティングに貢献する ICT の活用方法の研究（広報担当）
- 一般 ① 県連ホームページの運営
- 一般 ② 県連機関紙「SC-IB NEWSLETTER」、県連広報紙「SCOUTING 茨城」の発行のための各委員会・コミ・TT 等からの「情報発信者」の選出
- 一般 ③ 「スカウトの日」の団へ通知ととりまとめ
- 一般 ④ 県連「撮っておきの写真コンテスト」＆「カレンダープロジェクト」の実施
- 一般 ⑤ 「ワクワク自然体験あそび」の各団での実施の推進
- 一般 ⑥ 地域との連携を考えた地域奉仕活動への積極的な参加の奨励
- 一般 ⑦ 地域の行事やお祭り等とのコラボレーション等、地域連携活動の促進
- 一般 ⑧ 「全国防災キャラバン」の実施

## 【指導者養成委員会】

- I-2-② スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究
- II-1-② ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取り組み
- II-1-③ ボーイスカウト隊以上で新規加盟員、カブ隊からの上進スカウトを増やす取り組み
- II-3-② 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用
- IV-2-① 時代に即した指導者研修の研究と実施
- IV-2-② 魅力ある隊活動を実施できる指導者を育成する指導者研修の実現
- IV-2-④ 指導者カルテ、指導者研修歴の管理
- IV-2-⑤ 研修参加環境の調査と整備
- VI-1-① 「楽しい」スカウティングの実現（理解と普及）
- VI-1-② 「スカウティングはゲームである」の実現（理解と普及）
- 一般 ① 指導者が参加したいと思う各種訓練（BS講習会、WB 研修所、県定型訓練、県定型外訓練など）の企画・計画
- 一般 ② 「毎月第 1 土日は研修の日」の周知
- 一般 ③ 下表の指導者訓練の実施（企画・計画・実施は、コミ+TT）
- 一般 ④ 各種研修の実施

| 区分     | 研修名                  | 実施予定日                |
|--------|----------------------|----------------------|
| 日連定型訓練 | 第 80-83 回ボーイスカウト講習会  | 4/14, 6/23, 9/8, 3/9 |
| 日連定型訓練 | WB研修所スカウトコース 茨城第 8 期 | 10/10                |

|         |                       |                  |
|---------|-----------------------|------------------|
| 日連定型訓練  | WB研修所課程別研修 茨城第 8 回    | 11/8             |
| 県連定型訓練  | 第9回 安全・危機管理研修(基本)     | 4/7              |
| 県連定型訓練  | 第6回 安全・危機管理研修(STEP 1) | 9/1              |
| 県連定型訓練  | 第6回 安全・危機管理研修(STEP2)  | 11/17            |
| 県連定型訓練  | スカウティング基本研修           | 7/21, 12/8       |
| 県連定型外訓練 | スカウティング+ (プラス) セミナー   | 5/12, 7/7, 2/9   |
| 県連定型外訓練 | スキルアップセミナー            | 6/9, 10/6, 11/24 |

### 【進歩委員会】

- Ⅱ-1-② ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取り組み
- Ⅱ-2-③ スカウトにとって魅力あるスカウティングの実現
- Ⅲ-1-① 年代特性に合致した一貫性のあるプログラム開発と整備
- Ⅲ-1-② 進歩制度の理解促進、富士章をめざす意識の醸成、技能章修得しやすい環境整備
- Ⅲ-1-④ 国際感覚を養うプログラムの整備
- Ⅲ-3-① スカウトにとって魅力ある ICT の活用
- 一般① BVS・CS 部門からの上進率を高めるプログラムの検討と展開
- 一般② スカウト救急法講習の実施等
- 一般③ スカウトが自ら信仰心を持つようする気持ちの涵養と環境整備
- 一般④ 「スカウトに信仰を奨励する指導者のためのガイド」の作成
- 一般⑤ 「信仰奨励章」・「宗教章」取得のための環境整備

### 【イベント国際委員会】

- I-2-① 様々な団体や地域と連携したプログラム開発を推進
- Ⅲ-1-④ 環境保全活動、社会貢献活動、SDGs プログラムの推進
- Ⅲ-1-④ 国際感覚を養うプログラムの整備
- 一般① (BS 部門) GB のつどいの実施等
- 一般② (CS 部門) IB- グランプリの開催
- 一般③ (VS 部門) ベンチャーラリーの実施
- 一般④ (VS 部門) スカウトフォーラム等の実施
- 一般⑤ 「日日の善行」運動の実施

### 【県コミッショナー G】

- I-1-① 「スカウティングとは何か」を確認し、地区を通して団が正しく理解する
- I-1-② スカウティングを推進する者としての気概の醸成
- I-2-① 様々な団体や地域と連携したプログラム開発を推進
- I-2-① 様々な団体や地域と連携したプログラム開発を推進
- I-2-② スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究
- I-2-③ 地域の青少年に体験活動を提供する取り組み
- I-2-⑤ 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立
- Ⅱ-1-① 団・隊組織の正常化と、団・隊指導者の資質の向上
- Ⅱ-1-② ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取り組み
- Ⅱ-1-③ ボーイスカウト隊以上で新規加盟員、カブ隊からの上進スカウトを増やす取り組み
- Ⅱ-2-① スカウトにとって魅力あるスカウティングの実現
- Ⅱ-2-② 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立
- Ⅱ-2-③ スカウトにとって魅力あるスカウティングの実現
- Ⅱ-3-② 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用
- Ⅲ-1-① 年代特性に合致した一貫性のあるプログラム開発と整備

- Ⅲ-1-② 進歩制度の理解促進、富士章をめざす意識の醸成、技能章修得しやすい環境整備
- Ⅲ-1-③ 「スカウトならば誰でも救急法ができ、地域や日常生活で役立てることができる」の実現に向けた取り組み
- Ⅲ-1-④ 国際感覚を養うプログラムの整備
- Ⅲ-2-① 災害時に有用なスキルを習得するためのプログラムなどの開発の推進
- Ⅲ-2-② 環境保全活動、社会貢献活動、SDGs プログラムの推進
- Ⅲ-3-① スカウトにとって魅力ある ICT の活用
- Ⅳ-1-② インサービス・サポート（ISS）の適切な運用
- Ⅳ-2-① 時代に即した指導者研修の研究と実施
- Ⅳ-2-② 魅力ある隊活動を実施できる指導者を育成する指導者研修の実現
- Ⅳ-2-④ 指導者カルテ、指導者研修歴の管理
- Ⅳ-2-⑤ 研修参加環境の調査と整備
- Ⅴ-1-① 事務局業務の適正化（業務の整理と人員）と県連ルールの再確認
- Ⅴ-2-① 全ての組織でのジェンダーバランスと青年参画のルール化の推進
- Ⅵ-1-① 「楽しい」スカウティングの実現（理解と普及）
- Ⅵ-1-② 「スカウティングはゲームである」の実現（理解と普及）
- 一般 ① 礼節とスマートネスについて、自ら考え、それを実行に移していこうという意識の醸成
- 一般 ② コミッショナーの資質及び意識を向上させるための取り組みの推進
- 一般 ③ BVS・CS 部門からの上進率を高めるプログラムの検討と展開
- 一般 ④ 指導者が参加したいと思う各種訓練の研究・計画と、参加意識の高揚
- 一般 ⑤ 楽しい「スキルトレーニング」を展開し、その活用を促して、スカウト・スキルを更に身に付けようという意識を促し、上級訓練への参加意識を高める研究
- 一般 ⑥ 乙戸県連キャンプ場の使用ルールを定め、各団での使用を可能にする
- 一般 ⑦ 指導者のつどいの実施。
- 一般 ⑧ 地区訪問（県コミ）、団訪問（地区コミ）の実施
- 一般 ⑨ 「毎月第 1 土日は研修の日」の周知
- 一般 ⑩ 県連盟内コミ会議・ラウンドテーブル・コミ会議の実施
- 一般 ⑪ 「日日の善行」運動の新たな推進
- 一般 ⑫ 「そなえよつねに」「日日の善行」「自治の三訣」を班・隊活動のほか、日常生活の中でも実施する意識の醸成

## 【地区コミッショナー G】

- Ⅰ-2-① 様々な団体や地域と連携したプログラム開発を推進
- Ⅰ-2-② スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究
- Ⅰ-2-③ 地域の青少年に体験活動を提供する取り組み
- Ⅱ-1-① 団・隊組織の正常化と、団・隊指導者の資質の向上
- Ⅱ-3-② 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用
- Ⅲ-1-② 進歩制度の理解促進、富士章をめざす意識の醸成、技能章修得しやすい環境整備
- Ⅲ-1-③ 「スカウトならば誰でも救急法ができ、地域や日常生活で役立てることができる」の実現に向けた取り組み
- Ⅲ-3-① スカウトにとって魅力ある ICT の活用
- Ⅳ-2-③ スカウトスキルのスタンダードの提示
- Ⅴ-4-① 任務別指導者任命状、退任時の表彰状についての取り組み
- Ⅵ-1-① 「楽しい」スカウティングの実現（理解と普及）
- Ⅵ-1-② 「スカウティングはゲームである」の実現（理解と普及）



## 【トレーニングチーム】

- I-2-② スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究
- II-1-① 団・隊組織のあるべきイメージの提示と、AIS ポリシーにもとづいた団・隊指導者位置づけの確認
- II-1-② ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取り組み
- II-3-② 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用
- III-1-② 進歩制度の理解促進、富士章をめざす意識の醸成、技能章修得しやすい環境整備
- III-2-① 災害時に有用なスキルを習得するためのプログラムなどの開発の推進
- IV-2-① 時代に即した指導者研修の研究と実施
- IV-2-② 魅力ある隊活動を実施できる指導者を育成する指導者研修の実現
- IV-2-③ スカウトスキルのスタンダードの提示
- IV-2-④ 指導者カルテ、指導者研修歴の管理
- IV-2-⑤ 研修参加環境の調査と整備
- VI-1-① 「楽しい」スカウティングの実現（理解と普及）
- VI-1-② 「スカウティングはゲームである」の実現（理解と普及）
- 一般 ① 指導者が参加したいと思う各種訓練機関（BS講習会、WB 研修所、県定型訓練、県定型外訓練など）の実施と、参加指導者の意識が高まる展開
- 一般 ② 楽しい「スキルトレーニング」の展開。（その活用を促して、スカウト・スキルを更に身に付けようという意識を促し、上級訓練への参加意識を高める）
- 一般 ③ 乙戸県連キャンプ場の使用ルールを定め、各団での使用を可能にする
- 一般 ④ 次期及び若手トレーニングチーム員の養成及び育成
- 一般 ⑤ トレーニングチーム員の資質及び意識を向上させるための取り組みの推進
- 一般 ⑥ トレーニングチーム員の自己啓発と自主トレーニングの推進

## 【IVY リーグ】

- I-2-⑤ 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立
- III-2-① 災害時に有用なスキルを習得するためのプログラムなどの開発の推進
- 一般 ① 保護者等に対して、スカウトの成長した姿を見せるための取り組み

## 【事務局】

- I-2-③ 地域の青少年に体験活動を提供する取り組み
- III-3-② プログラムのヒント・データベースの構築
- V-1-① 事務局業務の適正化（業務の整理と人員）と県連ルールの再確認
- 一般 ① 事務局の業務を漏れなく列挙し、その根拠を理解し、執行体制と状況を確認する。
- 一般 ② 各種規約等に従った事務を行う。
- 一般 ③ メールを適切に使用する。（受信メールの確認と分類保管、添付ファイルの確認、送信文面等）
- 一般 ④ 資料保管の適正化、物品の管理、倉庫の整理整頓等
- 一般 ⑤ 土浦キャンプ場の総合管理（地主対応、借用契約、光熱水料等）、および土浦市との土地借用関係
- 一般 ⑥ 外部団体等からの対応（窓口）《県庁、議連、友好団体等》
- 一般 ⑦ 連盟長への対応
- 一般 ⑧ HP、メールサーバのレンタル手続

## 【土浦キャンプ場管理チーム】

- 一般 ① 土浦キャンプ場管理チームを結成する。
- 一般 ② 乙戸県連キャンプ場の使用ルールを定め、各団での使用を可能にする
- 一般 ③ 乙戸県連キャンプ場の維持および整備と、各団使用のための環境整備

# 1 計画における施策の体系

本計画は、2023 年度から 5 年間で重点的に取り組む「6 つの基本施策」→「16 の施策」→「37 の事業」（P.10～P.43）とそれ以外の 11 の一般事業（P.13）とで構成されています。

下の「重点事業一覧」の中で、重点事業が複数の施策に及ぶ場合には、より関係性に強い施策にの再掲先の事業番号を記載してあります。

## 1. 重点施策一覧

| 基本施策Ⅰ 茨城県連盟をより活気ある組織にするために               |                                                          | 主な対応部署                   | 掲載                         |
|------------------------------------------|----------------------------------------------------------|--------------------------|----------------------------|
| 施策 1 スカウティングの在り方について再度共通理解をすること          |                                                          |                          |                            |
|                                          | 事業① 「スカウティングとは何か」を確認し、地区を通して団が正しく理解する                    | 県連役員                     | 10                         |
|                                          | 事業② スカウティングに推進する者としての気概の醸成（役員・指導者）                       | 理事会                      | 12                         |
| 施策 2 地域にスカウティングを普及させること、様々な団体等との連携を進めること |                                                          |                          |                            |
|                                          | 事業① 地域連携委員会を設置し、様々な団体や地域と連携したプログラム開発を推進                  | 理事会                      | 14                         |
|                                          | 事業② スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成                       | コミッショナー G                | 16                         |
|                                          | 事業③ 地域の青少年に体験活動を提供する取り組み                                 | プログラム委員会                 | 18                         |
|                                          | 事業④ スカウト運動のブランディングと地域への恒常的に情報を発信する取り組み                   | 総務委員会（広報チーム）             | 20                         |
|                                          | 事業⑤ 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立                             | コミッショナー G                | 21                         |
| 基本施策Ⅱ 多くの人に開かれたスカウティング                   |                                                          |                          |                            |
| 施策 1 新規加盟員獲得に向けた取り組みをすること                |                                                          |                          |                            |
|                                          | 事業① 団・隊組織の正常化と、団・隊指導者の資質の向上                              | コミッショナー G                | 23                         |
|                                          | 事業① ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取り組み                               | コミッショナー G                | 25                         |
|                                          | 事業② ボーイスカウト隊以上で新規加盟員を増やす取り組み                             | コミッショナー G                | 26                         |
|                                          | 事業④ 地域の青少年に体験活動を提供する取り組み                                 | I-2-③に同じ                 | 18                         |
| 施策 2 中途退団を抑止する取り組み                       |                                                          |                          |                            |
|                                          | 事業① スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成                       | I-2-②と同じ                 | 16                         |
|                                          | 事業② 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立                             | I-2-⑤と同じ                 | 19                         |
|                                          | 事業③ スカウトにとって魅力あるスカウティングの実現                               | コミッショナー G                | 27                         |
| 施策 3 スカウティングを支える成人を増やす取り組み               |                                                          |                          |                            |
|                                          | 事業① 維持会員登録推進と情報発信の取組み                                    | 総務委員会                    | 29                         |
|                                          | 事業② 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用                            | 理事会                      | 30                         |
| 基本施策Ⅲ スカウトの成長・社会課題の解決に貢献するスカウティング        |                                                          |                          |                            |
| 施策 1 スカウトの成長に貢献するプログラム開発に関する取り組み         |                                                          |                          |                            |
|                                          | 事業① 年代特性に合致した一貫性のあるプログラム開発と整備                            | コミッショナー G                | 32                         |
|                                          | 事業② 進歩制度の理解促進、富士章をめざす意識の醸成、技能章を修得しやすい環境整備                | 担当コミッショナー                | 33                         |
|                                          | 事業③ 「スカウトならば誰でも救急法ができ、地域や日常生活で役立てることができる」の実現に向けた取り組み     | 総務委員会                    | 34                         |
|                                          | 事業④ 国際感覚を養うプログラムの整備                                      | コミッショナー G                | 35                         |
| 施策 2 社会課題の解決に貢献するプログラム開発に関する取り組み         |                                                          |                          |                            |
|                                          | 事業① 災害時に有用なスキルを習得するためのプログラムの開発の推進                        | 担当コミッショナー                | 36                         |
|                                          | 事業② 環境保全活動、社会貢献活動、SDGs プログラムの推進                          | コミッショナー G                | 37                         |
| 施策 3 時代の変化に即応したプログラムのあり方等に関する取り組み        |                                                          |                          |                            |
|                                          | 事業① スカウトにとって魅力ある ICT の活用                                 | コミッショナー G                | 38                         |
|                                          | 事業② プログラムのヒント・データベースの構築                                  | コミッショナー G                | 39                         |
| 基本施策Ⅳ より良き指導者の育成                         |                                                          |                          |                            |
| 施策 1 スカウティングを支える指導者への支援体制への取り組み          |                                                          |                          |                            |
|                                          | 事業① スカウティングにおける成人の関与のあり方の確立<br>「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用 | I-1-①、②<br>II-1-①、II-3-② | 10<br>12<br>14<br>23<br>30 |
|                                          | 事業② インサービス・サポートの適切な運用                                    | コミッショナー G                | 40                         |



|                                          |                               |                        |    |
|------------------------------------------|-------------------------------|------------------------|----|
| <b>施策 2 現代にマッチした効果ある指導者研修への取り組み</b>      |                               |                        |    |
| 事業①                                      | 時代に即した指導者研修の研究と実施             | コミッショナー G<br>トレーニングチーム | 41 |
| 事業②                                      | 魅力ある隊活動を実施できる指導者を育成する指導者研修の実現 | トレーニングチーム              | 42 |
| 事業③                                      | スカウトスキルのスタンダードの提示             | 県コミッショナー G             | 44 |
| 事業④                                      | 指導者カルテ、指導者研修歴の管理              | Ⅳ -2- ①                | 41 |
| 事業⑤                                      | 研修参加環境の調査と整備                  | 指導者養成委員会               | 45 |
| <b>基本施策 V 県連運営の適正化に関する取り組み</b>           |                               |                        |    |
| <b>施策 1 より良き事務局の実現への取り組み</b>             |                               |                        |    |
| 事業①                                      | 事務局業務の適正化（業務の整理と人員）と県連ルールの再確認 | 正副理事長                  | 46 |
| <b>施策 2 女性と青年の参画</b>                     |                               |                        |    |
| 事業①                                      | 全ての組織でのジェンダーバランスと青年参画のルール化の推進 | 理事会                    | 47 |
| <b>施策 3 全役員・委員の任務の確認</b>                 |                               |                        |    |
| 事業①                                      | 茨城県連の適正なる運営に向けた任務の確認と執行       | 理事会                    | 48 |
| <b>施策 4 指導者の任命、退任表彰の実施</b>               |                               |                        |    |
| 事業①                                      | 任務別指導者任命状、退任時の表彰状についての取り組み    | 県コミッショナー G             | 49 |
| <b>基本施策 VI 全てのスカウトが楽しく・愉快地に活動できる取り組み</b> |                               |                        |    |
| <b>施策 1 指導者の意識改革への取り組み</b>               |                               |                        |    |
| 事業①                                      | 「楽しい」スカウティングの実現（理解と普及）        | 県コミッショナー G             | 23 |
| <b>施策 2 スカウティングが積極的に参加したいと思える活動の実施</b>   |                               |                        |    |
| 事業①                                      |                               | 県コミッショナー G             | 23 |

## 2. 一般事業に関する取り組み

一般事業とは、重点施策以外の事業で、理事会、委員会等の会議、管理的事業等を除いたものを指します。

この一般事業は、原則として 2022（令和 4）年度の時点で計画・実行しているもので、2023（令和 5）年度以降も引き続き、そして時勢に応じて新たな取り組み事項を加えて実施するものです。

1. スカウトが自ら信仰心を持つとする気持ちを促進する。（団・隊）
2. 礼節とスマートネスについて、自ら考え、それを実行に移せるよう指導する。（団・隊）
3. スカウトの「日々の善行」を班・隊活動のほか、日常生活の中でも実施する意識を育てる。（隊）
4. スカウティングと地域との関係を考え、地域奉仕活動に他団体と共に積極的に参加する。（団）
5. 震災等の復興支援活動を、それぞれの単位で展開する。（団、地区、県連）
6. BVS・CS 部門からの上進率を高めるようプログラムを検討し展開する。（隊・団・地区）
7. 入団説明会の良き姿を団で考え、それに基づく支援ツールを開発、提供する。（地区、県連）
8. 指導者が参加したいと思う、各種訓練（BS講習会、WB 研修所、県定型訓練、県定型外訓練など）の内容を研修・企画・実施する。（コミ、TT、指養）
9. 楽しい「スキルトレーニング」を展開し、その活用を促して、スカウト・スキルを更に身に付けようという意識を促し、上級訓練への参加意識を醸成する。（地区コミ、TT）
10. 各種訓練やインサービス・サポートを通じて指導者の資質の向上を図る（指養・県コミ・地区コミ）
11. 県連規定等を随時見直し、時代に即した内容になるよう修正をする。（理事会、県コミG）
12. 県連・地区役員等や団・隊指導者層の高齢化の解消及び次期役員・指導者の育成（県連）

等。

## 2 事業の取り組み 2024 年度

### I. 茨城県連盟をより活気ある組織にするために

|        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 施策     | 1 スカウティングの在り方について再度共通理解をすること        |
| 事業     | ① 「スカウティングとは何か」を確認し、地区を通して団が正しく理解する |
| 主体委員会等 | ◎理事会、○県連役員、地区役員、地域連携・広報委員会、県コミッショナー |

### IV より良き指導者の育成

|        |                                                        |
|--------|--------------------------------------------------------|
| 施策     | 1 スカウティングを支える指導者への支援体制への取り組み                           |
| 事業     | ① スカウティングにおける成人の関与のあり方の確立<br>「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用 |
| 主体委員会等 | ◎理事会 ○コミッショナーG、指導者養成委員会                                |

重複 I-1-①、I-1-②、I-2-①、II-1-①、II-3-②の各項目と同じ

### ● 実施事業について

|                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 事業の方向性            | <p>① スカウティングとは、どんな仕組みで、どのようなスカウトを育て、どのように社会に貢献していく運動なのかを、まず県連理事会で確認し、それを地区・団に正しく伝えることで、改めて周知と共通理解を図る（キーワードは「愉快的スカウト」）。</p> <p>② 社会は、スカウティングに何を求めているのかを各自で明確に把握する。それを具現化するには、この組織・運動がどうあればいいのか（社会に対して我々は何ができるのか）を組織内検討・検証し、共通理解を図り、実行していく。</p> <p>③ 県連は、それらを地区を通して、正しく・愉快で・魅力があり、地頭を良くする多彩なスカウティングのプログラムのヒントとして提供していく。</p>                                                                                                                                                                                                                           |
| 2. 達成後の姿（その間に取り組むこと） | <p>④ スカウティングの基本原則（目的、原理、スカウト教育法）と、日本連盟の「教育の目的」「基本方針」等を正しく理解し、団・隊の運営に反映している。</p> <p>⑤ 日連方針を参考に、また地域の期待を取り込んだ、愉快（人に大きな喜びを与えるという意味）な県連の方針が、地区を通じて各団に正しく伝えられ、それを反映したプログラムや運営が成されている。</p> <p>⑥ 県連役員及び地区役員がそれぞれの任務を十分に理解し、団に対して十分な指導・支援ができています。</p> <p>⑦ AIS の「成人のライフサイクル」に則った、指導者の「採用」「任務遂行」「将来への判断」のプロセスが適正に執行されている。（四角四面ではなく、「スカウティングはゲームである」「愉快的スカウト」の実現。）</p> <p>⑧ スカウト達が等しく、ボーイスカウトの意図に沿ったプログラムを享受できている。</p> <p>⑨ 子どもをボーイスカウトに加入させるかの判断は、母親が大きく関わっている。そのことから、母親がスカウティングに何を期待し、何を求めているかを探るために「母親世代タスクチーム」を編成し、それを新規スカウティングの獲得や中途退団防止に繋げていく。I-1-①</p> |

|           | 2023                      | 2024                                                | 2025     | 2026 | 2027 |
|-----------|---------------------------|-----------------------------------------------------|----------|------|------|
| 年度の主な取り組み | <p>①②③④</p> <p>③企画・研究</p> | <p>①②③④</p> <p>①②③④</p> <p>③編集・発行</p> <p>④設置、展開</p> | <p>⑤</p> |      |      |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等       | 実 施 内 容                                                                   | 実施項目・成果                                   | 期間                             |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|--------------------------------|
| 理事会⑥         | ①理事会は地区委員長・県連役員に向けて、地区勉強会の準備のための理事勉強会を継続する。<br>⑦ 地区委員長の要望に基づいたテーマによる。     | ○地区委員長が行う「地区役員等に向けた地区勉強会」のために理事会勉強会を継続する。 | 継続 -'24/10<br>毎理事会の前<br>後      |
| 地区委員長⑥       | ①④⑤⑥地区委員会、地区協議会やラウンドテーブル等の機会を活用し、県連の事業の目的と目標、役員の取り組みと、各団での実践について、十分に周知する。 | ○何のための県連・地区なのか、団はなにをどうするのかを明確に伝える。        | 継続 '24/04-<br>地区総会、地<br>区委員会等で |
| 地広委⑥<br>県コミ⑥ | ②①「母親世代タスクチーム」を設置し、活動を開始する。                                               | ○地区は委員としての母親を選出し、チーム会合を実施。取りまとめて報告書を出す。   | 6月～11月                         |
| 総務委⑥         | ②社会は、スカウティングに何を求めているのかを確実に把握する                                            |                                           | -'24/8                         |
| コミ G ⑥       | ③正しく・愉快で・魅力があり、地頭を良くする多彩なスカウティングのプログラムのヒント集の企画・研究、そして編集・発行、配付             |                                           | 継続 -'24/12                     |

※ 「コミ G」と「県コミ G」「地区コミ G」の使い分け……

「コミ G」は、全てのコミッショナーを対象にしている、特に県コミ G が主導するもの

「県コミ G」は、県コミ G を対象

「地区コミ」は、地区コミ G を対象

# I. 茨城県連盟をより活気ある組織にするために

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 施策     | 1 スカウティングの在り方について再度共通理解をすること     |
| 事業     | ② スカウティングを推進する者としての気概の醸成（役員・指導者） |
| 主体委員会等 | ◎理事会、県コミッショナー G ○全ての役員           |

## IV より良き指導者の育成

|        |                                                        |
|--------|--------------------------------------------------------|
| 施策     | 1 スカウティングを支える指導者への支援体制への取り組み                           |
| 事業     | ① スカウティングにおける成人の関与のあり方の確立<br>「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用 |
| 主体委員会等 | ◎理事会 ○コミッショナーG、指導者養成委員会                                |

重複 I-1-①、I-1-②、I-2-①、II-1-①、II-3-②の各項目と同じ

### ● 実施事業について

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性            | <p>①指導者の採用については、AIS（Adult In Scouting World Policy）の「成人のライフサイクル」を適用し、また日本連盟の「指導者養成に関する指針」に則し、特に「III. 本運動に関与する成人指導者に求められる要件」を満たし、かつ、同方針「教育活動に関与する成人指導者の任務と要件」の「任務」を理解し、「就任時に備えていることを期待される知識・技能」を満たし、「就任後求められる努力目標」を達成していくことを、団委員会は確認する。</p> <p>②これにあたっては、地区、特に地区コミッショナー、団担当コミッショナーが十分に支援でき体制を整備する。</p> <p>③団・隊の会議、研修・セミナー等で、ことあるごとに「指導者が持っているスカウト精神」および「指導者としての気概」について共通理解を図ると共に、それを確認する。</p> <p>④指導者においては、その獲得したものを「隊長の背中」を以て示しながら確実に伝える。</p> <p>⑤すべての指導者に、県連機関誌（SC-IB NewsLetter）を2ヶ月毎に送付し、県連や日連の現在の動きや必要な情報を提供する。また、それを組織的に行えるよう、また保護者や地域を対象とした広報を展開できるよう、県連に広報を専門に行う部署（地域連携・広報委員会）を設置し、情報収集体制を構築する。</p> |
| 達成後の姿（その間に取り組むこと） | <p>⑥スカウト達が、多岐に亘る困難（チャレンジ）を伴う活動を班の仲間たちと楽しみながら取り組み、失敗しても何度もチャレンジし克服して、最後までやり遂げる活動が展開されることで、自信をつけ「僕は（私は）、スカウトなんだ!!」という気概をスカウト達が持っている。</p> <p>⑦そんな楽しい活動に、スカウト達は自らすすんで参加している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|           | 2023                                         | 2024                                | 2025     | 2026 | 2027 |
|-----------|----------------------------------------------|-------------------------------------|----------|------|------|
| 年度の主な取り組み | <p>②</p> <p>②</p> <p>①</p> <p>③</p> <p>⑤</p> | <p>②</p> <p>①</p> <p>③</p> <p>⑤</p> | <p>④</p> |      |      |

県連の取り組み  
地区の取り組み

団・隊の取り組み  
事業の開始

継続（区切り）  
実施期間

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等 | 実 施 内 容                                                           | 実施項目・成果                                   | 期間                    |
|--------|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------|
| 理事会④   | ②地区委員長・県連役員に向けて、地区勉強会の準備のための理事勉強会を継続する。<br>⑦ 地区委員長の要望に基づいたテーマによる。 | ○地区委員長が行う「地区役員等に向けた地区勉強会」のために理事会勉強会を継続する。 | 継続 -'24/10<br>毎理事会の前後 |
| コミ G ③ | ③ラウンドテーブルや地区の指導者の会合等で「指導者としての気概」について話し合い、それを地区や団に伝える              | ○指導者は、何をどうするのかを明確に伝える。                    | 継続 -'24/10            |
| 地広委⑤   | ⑤ SC-IB NewsLetter（県連機関誌）を 2 ヶ月毎に発行する。<br>（機関誌の位置づけを明確にする）        | ○理事会、各委員会、コミ、TT、事務局等に情報発信担当を設置し情報を入手する。   | 5 月～（奇数月の発行）          |

# I. 茨城県連盟をより活気ある組織にするために

|        |                                           |
|--------|-------------------------------------------|
| 施策     | 2 地域にスカウティングを普及させること、様々な団体等との連携を進めること     |
| 事業     | ① 地域連携・広報委員会を設置し、様々な団体や地域と連携したプログラム開発を推進  |
| 主体委員会等 | ◎理事会 ○総務委員会、地域連携・広報委員会、イベント国際委員会、コミッショナーG |

## IV より良き指導者の育成 (※関連項目)

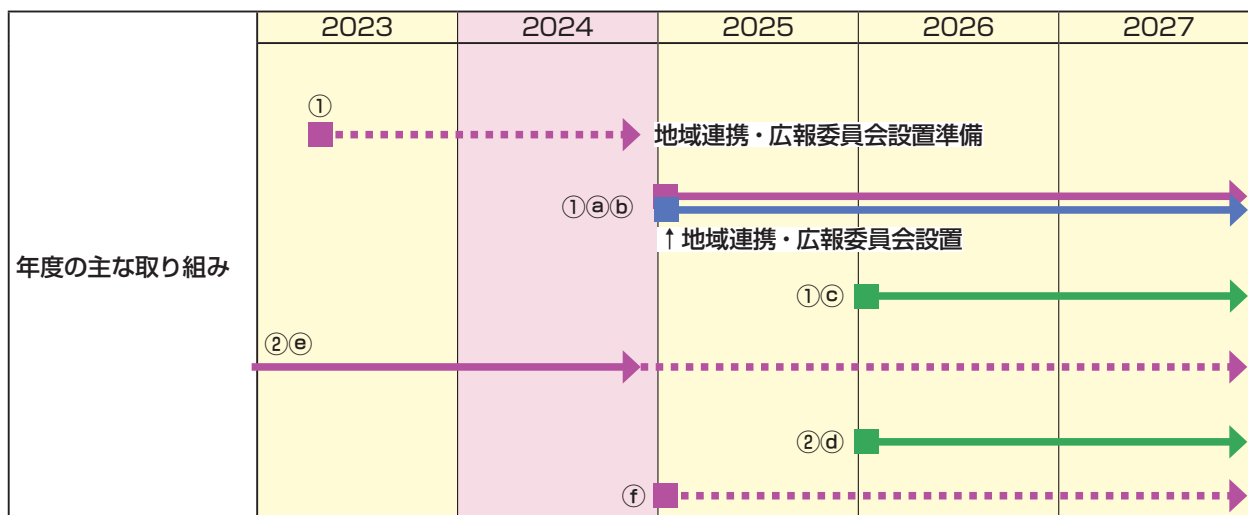
|        |                                                        |
|--------|--------------------------------------------------------|
| 施策     | 1 スカウティングを支える指導者への支援体制への取り組み                           |
| 事業     | ① スカウティングにおける成人の関与のあり方の確立<br>「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用 |
| 主体委員会等 | ◎理事会 ○コミッショナーG、指導者養成委員会                                |

重複 I-1-①、I-1-②、I-2-①、II-1-①、II-3-②の各項目と同じ

### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>①本格的な少子高齢化が進みつつある中、人口減少社会に突入した。興味や関心も多様化し、様々な団体が担い手や会員の減少といった私たちと共通の悩みを抱えている。このような状況にあって、地域の団体、社会課題の解決に取り組む団体や様々な企業と連携・相互協力関係を構築することがますます大切になってきているが、これまでの取り組みは、カブ・ビーバーラリーや県キャンポリーなどの大会における運営支援やプログラム提供等に限られていた。</p> <p>そこで、青少年育成団体や野外活動団体のみならず、町内会・自治会、消防団などの地域団体、そして、子どもの貧困、人権、気候変動、脱炭素などの社会課題の解決に取り組む団体などと相互に補完して地域に根差すスカウティングを目指す。</p> <p>②国連が国際目標であるSDGsを提唱し、社会全体でこのゴールへ取り組む必要がある。県連盟においてもSDGs、ESD（持続可能な開発のための教育）を意識したプログラムへの取り組みなど環境教育への取り組みなどを図っている。環境教育については、日本連盟での進級課題に位置付ける等の取り組みがないのであれば、県連独自のアワードを設けて、県内全てのスカウトが取り組めるような仕組みを構築し、意識醸成と活動化を推進する。</p> |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | <p>㊤茨城県連盟は、県や県内の様々な団体、企業との連携・相互協力関係の構築を進め、青少年の健全育成に寄与することはもちろんのこと社会課題の解決にも貢献する団体になっている。</p> <p>㊦地区、県連盟には、地域連携を担当する「地域連携委員会」が設置され、特に地域や学校、企業との連携を構築し、本運動が地域活動の担い手となっている。</p> <p>㊧スカウトの興味や関心に応じたプログラム開発にあたり、さらに様々な団体、企業と相互協力の関係を構築し、そのリソースの活用が積極的に行われている。</p> <p>㊨団においては、地域の様々な団体と連携したプログラムが日常的に行われており、地区にはそれらの事例を共有するための仕組みが構築されている。</p> <p>㊩県連盟において、SDGs、ESDの観点からプログラムとして取り上げるべき項目が整理され、プログラムの開発、提供が行われている。</p> <p>㊪スカウトが自分の住んでいる地域の特徴を学び、郷土愛を育むことを目的に県連盟として独自に地域の団体や企業と連携した、地域性のあるチャレンジ章や技能章を開発している。</p>                                                         |





※「地域連携・広報委員会」については、1年前倒しで設置した。

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等              | 実施内容                                                                                    | 実施項目・成果                                  | 期間                 |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------|
| 県コミ G ㊸<br>地区コミ G ㊸ | ② SDGs プログラムについて、地区コミ G が指導者に方向を示したり具体的なヒントを提示できるように、研究会を実施する（活動プログラムと家庭でのプログラムの両方を対象に） | 研究会の方向性の共通理解。<br>地区コミ研究→発表→共有。           | -2025.03           |
| 県コミ f               | ②㊸ SDGs プログラム勉強会（指導者向け）の開催準備<br>→実施は 2024 年度（4 半期に 1 回計 4 回）                            | 研修実施要項作成                                 | -2025.03           |
| 県コミ d<br>理事会 ㊸      | ② SDGs バッジの検討→承認（2024/4 月理事会）→<br>バッジ発注*（承認後）                                           | 日連規程クリア、バッジデザイン                          | 継続 '24/04          |
| イベ委 ㊸<br>コミ G ㊸     | ②「SC-IB SDGs アワード」の実施検討（実施は 2024）                                                       | 対象、内容、会場、予算化                             | 実施時期を決める           |
| 地広委 c               | ①㊸ まずは県コミ G の協力を得て委員会で、「スカウティングにおける地域連携」についての共通理解を図る。その上で、具体的にどんな地域連携活動があるのかを調査する       | 委員会での共通理解。<br>地域連携活動について、団の協力得て調査し、まとめる。 | 最初の委員会<br>-2024.10 |

\* SDGs バッジは、各団での必要数を事務局に注文してもらう。事務局はそれを集計しても更に今後 5 年程度を必要数をプラスして発注する（0303 常任理事会）。

## I. 茨城県連盟をより活気ある組織にするために

|        |                                       |
|--------|---------------------------------------|
| 施策     | 2 地域にスカウティングを普及させること、様々な団体等との連携を進めること |
| 事業     | ② スカウティングを正しく理解した、魅力&実力ある指導者の育成       |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナー G、総務委員会 ○トレーニングチーム、指導者養成委員会  |

## II 多くの人に関われたスカウティング

|        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 施策     | 2 中途退団を抑止する取り組み                |
| 事業     | ① スカウティングを正しく理解した、魅力ある指導者の育成   |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナー G ○トレーニングチーム、指導者養成委員会 |

### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>①現在の指導者研修は、必要な研修はほぼ計画されているが、なかなか参加に繋がっていない。基本的な対応は、I-1-①と②による。</p> <p>②もう1つ考えなくてはならないことが、トレーニングの質である。教本・指導要項に書かれていることを教えるのであれば、トレーニングチーム員である必要は無い。トレーニングチームは、指導者が、「生きた知識」「応用の利く技能」「目的を違わない精神」等を獲得できるよう、研修手法を研究し、また自らの経験に基づいた「知識」であり「技能」をブラッシュアップして教授することにより、指導者たちがそれをより理解し修得することで自信を持たせ、「ボーイスカウトの指導者」である自負に繋げていくことが大切である。</p> <p>③これらを実現していくためには、その基盤である「団」が指導者を獲得し育成していく、その支援の仕組み（AIS 成人のライフスタイル）が構築されていることが重要である。そのために団が AIS 方針に従った運営がなされるように支援をしていく。</p> <p>④これについては、団の意識改革が伴うため、県連・地区において「AIS ポリシーにおける団運営セミナー」を実施し、またコミッショナーのインサービス・サポートによる支援を強めていく。同時に団や隊指導者が分かりやすく、取り組み意識を高められる啓蒙資料を作成配布する。</p> |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | <p>⑤数値目標は示したくはないが、指導者の研修修了率は対象指導者の 60% を超えていること。そのような、指導者が参加したいと思わせる研修を企画・実施している。</p> <p>⑥⑦単に教えるだけでなく、具体的に「やってみせる」ことに重きが置かれている。④また、参加者たちが引き込まれていく「話術・アクション」をトレーニングチーム員が獲得しており、⑤それを遺憾なく発揮した研修を全てのトレーニングチーム員が実施している。</p> <p>⑧⑥の「やってみせる」ために、自主トレ（自己研修、実証等）を十分に重ねていること。</p> <p>⑨⑥⑧については、トレーニングチーム内（ワークショップ等）で共有されていること。</p> <p>⑩③④によって、団の価値が地域社会や保護者に見出され、安定した団運営に繋がっている。</p>                                                                                                                                                                                                                                |

|           | 2023                                               | 2024                                                       | 2025                     | 2026          | 2027          |
|-----------|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|--------------------------|---------------|---------------|
| 年度の主な取り組み | <p>①a 20%</p> <p>②bア</p> <p>②c④</p> <p>④啓蒙資料作成</p> | <p>①a 30%</p> <p>②bイ</p> <p>④インサービス・サポート</p> <p>④説明会実施</p> | <p>①a 40%</p> <p>②bウ</p> | <p>①a 50%</p> | <p>①a 60%</p> |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等                  | 実 施 内 容                                                                                            | 実施項目・成果     | 期間                         |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|----------------------------|
| 総務委員会⑥<br>県コミ G ①       | ④「AIS ポリシーにおける団運営セミナー」用の資料を作成し、同セミナーを実施する。                                                         |             | 資料 '24/04-<br>セミナー '24/09- |
| 地区委員長⑥<br>地区コミ⑥         | ④地区においても「AIS ポリシーにおける団運営セミナー」を実施する。                                                                |             | '24/09-                    |
| コミ G ①<br>TT ⑥、<br>指養委⑥ | ①スカウティングを取り巻く今の社会情勢を俯瞰して見て、現在の指導者研修の内容について、新たな視点で変えていいモノ、変えてはいけないモノを再検証をし、指導者が求めている研修を構築していくための協議。 |             | '24/4-'24/10               |
| コミ G ①<br>TT ⑥、<br>指養委⑥ | ②（上記を受けて）現在の県定形外訓練の見直し及び改訂を行う。<br>研修の時期、時間等タイムスケジュールの見直し<br>参加者が求めているニーズの発掘について、研究を行う              |             | 継続 '24/04-                 |
| 指養委⑥<br>主任講師、<br>(TT)   | ①これまでの味気ない研修案内ではなく、主任講師の思いを伝える、指導者の興味を引きつける研修案内を作成していく。                                            |             | 継続 '24/04-                 |
| 指養委⑥                    | ②③研修参加率の集計と公表                                                                                      | 年度集計 '24/03 | '-24/04                    |
| TT ⑥                    | ②③④ より良い研修実施のための自主トレの実施                                                                            |             | 継続 '24/04-                 |
| 県コミ G ⑥<br>地区コミ G ⑥     | ④団や隊の指導者が理解しやすいチャートや事例を掲載したインサービス・サポートの資料を作成し、それを基に地区において説明会を実施する。                                 |             | 資料 '24/04-<br>説明会 '24/09-  |

県連の取り組み  
地区の取り組み

団・隊の取り組み  
事業の開始

継続（区切り）  
実施期間

## I. 茨城県連盟をより活気ある組織にするために

|        |                                       |
|--------|---------------------------------------|
| 施策     | 2 地域にスカウティングを普及させること、様々な団体等との連携を進めること |
| 事業     | ③ 地域の青少年に体験活動を提供する取り組み                |
| 主体委員会等 | ◎地域連携・広報委員会 ○地区代表理事、地区コミッショナー         |

## II 多くの人に関わったスカウティング

|        |                                   |
|--------|-----------------------------------|
| 施策     | 1 新規加盟員獲得に向けた取り組みをすること            |
| 事業     | ④ 地域の青少年に体験活動を提供する取り組み            |
| 主体委員会等 | ◎プログラム委員会 ○地区代表理事、総務委員会、地区コミッショナー |

### ● 実施事業について

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性            | <p>① 2020 年度から「わくわく自然体験遊び」を、新型コロナウイルス感染症の影響により閉塞感等を感じている青少年を対象に自然の中で心身ともにリフレッシュできる自然体験活動を引き続き実施しているが、それと同様のものを団の事業として実施する。（それをスカウトの募集活動につなげる）</p> <p>② これまで、県連盟から各団に対して新規加盟員獲得に関する進め方等を体系的に示したことはなく、それに対する支援はごく一部にとどまっていた。また、ノウハウが無い、指導者不足等を理由として新規加盟員獲得のための活動を行っていない団もあることから、地区の主導の下に団の維持・発展への支援を行う。（I-2-②-③④に関連）</p>                                                                                                                                                                 |
| 達成後の姿（その間に取り組むこと） | <p>⑤ 地域でスカウティングの認知度を高める活動（例：わくわく自然体験遊び）は、結果として加盟員の増加に繋がるとの前提に立ち、この事業を団での地域貢献活動としても位置づけ、年間1回の開催をしている。</p> <p>⑥ 全ての団で年間1回は開催することを実現するためにエントリーシステムの改善、（仮称）「自然体験の進め方マニュアル」の作成など団への支援がより充実している。</p> <p>⑦ 団における新規加盟員獲得のための標準的な進め方、手法、ツールの開発を行い、全ての団で年間に複数回の募集活動が行われている。</p> <p>⑧ 2013 年1月の中央教育審議会から答申された「今後の青少年の体験活動の推進について」よれば、体験活動は、お手伝いや地域の年中行事などの「生活・文化体験活動」、登山やキャンプ、星空・動植物観察などの「自然体験」、ボランティア活動やインターンシップなどの「社会体験活動」の3つに類型される。「自然体験」に軸足を置きつつも、地域との協働による年中行事での体験活動やボランティア活動の体験も提供している。</p> |

|           | 2023                         | 2024                                    | 2025                 | 2026 | 2027 |
|-----------|------------------------------|-----------------------------------------|----------------------|------|------|
| 年度の主な取り組み | <p>①⑥ マニュアル作成</p> <p>②③④</p> | <p>①②③</p> <p>②③④ 繰り返し支援</p> <p>②③④</p> | <p>①② ワクワクの団での実施</p> |      |      |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等                      | 実 施 内 容                                                                                                                      | 実施項目・成果      | 期間                           |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------------------------------|
| 地広委④<br>県コミ G ①             | ①④⑥「わくわく自然体験遊び」を団で実施できるように「自然体験の進め方マニュアル」を作成する。<br>○地区代表理事、地区コミッショナーに説明する。                                                   | ハンドブックの作成→配付 | 継続 -'24/06<br>'24/06-        |
| 地区委員長④<br>地区コミ④             | ①④そのハンドブックを活用して、地区内の団が単独で「ワクワク自然体験遊び」を実施できるように、地区で検討会を実施する。*                                                                 |              | '24/07-                      |
| 地区コミ⑤<br><br>コミ G ①<br>地広委⑤ | ④ラウンドテーブルで、地域の行事（子供会、お祭りなど）とボーイスカウトとして如何に関わっているかについて良い事例を聴取り、それを県連としてまとめる。<br>②④地域にボーイスカウトを知ってもらい、根付かせるためのヒント集として、各団に編集配付する。 |              | 継続 -'24/7-<br><br>発行 -'24/10 |
| 地広委⑥<br>コミ G ⑥、<br>事務局⑥     | ②④団の募集活動を支援するツールを作成する。<br>(スカウト数が多い団の事例の紹介、募集ツールなど)                                                                          |              | -'24/01                      |

\*ワクワクの実施支援金については、団に ¥10,000 を交付、地区やグループでの開催については ¥0 とする。  
これは「団」での実施を推進するための措置（0303 常任理事会）

# I. 茨城県連盟をより活気ある組織にするために

|        |                                                                  |
|--------|------------------------------------------------------------------|
| 施策     | 2 地域にスカウティングを普及させること、様々な団体等との連携を進めること                            |
| 事業     | ④ スカウト運動のブランディング（価値やイメージを高く認知してもらうために行う取り組み）と地域への恒常的に情報を発信する取り組み |
| 主体委員会等 | ◎地域連携広報委員会 ○地区代表理事、各種委員会                                         |

## ● 実施事業について

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |         |      |      |      |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------|------|------|
| 事業の方向性            | ① 2015 年に茨城県連盟イメージキャラクター・ロゴを作成し、イメージ戦略に着手した。これをスカウティングと社会の架け橋としてさらなる活用をしていく。<br>② 公式 Web サイトを通じての情報発信に加えて、公式 SNS アカウントとして、2015 年 facebook を開設し、情報発信を行ってきた。しかし、その発信担当は他役務との兼務のため十分な対応ができていなかった。今後は、Instagram 等の SNS などのツールにより、更に地域社会に向けてボーイスカウトを存在と内容を認知させていくことが重要となるので、専門のチームを発足させることが必要と考える。<br>③ 茨城県連盟のホームページを、青少年プログラムの発信基地とする。<br>④ その運用を地域連盟・広報委員会を中心に、各事業実施部門が分担して行う等、組織的に発信できるようにする。 |         |      |      |      |
| 達成後の姿（その間に取り組むこと） | ⑤ 茨城の「スカウティング」のブランドイメージを確立し、それが広く普及されている。<br>⑥ スカウティングの理念が広く世間に周知されており、そこで獲得できる様々なスキルや優位性を社会や企業に認知されている。スカウティング経験者は、社会に有用な人材であると認知がされている。<br>⑦ 公式 Web サイトや SNS などを通じて、スカウト運動の公益性や魅力を発信している。                                                                                                                                                                                                 |         |      |      |      |
| 年度の主な取り組み         | 2023                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 2024    | 2025 | 2026 | 2027 |
|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ①       |      |      |      |
|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ② a b c |      |      |      |
|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ③       |      |      |      |
|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ③ ④     |      |      |      |

※「地域連携広報委員会の設置・稼働に合わせて、年度取り組みのスケジュールを変更。」

2024 年度実施事項（赤字字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等 | 実施内容                                         | 実施項目・成果   | 期間      |
|--------|----------------------------------------------|-----------|---------|
| 地広委⑨   | ① 県連キャラクター「スカウトくん」ロゴの地区・団への提供                | 電子ファイルで配布 | '24/06- |
| 地広委⑨   | ② 県連インスタ開始。<br>地区に広報担当者を置き、県連インスタを活用して活動を発信。 |           | '24/07- |
| 地広委①   | ③ 県連ホームページのデザイン修正、コンテンツ整理                    | スマホ対応含む   | '24/04- |
| 地広委①   | ④ 理事会、各委員会、コミ、TT、事務局等に情報発信担当を設置し情報を入手する。     |           | '24/04- |

→ 1-2-①も同様





## I. 茨城県連盟をより活気ある組織にするために

|        |                                       |
|--------|---------------------------------------|
| 施策     | 2 地域にスカウティングを普及させること、様々な団体等との連携を進めること |
| 事業     | ⑤ 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立            |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナー G ○地域連携・広報委員会、IVY リーグ        |

## II 多くの人に開かれたスカウティング

|        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 施策     | 2 中途退団を抑止する取り組み                |
| 事業     | ② 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立     |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナー G ○地域連携・広報委員会、IVY リーグ |

### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>①保護者がこの運動の意義や魅力を理解することこそ中途退団の減少の解決、新規加盟員の獲得に繋がる。そのために、これまでの機関誌とは異なり、保護者が知りたい情報、スカウティングの問題の解決のヒントとなる、県連（地区・団）と保護者を繋ぐ新たな機関誌を企画・発行する。</p> <p>②また、保護者のニーズを聴取し、それを基に地域に向けた活動プログラムを開発し、その成果とともに、ボーイスカウト運動の趣旨を届ける広報誌を企画・発行する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | <p>③それぞれ部門の保護者層に向けて、スカウト運動の意義や魅力、活動によって得られる資質や力を伝える情報が、Web サイトや機関誌を通じて、提供されている。</p> <p>④機関誌や広報誌は、電子出版化されて、作成費用の軽減と、配付・配信の簡易化が成されている。</p> <p>⑤ ZOOM や Youtube 等を活用した、日常生活やスカウト成長に役立つスカウティング・スキルの活用番組を作成し・配信することで、保護者等にスカウティングの魅力を伝えている。</p> <p>⑥ IVY リーグでは、各団の BVS-BS のスカウトがいつかはやりたい活動（プロジェクト、海外遠征、ハイアドベンチャー、環境保全活動、SDGs など）が行われており⑦、それを伝える PR チームが発足し⑧、ローバーのスカウティングの魅力を発信することで、地域ローバーや県連ローバーが活発になっている。</p> <p>⑨「地域から認知されるボーイスカウト」を目指した広報誌が発行され、地域とのリレーションに役立っている。</p> <p>⑩「母親世代タスクチーム」を設置し、それを新規スカウティングの獲得や中途退団防止に繋げていく。I-1-①</p> |

|           | 2023 | 2024                                                            | 2025       | 2026 | 2027 |
|-----------|------|-----------------------------------------------------------------|------------|------|------|
| 年度の主な取り組み |      | <p>①a</p> <p>①b</p> <p>①c</p> <p>①d⑦</p> <p>②</p> <p>③編集・発行</p> | <p>①d⑧</p> |      |      |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等                  | 実 施 内 容                                                                                | 実施項目・成果                                 | 期間              |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------|
| コミ G ㊦<br>総務委㊦、<br>地広委㊦ | ㊦ ② どんなボーイスカウトだったら子どもを参加させるかを徹底的に検討する。                                                 | 母親世代タスクを活用                              | 継続 -'24/11      |
| コミ G ㊦<br>総務委㊦、<br>地広委㊦ | ㊦ ① 保護者に最も良く情報が伝わる媒体は何か、保護者はボーイスカウトの何を知りたがっているかを調査する。                                  |                                         | '24/04-         |
| 地広委㊦                    | ㊦ ⑤ SC-IB NewsLetter（県連機関誌）を 2 ヶ月毎に発行する。<br>（機関誌の位置づけを明確にする）                           | ○理事会、各委員会、コミ、TT、事務局等に情報発信担当を設置し情報を入手する。 | 5 月～（奇数月の発行）    |
| 地広委㊦                    | ㊦ ⑤ SCOUTING 茨城（県連広報誌）を年 2 回に発行する。<br>（広報誌の位置づけを明確にする）                                 | ○同上                                     | 5 月、12 月<br>発行か |
| 地広委㊦<br>県コミ㊦            | ㊦ ② ㊦ 「母親世代タスクチーム」を設置し、活動を開始する。                                                        | ○地区は委員としての母親を選出し、チーム会合を実施。取りまとめて報告書を出す。 | 6 月～ 11 月       |
| RS 担当コミ<br>IVY リーグ㊦     | ㊦ ① ㊦ ㊦ IVY リーグでは、各団のスカウトがいつかはやりたい活動（プロジェクト、海外遠征、ハイアドベンチャー、環境保全活動、SDGs など）が企画・計画されている。 | ○当面は、茨ロー会の活動が正常化するまで、見守っていく。            | -25/03          |

## Ⅱ 多くの人に関かれたスカウティング

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 施策     | 1 新規加盟員獲得に向けた取り組みをすること      |
| 事業     | ① 団・隊組織の正常化と、団・隊指導者の資質の向上   |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナー G ○総務委員会、トレーニングチーム |

## Ⅳ より良き指導者の育成

|        |                                                        |
|--------|--------------------------------------------------------|
| 施策     | 1 スカウティングを支える指導者への支援体制への取り組み                           |
| 事業     | ① スカウティングにおける成人の関与のあり方の確立<br>「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用 |
| 主体委員会等 | ◎理事会 ○コミッショナーG、指導者養成委員会                                |

## Ⅳ 全てのスカウトが楽しく・愉快地に活動できる取り組み

|        |                                      |
|--------|--------------------------------------|
| 施策     | 1 指導者の意識改革への取り組み                     |
| 事業     | ① 「楽しい」スカウティングの実現（理解と普及）             |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナーG ○トレーニングチーム、地区代表理事、指導者養成委員会 |
| 施策     | 2 スカウティングが積極的に参加したいと思える活動の実施         |
| 事業     | ① 「スカウティングはゲームである」の実現（理解と普及）         |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナーG ○トレーニングチーム、地区代表理事、指導者養成委員会 |

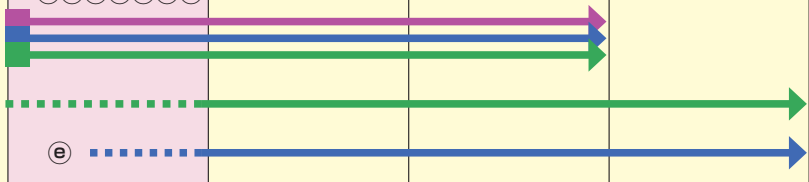
### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>①新規加盟員を獲得しても、その期待に応えられる組織でなければならない。そのため、まず日連教育規定の、団は3-7～3-15を、隊は3-16～3-82の各条文について検証し、団・隊が求められている姿に可能な限り近づけていく。規程5-2(3)に「地区は、各団の独立と主導性を妨げることなく」とあるが、ここで言う「独立と主導性」とは、本来あるべき姿が実現されて初めて成り立つことである。各団はまず条文の内容に沿った団運営を目指すことを第一に考え、実施していく。</p> <p>②そのためには、地区及び地区コミッショナーが、まずは団とその方向性について協議し、必要かつ求められる指導・支援を確認しそれを行う。そして、期限を区切って評価する。</p> <p>※①②については、I-2-②の③④についても確認すること。</p> <p>③また、団の運営にあたっては、広く育成会員（保護者）の協力を仰ぎ、地域との関係づくりを怠らないようにしていく。</p> <p>④また、1つの団で複数の隊を維持することが難しいのであれば、地区内の近隣の団で、A団はカブ隊、B団はボーイ隊というような、部門に特化した団を作ると言うことも考える。</p> <p>⑤楽しい隊活動を行うには、指導者自身が隊活動の「楽しさ」「愉しさ」を体験し、その方向を理解していることが大切である。</p> <p>⑥スカウティングにおける「ゲーム」の位置づけと在り方について理解し、それを隊活動等で実践できる。</p> |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | <p>①団指導者、隊指導者がそれぞれ自分の任務について理解しており、前向きにかつ積極的に責任を持って取り組んでいる。</p> <p>②指導者が、必要かつ十分な研修に参加しており、活動を輝かせられる知見を有して、それを活動で発揮できている。</p> <p>③各団の運営及び各隊の活動が、スカウトや保護者から評価されて、その良き評判が地域に浸透している。</p> <p>④魅力あるプログラムが活動デンリーダー展開されており、スカウト達がスカウト精神を持って対班競点や「行うことで学ぶ」ことを体現し、自ら積極的に活動を楽しんでいる。</p> <p>⑤地域の実情に応じた、柔軟な活動が活発に行われている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

県連の取り組み  
地区の取り組み

団・隊の取り組み  
事業の開始

継続（区切り）  
実施期間

|           | 2023 | 2024                                                                                            | 2025 | 2026 | 2027 |
|-----------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|------|
| 年度の主な取り組み |      | ①②③⑤⑥⑧a d<br> |      |      |      |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等                     | 実施内容                                                                                    | 実施項目・成果                            | 期間                         |
|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|----------------------------|
| 地区代表理事㉔<br>地区コミ G ㉕        | ①この運動に求められている「新規加盟員の保護者の期待」を調査し確認する。同時にこの運動が求めている団（組織・指導者・運営）を確認し、より良い団を目指するという意識を醸成する。 |                                    | 継続 '25/03                  |
| 地区委員長㉖<br>地区コミ G ㉗         | ①ボーイスカウトの組織が求めている団・隊の姿を、全ての指導者が知るための「地区勉強会」を計画・実施、それを団・隊指導者に伝える。                        | 地区・団勉強会の開催。                        | 継続 '24/06-                 |
| 地区委員長㉘                     | ①㉔㉕㉖地区委員会、地区協議会やラウンドテーブル等の機会を活用し、県連の事業の目的と目標、役員の取り組みと、各団での実践について、十分に周知する。               | ○何のための県連・地区なのか、団はなにをどうするのかを明確に伝える。 | 継続 '24/04-<br>地区総会、地区委員会等で |
| コミ G ㉙<br>TT ㉚             | ② AIS 指導者のライフサイクルに、研修体系を組み合わせて、その指導者の役割に必要な研修を明確にする。                                    |                                    | 継続 '24/04-                 |
| 地区委員長㉛<br>地区コミ㉜            | ①地区においても「AIS ポリシーにおける団運営セミナー」を実施する。                                                     |                                    | '24/09-                    |
| TT ㉝<br>コミ G ㉞             | ② WB 実修所への参加を促すために、「第1教程（課題研究）勉強会」を定期的実施するための、カリキュラムを策定する。                              |                                    | 継続 '24/9/1<br>に実施予定        |
| 県コミ G ㉟<br>地区コミ㊱<br>地区委員長㊲ | ⑤指導者に「楽しい」「うれしい」を体験してもらうための研修である「BLT キャンプ」を実施する                                         | ○スカウティングの楽しさとは何かを明確にする。            |                            |
| 県コミ G ㊳<br>TT ㊴<br>地区委員長㊵  | ⑥指導者研修においては、指導者の位置づけと役割を強調し、同時に研修の中に「スカウティング・ゲーム」を取り入れる。                                | ○ゲームを取り入れることで、スカウティングの教育の方法を理解させる。 |                            |
| 地区コミ㊶                      | ②㉕㉖団が地域や保護者が求めている「団の価値」について、地区コミから説明し、定着を狙う。                                            |                                    | '24/04-                    |
| 地区コミ㊷                      | ㉕「団の価値」を生み出すための行動として、団が指導者を必要な指導者研修に送り出している。                                            |                                    | '24/06-                    |

## Ⅱ 多くの人に関かれたスカウティング

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 施策     | 1 新規加盟員獲得に向けた取り組みをすること        |
| 事業     | ② ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取り組み      |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナー G ○指導者養成委員会、プログラム委員会 |

### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>①当初ビーバーは、年長児～小学 1 年生を対象としており、その年代を対象としたプログラムが提供されていた。しかし、現在はビーバースカウトの対象は小学 1 ～ 2 年生が対象になっており、そのプログラムは旧態依然でビーバーの年代の母親の期待や要望を満たせなくなっている。さらに日連ではビーバー部門を「遊育エントリー部門」と位置づけており、保護者の意識・希望との乖離が更に大きくなっている。それによって、ビーバースカウトの魅力が大きく低下していることは否めない。そこで、スカウト達が将来のために身に付けさせたい「原体験→生きる力」の意義と必要性を保護者に理解させると同時に、この年代でなければ獲得が難しい能力を身に付けることができる「スカウトならではのプログラム」の開発と、その実施をしていく。</p> <p>②ビーバースカウトは、年長児の 1 月から仮入隊が可能となるが、このタイミングでは、小学校の入学直前となり、保護者の意識がどうしても学校に向けられてしまっている。そのため、日連規程に抵触しないで、更に前倒して活動に参加できるしきみを構築する。</p> <p>③それを実現するためのビーバー隊指導者に向けた、勉強会・研究会・研修を展開する。</p> |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | <p>①a「ビーバー年代の、自然に触れる体験が、五感を刺激し脳の前頭連合野を活性化して、その結果、考えたり工夫したり、物事を実行したりする力が高まり「地頭がよくなる（HQ が高くなる）」活動の意味が保護者に十分に認識され、ビーバーの活動が評価されている。</p> <p>②b「その「地頭」育成に効くプログラムがビーバー隊で実施されていることを保護者が知っている。</p> <p>③c「幼稚園年長児 4 月から、活動に参加できる仕組みを作られ、実施している。</p> <p>④d「自然に触れる活動は、キャンプの中で大きく培われることが分かっているため、必要な研修を修了し、一定の条件をクリアすることで、ビーバー隊のキャンプができるようになっている。</p>                                                                                                                                                                                                           |

|           | 2023 | 2024                                                                                                                                                                                                        | 2025                                            | 2026 | 2027 |
|-----------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|------|------|
| 年度の主な取り組み |      | <p>①a「地頭がよくなる（HQ が高くなる）」ビーバープログラムを研究し、ビーバープログラムのヒント集を編集する。</p> <p>②b「地頭がよくなる（HQ が高くなる）」ビーバープログラムを実施していることをいろいろな機会地域に広報する。</p> <p>③c「年長 4 月からビーバー活動ができるような方策を考え理事会の承認を得る。」</p> <p>④d「ビーバープログラム研究会」を実施する。</p> | ①b「その「地頭」育成に効くプログラムがビーバー隊で実施されていることを保護者が知っている。」 |      |      |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等                  | 実施内容                                                                              | 実施項目・成果                    | 期間         |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|------------|
| コミ G ⑤<br>TT ①          | ① a「地頭がよくなる（HQ が高くなる）」ビーバープログラムを研究し、ビーバープログラムのヒント集を編集する。                          | ヒント集の原稿作成                  | 継続 -'24/11 |
| コミ G ⑥<br>地広委①、<br>進歩委② | ① b「地頭がよくなる（HQ が高くなる）」ビーバープログラムを実施していることをいろいろな機会地域に広報する                           | 機関誌、広報紙、団の広報大使等            | 継続 -'25/03 |
| コミ G ⑦<br>総務委③          | ② c「年長 4 月からビーバー活動ができるような方策を考え理事会の承認を得る。」                                         | 県コミタスクチーム                  | 継続 -'24/10 |
| 県コミ G ⑧<br>TT ②、指養委④    | ③ d「ビーバープログラム研究会」を実施する。                                                           |                            | '24/10-    |
| コミ G ⑨<br>TT ③、<br>指養委⑤ | ④ d「ビーバーキャンプを実現するための研究をする。2024 年度から対応できる団でビーバーキャンプができるように、指導者研修を実施、団の支援条件を明確にする。」 | 「野営法研究会・ビーバーのキャンプ」第 2 弾の実施 | 期日未定       |

## Ⅱ 多くの人に関かれたスカウティング

|        |                                         |
|--------|-----------------------------------------|
| 施策     | 1 新規加盟員獲得に向けた取り組みをすること                  |
| 事業     | ③ ボーイスカウト隊以上で新規加盟員、カブ隊からの上進スカウトを増やす取り組み |
| 主体委員会等 | ◎県コミッショナー、コミッショナー G ○総務委員会              |

### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>①これまで、スカウティングへのエントリーはビーバー・カブで行われるものという意識が強かった。また、ボーイ隊、ベンチャー隊の班制度、進歩制度は中途入隊者を想定していないものであり、現在の6年生からのボーイ隊では、中学入学の準備や中学校での部活動への対応から、以前の小学5年生時代に比べて大幅に新規加盟員が減っている。それを解消する取り組みを実施する。</p> <p><del>②ベンチャー隊については、進歩制度が入隊におけるネックとなっていると考えられるので、それを解消する。(これについては、日連において制度改正がなされ解決した。)</del></p> <p>②カブ隊からボーイ隊への上進率が大きく低下している。その原因を調査・解明し、対策を講じる。そのために「BS上進タスクチーム」を設置して、その原因を調査・解明していく。</p> |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | <p>③各団で、ボーイスカウト隊、ベンチャースカウト隊のスカウトを対象に新規加盟員獲得のための募集活動が行われ、入隊するスカウトが増えている。</p> <p><del>④ボーイスカウト隊、ベンチャースカウト隊からでも入隊しやすいような進歩制度やプログラムが提案され⑤、提供され、⑥改善され⑦ている。</del></p> <p>③「CS→BS上進タスクチーム」を県コミッショナーの下に設置し、その原因を調査・解明し、それを団・隊運営に反映したことで、CS→BSの上進率が上がっている。</p>                                                                                                                              |

|           | 2023                    | 2024                       | 2025       | 2026 | 2027 |
|-----------|-------------------------|----------------------------|------------|------|------|
| 年度の主な取り組み | <p>①a, ②</p> <p>①bア</p> | <p>①bイ</p> <p>②c 上進タスク</p> | <p>①bウ</p> |      |      |

2024年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等         | 実施内容                     | 実施項目・成果 | 期間          |
|----------------|--------------------------|---------|-------------|
| 総務委①<br>コミ G ⑧ | ①a BS, VS を対象とした募集活動の研究  |         | 継続 - '25/03 |
| イベ委②<br>コミ G ⑨ | ① BS, VS の募集に繋がるイベントの研究  |         | 継続 - '25/03 |
| 県コミ③           | ②c 「CS→BS上進タスクチーム」の設置と稼働 |         | '24/04-     |
|                |                          |         |             |
|                |                          |         |             |





## Ⅱ 多くの人に関かれたスカウティング

|        |                          |
|--------|--------------------------|
| 施策     | 2 中途退団を抑止する取り組み          |
| 事業     | ③ スカウトにとって魅力あるスカウティングの実現 |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナー G ○プログラム委員会     |

### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>①スカウトがこの運動の楽しさや魅力を実感し、積極的に関わることこそが、中途退団の抑止となる。そんなプログラムを実施する。そのためには、スカウトが「憧れ」そして「魅力」ある指導者の育成することが大切である。魅力あるとは、立ち居振る舞い、着こなし等のスマートネス、プログラム展開はもちろん、「想定とストーリー」を例にとると、いかにスカウトがそれぞれの立場で「主人公」を演じることができるよう関わっていくか、ストーリーがやり甲斐を繋げられるか、そんな関わりができる指導者でもある。</p> <p>②プログラムに関しては、それぞれのスカウトが背伸びしてようやく手が届くレベル、また、班の仲間力を合わせて達成できるレベルでの「チャレンジ」「チームでの対応」が必要なものを提供し、それを主体的に攻略し、実施することで、それぞれのスカウトが達成感から自信に繋がり、自分が成長したと感じられる、そんなプログラムのヒントを継続的に提供する。</p> <p>③スカウティングの大きな魅力のもっと大きなものは「仲間」の存在である。スカウティングはその多くがスカウトがスカウトから教わる仕組みがあることで、それにより班の仲間意識が高まり、それが班に貢献しようという意識を育て、班で実行することは、それぞれのポジションの大切なチームワークの大切さを学び、また行うことで自信が生まれ、失敗すれば思いやりの心と再挑戦するという気概を生み出すコトに繋がっている。このような班が育つよう、指導者を支援していく。</p> |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | <p>④スマートな魅力あるスカウトがたくさん育っている。</p> <p>⑤それぞれの部門のスカウトが、進んで参加し、上進するという意識が普通になっている。また、進んで進級課目に取り組み、菊章、隼章、富士章になるということが当たり前になっている。その結果、菊章、隼章、富士章に取り組むスカウトを、多数(数値目標は?)輩出している。</p> <p>⑥毎年、部門別の(仮称)「プログラム成果発表会」が開催され、全ての隊からプログラムの発表があり、それが発表会に参加した指導者やスカウトに共有され、触発されて、自隊でも展開されている事例が出ている。</p> <p>⑦今(2022)では途絶えてしまった「富士スカウト顕彰」「代表表敬」が毎年開催されている。</p> <p>⑧ラウンドテーブルでは、常に指導者の位置づけやプログラム研究が行われており、また指導者が持つべき意識が醸成されている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                            |

|           | 2023       | 2024                              | 2025       | 2026       | 2027       |
|-----------|------------|-----------------------------------|------------|------------|------------|
| 年度の主な取り組み | <p>①②③</p> | <p>(a)</p> <p>(c)</p> <p>(d)①</p> | <p>(d)</p> | <p>(d)</p> | <p>(d)</p> |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等             | 実 施 内 容                                                                                                        | 実施項目・成果          | 期間                     |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|------------------------|
| コミ G ㉗<br>地区コミ G ㉘ | ①, ②, ㉙ラウンドテーブルは、指導者育成、プログラム開発を組み込み、その実行案を作って、ラウンドテーブルに臨む。                                                     |                  | 継続 -'25/03             |
| 進歩委㉚               | ③塾や習い事などで、スカウトが班活動に割くことの出来る時間がほぼなくなりつつある。スカウト活動を隊集会だけで終わらさないための研究（ITC の活用を含む）をし、（Online でもいいので）班活動が成立する仕組みを作る。 | IVY-League の活用を  | -'24/11                |
| 進歩委㉛<br>コミ G ㉜     | ㉞進級意識調査（スカウト向け、指導者向け）を行うための項目と実施方法について協議する。                                                                    |                  | 継続 -'24/06             |
| 進歩委㉝               | ㉟ベンチャー「プログラム成果発表会」に向け、各団にそれを指示し、実施する。（これは県連 SDGs アワードと同時開催とする。）                                                | IVY-League の活用を  | 継続 -'24/-、実施 '24/11/30 |
| 進歩委㊱               | ㊲㉟富士スカウト顕彰を実施する（ベンチャープロジェクト成果発表、SDGs アワードと同時開催も考える）。                                                           |                  | 実<br>施 '24/11/30       |
| 進歩委㊳               | ㊴㉟富士章受賞スカウトの県知事表敬を実施する                                                                                         | 連盟長の同席を求め日程を調整する |                        |

## Ⅱ 多くの人に関かれたスカウティング

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 施策     | 3 スカウティングを支える成人を増やす取り組み |
| 事業     | ① 維持会員登録推進と情報発信の取り組み    |
| 主体委員会等 | ◎総務委員会                  |

### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                   |      |      |      |      |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|------|------|
| 事業の方向性                | ①日本連盟が、事業や運営を実施し、職員を雇用するためには登録料だけでは賅えず、県連に維持会費が登録人数比で割り当てられている。茨城県連は、毎年その目標金額に達せずにいる。目標額に達するとその半分は、県連に戻ってくることから、その仕組みを上手に活かした維持会員登録の推進を検討する。<br>②維持会員への「報告」を毎年行う。 |      |      |      |      |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | ㊟維持財団に協力を得て、毎年「目標金額」を達成する仕組みができている。<br>㊢維持会員が毎年増えている。<br>㊣維持会員に毎年「報告書」が届いている。                                                                                     |      |      |      |      |
| 年度の主な取り組み             | 2023                                                                                                                                                              | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 |
|                       |                                                                                                                                                                   |      |      |      |      |

2024 年度実施事項 (赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致)

| 担当委員会等       | 実施内容                                    | 実施項目・成果 | 期間 |
|--------------|-----------------------------------------|---------|----|
| 理事会◎<br>総務委㊢ | ①「維持会費 県連盟協力依頼額」への対応を協議し、維持財団との話し合いを持つ。 |         | 継続 |
| 地広委◎         | ②維持財団が一般維持会員に向けて発行する、県連活動報告の作成に協力する。    |         | 継続 |



## Ⅱ 多くの人に関かれたスカウティング

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 施策     | 3 スカウティングを支える成人を増やす取り組み     |
| 事業     | ② 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用 |
| 主体委員会等 | ◎理事会 ○コミッショナーG、指導者養成委員会     |

## Ⅳ より良き指導者の育成（※関連項目）

|        |                                                        |
|--------|--------------------------------------------------------|
| 施策     | 1 スカウティングを支える指導者への支援体制への取り組み                           |
| 事業     | ① スカウティングにおける成人の関与のあり方の確立<br>「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用 |
| 主体委員会等 | ◎理事会 ○コミッショナーG、指導者養成委員会                                |

### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>① AIS ポリシーでは、「スカウトの教育、成長のためには成人の関わりが不可欠である」として、スカウトとの関わり方を示すだけでなく、スカウトが活動を通じて成長するには、関わる成人には研修が必須であり、特に「スカウティングに関わることによって、成人自身がさらに成長する」、つまり、指導者自身がスカウトと共に成長することが「スカウティングの本質」であることを理解させる。</p> <p>② AIS ポリシーの理念を実現することは、「スカウトにより良いプログラムを提供できる」「全ての成人の資質やこの運動に対する貢献度・モチベーションが向上させる」、「効果的で効率的な組織となる」に繋がるため、AIS ポリシーを理解を促進し、「成人のライフサイクル」を全ての団に適用する。</p> <p>③ AIS ポリシーの中で示される「成人のライフサイクル」の「採用→任務遂行→将来への判断」というサイクルを適正に運用することが、常に組織の活性化を促し、適正化を支えるということ、それぞれの役務の任命権者が理解していることが必要である。コミッショナー、トレーニングチーム員が、あらゆる機会を通じて指導者に正しく AIS ポリシーを理解できるよう伝え、実現に向けて強力に関わっていく。</p>                                                                                                                                                                                                              |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | <p>④ 県コミッショナー・地区コミッショナー等を通じて、団委員長をはじめとするそれぞれの役務の「任命権者」が AIS ポリシーの理念と実現後の姿、「成人のライフサイクル」を正しく理解し、運用している。</p> <p>⑤ 「成人のライフサイクル」が正しく運用されており、また、正しく運用されるための支援体制が整っている。</p> <p>【採用】</p> <p>⑥ 日本連盟の「指導者養成に関する指針」を踏まえて、それぞれの任命権者が、さらに実情に応じた「ニーズ」を明文化したもの（任務）を提示している。また、示された任務をどのように達成していくか、必要な知識、技能、心構えをどのように身に付けていくか等が任命権者との合意のもとに決められ、それらが記録される（仮称）指導者カルテが常備されている。</p> <p>⑦ スカウトの保護者やローバースカウトが、「運動への奉仕」の意義を理解し、スカウトの保護者は何らかの役務を担い、ローバースカウトは何らかの形で運動への奉仕を担っている。</p> <p>⑧ 全ての組織の担い手にスカウトの保護者やスカウト経験者のみならず、地域の個人や様々な団体が加わっている。また、ローバースカウト年代の非加盟員で指導者として奉仕する意欲のある者の受入れ体制が整っている。</p> <p>⑨ 同一役務に引き続き就く場合であっても、区切りをつけ任務期間中の評価を行うことが、能力向上に資するという前提に立ち、全ての役務に任期が設けられている。</p> <p>⑩ 青少年の保護に反する人材をスカウト運動に関与させない仕組みが構築されている。</p> <p>⑪ 全ての組織で、任命替えや解任する場合の手続き、それらに対する異議申し立ての手続きが明文化されている。</p> |

—— 県連の取り組み  
—— 地区の取り組み

—— 団・隊の取り組み  
■—— 事業の開始

┌—— 継続（区切り）  
→—— 実施期間

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |      |      |      |      |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|------|------|
|           | <b>【任務遂行】</b><br>①定型訓練の一部は、参加する成人のこれまでの経験や能力、スカウト活動以外で習得した能力を踏まえた構成となっている。また、e ラーニングや外部の専門組織を活用している。<br>①指導者研修の修了証には有効期限が明記されており、有効期限の到来前に更新研修の受講が義務付けられている。<br>⑧全ての成人に足して、セーフ・フロム・ハームのみならず、様々な社会的課題について学習する機会が提供されている。<br>①任務中の支援（インサービス・サポート）の手法が確立され、全ての成人が適切な支援を受けている。<br>⑩「任務中の支援」とは、トレーニングに限らず、隊運営やプログラム展開上必要となる全ての支援であることが浸透しており、特に団委員長や隊長は多くの支援者に支えられている。<br>⑨公正で適正な評価が受けられる評価委員会が設置されている。また、任期を終えた後の評価と認証の仕組みが構築されている（表彰）。 |      |      |      |      |
|           | <b>【将来への判断】</b><br>⑩全ての成人は適切な支援を得た上で、「将来のための決定」に必要な手順（適切な任期中の評価、任命権者との面談やそのプロセスが任命権者により「指導者カルテ（仮称）」に記録されるなど）が運用され、「適材適所」が実現している。<br>⑨正しく適切に「将来のための決定」を運用できるよう任命権者に対する支援が行われている。                                                                                                                                                                                                                                                     |      |      |      |      |
| 年度の主な取り組み | 2023                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 |
|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |      |      |      |      |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等              | 実施内容                                                                                     | 実施項目・成果                                   | 期間                         |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|----------------------------|
| 理事会④<br>県コミ G ⑧     | ①②③理事会は地区委員長・県連役員に向けて、地区勉強会の準備のための理事勉強会を継続する。<br>⑦ テーマ「AIS」。                             | ○地区委員長が行う「地区役員等に向けた地区勉強会」のために理事会勉強会を継続する。 | 継続 '24/10<br>毎理事会の前後       |
| 地区委員長⑥<br>地区コミ G ⑧  | ①②③地区委員会、地区協議会やラウンドテーブル等の機会を活用し、県連の事業の目的と目標、役員の取り組みと、各団での実践について、十分に周知する。                 | ○何のための県連・地区なのか、団はなにをどうするのかを明確に伝える。        | 継続 '24/08<br>地区総会、地区委員会等で  |
| 総務⑥・指養④<br>県コミ G ①  | ③「AIS ポリシーにおける団運営セミナー」用の資料を作成し、同セミナーを実施する。                                               |                                           | 資料 '24/04-<br>セミナー '24/09- |
| 地区委員長⑥<br>地区コミ⑥     | ③地区においても「AIS ポリシーにおける団運営セミナー」を実施する。                                                      |                                           | '24/09-                    |
| 地区コミ①               | ③「成人のライフスタイル」（「採用」「任務遂行」「将来への判断」）が団で取り入れられ始めている。                                         |                                           | '24/04-                    |
| コミ G ①<br>ディレクター⑧   | ①①成人の職業や資格等が認められる研修の修了認定、および、有効期限を付ける研修の選定について、研究や協議がなされている。                             |                                           | -'24/08                    |
| 県コミ G ⑧<br>地区コミ G ⑥ | ①団や隊の指導者が理解しやすいチャートや事例を掲載したインサービス・サポートの資料を作成し、それを基に地区において説明会を実施する。                       |                                           | 資料 '24/04-<br>説明会 '24/09-  |
| 総務委⑥<br>地区コミ G ①    | ⑧⑧セーフ・フロム・ハームが団内に周知され、対象となる指導者全員が、同セミナーを受講している。また、団でセミナー受講の管理をし、それが地区・県連に報告されるしくみが出来ている。 | ⑧セミナー修了管理、有効期限。<br>⑧問題研究。                 | -'25.03                    |

### Ⅲ スカウトの成長・社会課題の解決に貢献するスカウティング

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 施策     | 1 スカウトの成長に貢献するプログラム開発に関する取り組み |
| 事業     | ① 年代特性に合致した一貫性のあるプログラム開発と整備   |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナー G ○進歩委員会             |

#### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                       |      |      |      |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|------|------|------|
| 事業の方向性                | <p>①キーワードは「好奇心」「探究心」「面白がる心」「折れない心」「憧れの目線」「尊敬の念」「感謝の心」で、それがはぐまれる集会やプログラムを実施する。</p> <p>②【一貫性 1（進歩制度）】隊のプログラムは、進歩課目を履修するために行うのではなく、プログラムを実施するためには進歩課目が必要になる・・・という本来の位置付けをことあるごとに伝え、それを全ての指導者に理解させる。</p> <p>③【一貫性 2（班制教育）】組集会→隊集会、班集会→隊集会と月間プログラムが流れていく中で、隊集会のために実施する組・班集会のプログラムには進歩課目が含まれていて、それを履修するには、まず自分で研究し、更に組や班の先輩たちから教わったり、家庭で保護者の下で研究したりすることが、この運動のやり方である。プログラムを提示することで、スカウトには好奇心と探究心と面白がる心を、それをやり遂げることで折れない心を、先輩に対しては憧れを、保護者には尊敬を感謝を、それぞれ感じ取ってもらえるよう対峙する。</p> <p>④ビーバースカウトには、8つの原体験により、その年代でしか身に付かない体験を。</p> |                                       |      |      |      |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | <p>⑤キーワードに示された、スカウトにとって魅力ある、そして保護者が求めに沿うプログラムが各隊で展開されている。</p> <p>⑥進歩制度が理解され、進歩課目を履修するためだけの活動プログラムは、隊の活動現場からなくなっている。</p> <p>◎「スカウト」が「スカウト」を教える仕組みができあがっている。</p> <p>④ビーバースカウトについてはⅡ-1-②を。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                       |      |      |      |
| 年度の主な取り組み             | 2023                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 2024                                  | 2025 | 2026 | 2027 |
|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>①②③④, a b c</p> <p>①②③④, a b c</p> |      |      |      |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等          | 実施内容                                                                                                    | 実施項目・成果 | 期間         |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------------|
| コミ G ㉗<br>進歩委 ㉘ | ①②③④⑥㉙年代特性を考慮した部門プログラム研究（何に重点を置くのか、何を伸ばすのかの本質を年代特性に応じて、その在り方を研究し、プログラムの基本方針を確認する）を行う。（具体的なプログラムの内容ではない） |         | 継続 -'25/03 |
|                 | ④㉚<br>※ビーバースカウトについては、P.21 Ⅱ-1-②に明記。                                                                     |         |            |





### Ⅲ スカウトの成長・社会課題の解決に貢献するスカウティング

|        |                                        |
|--------|----------------------------------------|
| 施策     | 1 スカウトの成長に貢献するプログラム開発に関する取り組み          |
| 事業     | ② 進歩制度の理解促進、富士章をめざす意識の醸成、技能章修得しやすい環境整備 |
| 主体委員会等 | ◎担当コミッショナー ○進歩委員会                      |

#### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>①指導者の適切な進歩への関わり方の周知<br/>現在のスカウトの進歩の考え方は、決して適正とはいえない。そのため、スカウティングは進歩課目を履修するものとする指導者（コミッショナーも）が多く存在する。菊章、隼章、富士章は、指導者が「取らせる」ものとする指導者もいて、進級面接時に堂々と自慢げに話したりしている→まずはこれを是正していく。</p> <p>②適正な進歩の在り方の周知・徹底<br/>進歩制度、進歩課目は何のためにあるのか、何故あのような方法を採用しているのか、どのように隊活動の中に取り入れたらいいのか（活動で求められるスカウト・スキルを学んでいくことが、進歩課目の履修に繋がる）、それをスカウトが楽しく身に付けるにはどうすれば良いのか等を研究し、指導者のつといやラウンドテーブル等で指導者に示してもらいたい。<br/>→スカウティングがターゲットとする子供たち（もちろん保護者にも）に「魅力があるプログラム」が適切に提供できているのか、その調査や確認、評価はしているのか、その一方で、県連としてプログラム・研究開発を行い、提供していく。</p> <p>③進歩環境の整備、進歩への意識付け、目標設定等<br/>また、どうして菊章、隼章、富士章に挑むスカウトが少ないのか、技能章に挑むスカウトが少ないのか、隊長はスカウティングにおける「進歩」について、どう考え、どうスカウトに取り組ませているのか等の現状と実態について調査・分析し、全てのスカウトが「富士章」を目指すことで、スカウティングのより深い魅力と楽しさを体感できるよう、スカウトが取り掛かりやすい「進歩」の流れを示す、その取り組みのモチベーションを如何に上げるか・・・等、進歩環境の整備をしていく（プログラム委員会及びコミッショナー）</p> |
| 達成後の姿<br>（その間に取り組むこと） | <p>㊸コミッショナーにより、ラウンド・テーブル等の勉強会において、進歩制度の正しいあり方が周知されている。</p> <p>㊹各隊で実施されている活動プログラムの評価が毎年行われている。</p> <p>㊺時代とともに指導者の気質が変質しているのであれば、現代の指導者にスカウティング本来のスカウティングのあり方、スカウト精神を確実に伝えながらも、時代に即したプログラムのヒントが提供されている。</p> <p>㊻初級から富士に至る進歩とプログラムとの具体的な関連と取り組みについて、すべてのボーイ・ベンチャーの指導者が理解しており、それを実行していることで、ベンチャーの最高学年に属するスカウトの25%が富士スカウト章を取得している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|           | 2023 | 2024                                           | 2025 | 2026 | 2027 |
|-----------|------|------------------------------------------------|------|------|------|
| 年度の主な取り組み |      | <p>①②③</p> <p>a</p> <p>b</p> <p>c</p> <p>d</p> |      |      |      |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

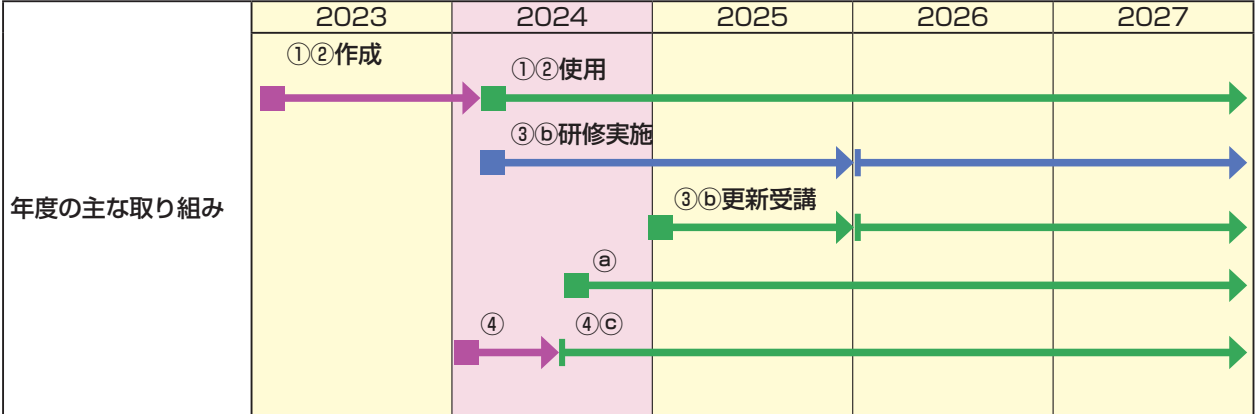
| 担当委員会等               | 実施内容                                    | 実施項目・成果      | 期間         |
|----------------------|-----------------------------------------|--------------|------------|
| コミ G ㊸<br>TT ㊹、進歩委 ㊺ | ①②③㊸「進歩制度」の本質について、更に深く研究する。             | 他の実行事業に含めても可 | 継続 '24/09  |
| 地区コミ ㊻               | ㊹上記で学び、共通理解がとれた項目について、ラウンドテーブルで指導者に伝える。 |              | 継続 '24/09- |
| コミ G ㊼<br>TT ㊽、進歩委 ㊾ | ㊺時代に即したプログラム（BVS～VS）の研究が行われている。         |              | '24/04-    |

# Ⅲ スカウトの成長・社会課題の解決に貢献するスカウティング

|        |                                                    |
|--------|----------------------------------------------------|
| 施策     | 1 スカウトの成長に貢献するプログラム開発に関する取り組み                      |
| 事業     | ③ 「スカウトならば誰でも救急法ができ、地域や日常生活で役立てることができる」の実現に向けた取り組み |
| 主体委員会等 | ◎総務委員会 ○コミッショナー G、プログラム委員会                         |

## ● 実施事業について

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性            | <p>①各部門のそれぞれの年代で「ぼく（私）はその救急手当ができる」という救急手当の系統図を作成し、進歩課題を含めた課題（1つ～5つ）を設定し、それが書かれた「ぼく（私）ができる救急手当」のカードを配付する。このカードはビーバーからベンチャーまで、または救急章を取るまで使用する。</p> <p>②県連としては、それらの課題が履修できる「プログラムのヒント」を促成し、提供する。</p> <p>③同時に、その科目を含めて、指導者として身に付けるべき救急法の講習（隊長は上級研修を、逸れ以外は普通研修）を加盟指導者全員が受講する（○年ごとに更新研修を受講）。</p> <p>④各個人が持つ「救急キット」とそれを収納する「救急ケース」の例を提示（部門によって用意するものとケースの大きさが異なる）し、スカウト活動だけでなく、常にそれを持ち歩き、身の回りで何か対処することがおきたら、それを使って対応するよう指導する（各団・隊の実情に合わせて用意）。要望があれば、救急ケースを県連で用意し頒布する。</p> |
| 達成後の姿（その間に取り組むこと） | <p>⑤毎年、年当初のプログラムは「救急法」の修得のプログラムが行われ、スカウト達は、1年ごとにステップアップした救急法を習得している（カードへのチェックが毎年増えている）。</p> <p>⑥全ての指導者が、それぞれの任務に合わせた救急法講習を完修して、スカウトに教えらる。</p> <p>⑦スカウト達は、常に「救急ケース」を持ち歩き、普段の生活で役立てている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                          |



2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等        | 実施内容                                                                       | 実施項目・成果                         | 期間         |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|------------|
| 県コミタスク⑦       | ①指導者は、スキルトレーニングの全課目をスカウトは部門別の履修細目を定める。<br>①救急手当カードを作成する                    |                                 | 継続 '24/04  |
| コミ G ㊟        | ⑤各隊の年プロに「救急法」取得プログラムを組み込ませるべく働きかける                                         | 2025 年度から開始できるように 2024 年度はその準備を | 継続 '25/03  |
| 総務委①<br>地区コミ⑥ | ③「隊指導者のための救急法講習会」を実施するとともに、「修了章」の有効期限と更新時期についても明確に示し、修了管理を行う。              | 修了管理は団で                         | 継続 '24/04- |
| 総務委①          | ④コミ G、進歩委等の意見を元に、携帯する救急セットの中身を決め、それを入れて持ち歩く「救急ケース」を選定し、ビーバーから指導者までに有償頒布する。 |                                 | 継続 '24/08  |



### Ⅲ スカウトの成長・社会課題の解決に貢献するスカウティング

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 施策     | 1 スカウトの成長に貢献するプログラム開発に関する取り組み |
| 事業     | ④ 国際感覚を養うプログラムの整備             |
| 主体委員会等 | ◎県コミッショナー G、イベント国際委員会         |

#### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>①スカウト達が、近い将来、国際人として「英語」でコミュニケーションをとれるように、また日本を訪れた外国人をサポートできるように、隊活動の1つのコーナーで継続的に実施プログラムを作成し、提供する。(各隊からのフィードバックで、常にブラッシュアップしていく)</p> <p>②培った英語力を試すために、英語圏の国を訪れ、その国のスカウトと共に活動するプログラムを企画する。(以前のような観光主体の海外派遣ではない、自分の力を試し、評価し、その後の能力アップに繋がる・・・という位置づけのもの)</p> <p>③1年に1度は、海外派遣を実施する。(できれば10人以下の少人数派遣が望ましい)</p> |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | <p>④上記②が達成できる「英語圏」への海外派遣プログラムが、毎年実施されている。</p> <p>⑤スカウト達が、世界スカウトジャンボリーに参加者やIST、ゆくゆくは引率指導者として参加できるよう、海外の活動プログラムに自信を持って参加している。</p> <p>⑥小中学校での英語授業を研究しており、隊のプログラムに国際感覚を養える要素が多数含まれていて、英語でのコミュニケーションの実践の場として役立っている。</p>                                                                                          |

|           | 2023 | 2024                            | 2025   | 2026 | 2027 |
|-----------|------|---------------------------------|--------|------|------|
| 年度の主な取り組み |      | <p>①⑤</p> <p>②④準備</p> <p>①⑥</p> | ②④、③実施 |      |      |

2024 年度実施事項 (赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致)

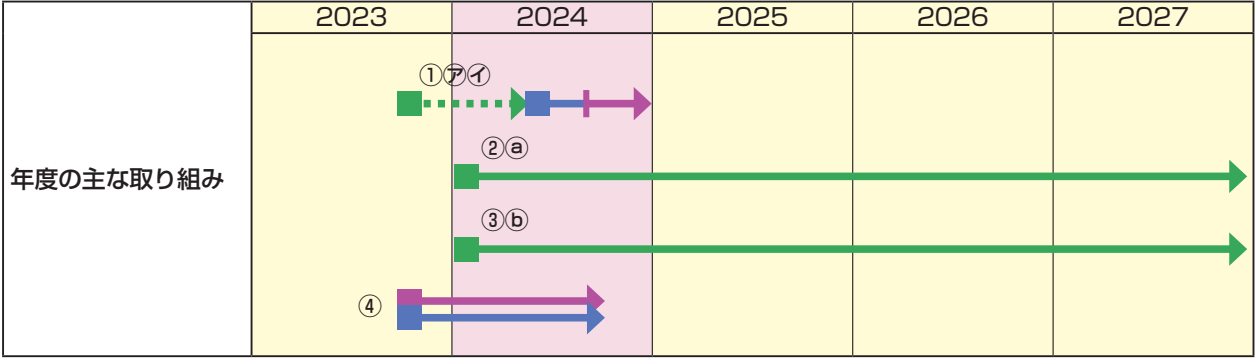
| 担当委員会等        | 実施内容                                                                                | 実施項目・成果 | 期間         |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------|------------|
| コミ G ㊟        | ①班・組活動に英語を取り入れる方法とそれを発揮できる活動流れを考える。                                                 |         | 継続 -'24/09 |
| 進歩委①<br>イベ委㉔  | ①英語環境を作るために、それぞれの部門の隊に「英語劇」やイングリッシュ・シャワー等のプログラムの実施ヒントを提供する。                         |         | 継続 -'24/09 |
| イベ委㉔          | ①地区や団でそれを発表する機会を持つように促す。<br>○発表した班・組のスカウトには県作成のアワードを贈呈。                             |         | 継続 -'24/09 |
| イベ委㉔<br>視察チーム | ② 2025 年度の実施に向けて、海外派遣を企画・計画する。そのために、2024 年度は、派遣のそれぞれの役務を担う担当による視察チームを編成し、現地視察を実施する。 |         | -2025.03   |

### Ⅲ スカウトの成長・社会課題の解決に貢献するスカウティング

|        |                                   |
|--------|-----------------------------------|
| 施策     | 2 社会課題の解決に貢献するプログラム開発に関する取り組み     |
| 事業     | ① 災害時に有用なスキルを習得するためのプログラムなどの開発の推進 |
| 主体委員会等 | ◎担当コミッショナー      ○総務委員会            |

#### ● 実施事業について

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性            | <p>①地震や異常気象等の中で発生する災害に対し、それぞれの部門のスカウトが、自分の身を守るために何をどうすればいいのか②、また他に対してはどんな貢献・支援ができるか④を、災害のケースごとに団（隊）ごとに、実行プランを考えてもらい、地区や県連で取りまとめて、フィードバックする。</p> <p>②それを実際に役立てるために、必要な知識やスキルを身に付け、また、身近なモノをいかに役立てることができるか等を活動プログラムに取り入れ、知識やスキルを身に付けていく。</p> <p>③それを積み重ねて、ローバースカウトになったときに、被災地で大いに役立てられるよう、ビーバーからベンチャーまでの継続したプログラム展開を考える。</p> <p>④能登地震の災害復旧ボランティアに参加し、実際に現地座復旧支援活動を体験することで、必要な支援についての知見を蓄える。</p> |
| 達成後の姿（その間に取り組むこと） | <p>⑤何かの災害が発生したときに、県連主導ではなく、茨城のローバーや指導者が自発的に支援に向かっている。他のスカウトや指導者は自発的に後方支援活動を行っている。組織的対応が必要な場合には、県連としていつでも動ける体制が整っている。</p> <p>⑥スカウトとしての矜持を持って、対応できている。</p>                                                                                                                                                                                                                                      |



2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等                 | 実 施 内 容                                                           | 実施項目・成果                    | 期間         |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------|----------------------------|------------|
| IVY-L ⑥                | ④令和6年能登半島地震の災害復旧ボランティアに参加し、実際に現地で復旧支援活動を体験することで、必要な支援についての知見を蓄える。 | 県連としてボランティアバスをチャーターすることも検討 | -'24/12    |
| 総務委⑧<br>コミ G ②、IVY-L ⑥ | ①⑥災害の実態を調査し、その復旧活動にはどんな支援が必要なのかをピックアップし、系統立てて整理する。                |                            | 継続 -'25/03 |
| TT ①                   | ②③それを元に必要な技能を習得する新たな視点からのスカウト技能研究会を考える。                           |                            | 継続 -'25/03 |

県連の取り組み

地区の取り組み

団・隊の取り組み

事業の開始

継続（区切り）

実施期間

### Ⅲ スカウトの成長・社会課題の解決に貢献するスカウティング

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 施策     | 2 社会課題の解決に貢献するプログラム開発に関する取り組み |
| 事業     | ② 環境保全活動、社会貢献活動、SDGs プログラムの推進 |
| 主体委員会等 | ◎コミショナー G ○イベント国際委員会          |

#### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |      |      |      |      |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|------|------|
| 事業の方向性                | <p>① B-P は最後のメッセージで「幸福を得るほんとうの道は、ほかの人に幸福を分け与えることにある。この世の中を、君が受け継いだ時より、少しでもよくするよう努力し、あとの人に残すことができたなら、死ぬ時が来ても、とにかく自分は一生を無駄に過ぎず、最善をつくしたのだという満足感をもって、幸福に死ぬことができる。幸福に生き幸福に死ぬために、この考えにしたがって、「そなえよつねに」を忘れず、大人になっても、いつもスカウトのちかいとおきてを、堅く守りたまえ。」と述べている。</p> <p>スカウティングにおける社会課題の解決に向けた活動の位置づけは、解決をすることではなく（できれば解決したいが）、解決に 1 歩でも近づくために、スカウト 1 人ひとりが、自分のできる範囲で努力（⇒「そなえよつねに」を忘れず、いつもスカウトのちかいとおきてを堅く守る）して、綿々と繋いでいくこと、といえる。それには「実行」という行動をしていく。</p> <p>② SDGs が目指す目標は大きなものを感じるが、実は 1 人 1 人が身近な問題解決を積み重ねていくことが、目標達成の第一歩だ。この意識を醸成し、実行していくことがボーイスカウトにおける取り組みとなる。</p> <p>③ 各団・隊で企画・計画し、実行・評価した一連のプログラムを、全スカウトの前で発表をする機会を設ける。</p> |      |      |      |      |
| 達成後の姿<br>（その間に取り組むこと） | <p>④ 各団・隊で実施されているプログラム全てのプログラムには、何かしらの SDGs の要素が含まれている。</p> <p>⑤ カブスカウト以上では、SDGs のプログラムを 1 年間実施することで、国連本部公式最新仕様の SDGs バッジを左胸ポケットフラップに「着用できる」となっている。（2 年目以降は継続して着用する。ビーバースカウトについては安全のため金属バッジの着用が制限されているので、SDGs プログラムを実施しても着用はしない）</p> <p>⑥ SDGs の意味を更にスカウトや保護者に浸透させるため、県連盟において「SC-IB SDGs アワード（仮称）」が設置され、SDGs の達成に向けた団・隊の取り組みを促している。毎年、優秀団・隊の成果発表と表彰式を実施している。</p>                                                                                                                                                                                                                                             |      |      |      |      |
| 年度の主な取り組み             | 2023                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 |
|                       | ①                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | ②, ㉓ |      |      |      |
|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | ②, ㉔ |      |      |      |
|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | ③ ㉔  |      |      |      |
|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |      | ③ ㉔  |      |      |
|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |      |      |      |      |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等         | 実施内容                                                         | 実施項目・成果            | 期間         |
|----------------|--------------------------------------------------------------|--------------------|------------|
| 県コミ⑤           | ① SDGs プログラムのボーイスカウトにおける在り方・取扱方について方向性を出す。                   |                    | 継続 -'24/06 |
| コミ G ⑦         | ② SDGs プログラムのコミ研究会を実施する。<br>活動プログラムと家庭でのプログラムの両方を対象に         | 地区コミ研究→発表→勉強会の内容検討 | 継続 -'24/09 |
| 県コミ⑧           | ②③ SDGs プログラム勉強会（指導者向け）の開催準備<br>→実施は 2024 年度（4 半期に 1 回計 4 回） | 研修実施要項作成           | 継続 -'25/03 |
| 県コミ⑨<br>理事会⑥   | ⑥ SDGs バッジとその着用ルールの検討→承認<br>（2024/4 月理事会）→バッジ発注（承認後）         | 日連規格クリア、バッジデザイン    | 継続 -'24/04 |
| イベ委⑩<br>コミ G ⑩ | ③c 「SC-IB SDGs アワード」の実施に向けて、準備に取り掛かる。<br>実施は 2024.11。        | 対象、内容、会場、予算化       | 継続 -'24/11 |



### Ⅲ スカウトの成長・社会課題の解決に貢献するスカウティング

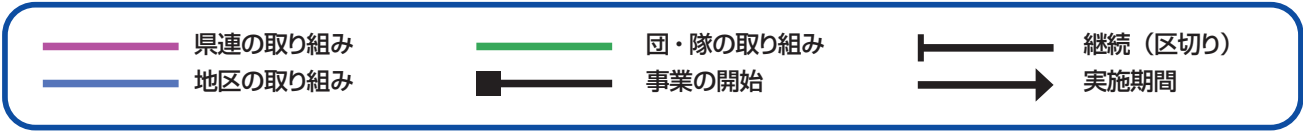
|        |                                   |
|--------|-----------------------------------|
| 施策     | 3 時代の変化に即応したプログラムのあり方等に関する取り組み    |
| 事業     | ① スカウトにとって魅力ある ICT の活用            |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナー G、地域連携・広報委員会      ○進歩委員会 |

#### ● 実施事業について

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |      |      |      |      |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|------|------|
| 事業の方向性            | <p>①今の世の中は ICT（Information and Communication Technology の略称で、「情報通信技術」＝人とインターネットをつなぐことで、人と人をもつなぐ技術）が広く活用され、学校教育現場においても積極的に取り入れられている。しかし、ボーイスカウトの世界は、野外で人と人が直接のふれ合うことにより、社会性のあるより良い人を育てていくといものである。ところが、スカウト数の減少により、班員の居住地がより広範囲となり、なかなか簡単には集まなくなっているという状況になっている。</p> <p>そこで、考え方を柔軟にすることで、対面活動に引けを取らない ICT を使った班活動・組活動を行えるように、その具体的なやり方を研究し、その結果を提供していく。（時間と距離）</p> <p>②また、ICT の活用により、多くの情報が入手できることから、活動の幅が広がる反面、「やったつもり」のバーチャル体験も多くなる。しかし、知識や技能を身に付けるにはリアルな体験が必要との考え方で、如何に ICT を活用して事前研究し、それをリアルな実体験でスキル獲得に繋げていくか・・・など、融合によるプログラム展開についても研究していく。</p> |      |      |      |      |
| 達成後の姿（その間に取り組むこと） | <p>③対面とオンラインが組み合わせられた班・組集会在、状況に応じて、当たり前のように行われている。その効果は時間と距離の短縮に留まらず、従来のスカウティングよりもより広く有用な活動となっている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |      |      |      |      |
| 年度の主な取り組み         | 2023                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 |
|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | ①②   | ②③   |      |      |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等       | 実施内容                                                                                                           | 実施項目・成果         | 期間         |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|------------|
| コミ G ㊟       | ①スカウトの自習の在り方について協議する。（スカウティングの本質、進歩制度）                                                                         |                 | 継続 -'24/11 |
| コミ G ㊿       | ①「班制度」をより機能的に展開できる ICT の活用について協議する。<br>また、インターネット接続端末（スマホ）の所持状況、ICT 参加環境の調査も行う。                                |                 | 継続 -'24/11 |
| 地区コミ㊿        | ①各団で ICT を活用した活動の事例を集める。                                                                                       |                 | 継続 -'24/11 |
| 進歩委㊿<br>地広委㊿ | ①塾や習い事などで、スカウトが班活動に割くことの出来る時間がほぼなくなりつつある。スカウト活動を隊集会だけで終わらさないための研究（ITC の活用を含む）をし、（Online でもいいので）班活動が成立する仕組みを作る。 | IVY-League の活用を | -'24/11    |





### Ⅲ スカウトの成長・社会課題の解決に貢献するスカウティング

|        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 施策     | 3 時代の変化に即応したプログラムのあり方等に関する取り組み |
| 事業     | ② プログラムのヒント・データベースの構築          |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナー G、地域連携・広報委員会 ○事務局     |

#### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>①インターネットの普及により、子ども達の興味の対象は大きく広がっている。しかしながら、指導者においては、スカウト達の興味の広がりについてはいないのが実情。それを指導者個人に求めることは難しい。そのため、関連する雑誌等のプログラムのヒントとなる箇所をスキャンし PDF にした、プログラム・データベースを構築する。</p> <p>②また、日連や県連からの各種文書について、系統的活時間的にまとめられていないため、その活用が上手くなされていない。事務局業務の適正化の点からも、資料 DB の構築も必要。</p> <p>③このデータベースをコミッショナー・トレーナーや隊長等に公開することで、隊活動や各種支援、研修等に活用できるように整える。ただし、活動プログラムはあくまでも隊長を中心に作るモノであるので、活動プログラムは掲載せず、活動のヒントに留めておく。</p> <p>④ BS 資料については指導者に公開するが、「プログラムのヒント」については著作権があるので利用者については登録制とし、その利用の方法をルール化する。</p> <p>⑤ DB については、日々更新をしていく必要があることから、その運営（資料等の掲載）についても分類コード、掲載方法・担当等を取り決める。</p> |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | <p>⑥この DB を活用して、隊におけるプログラムの幅と内容がより広がって、スカウト達がより楽しく豊かなスカウティングを享受できている。</p> <p>⑦この DB を提供することで、事務局への問い合わせ、資料請求が減り、適正な事務局業務が行われている。</p> <p>⑧団委員や指導者等が、この DB を利用することで、それまで不確かだった情報の原姿を見ることができ、スカウティングへのより深いにつながっている。</p> <p>⑨ DB が恒常的にアップデートされている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|           | 2023 | 2024              | 2025 | 2026 | 2027 |
|-----------|------|-------------------|------|------|------|
| 年度の主な取り組み |      | <p>①</p> <p>②</p> |      |      |      |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等 | 実施内容                                                 | 実施項目・成果                 | 期間         |
|--------|------------------------------------------------------|-------------------------|------------|
| 担当チーム  | ① DB は、既にローカル環境で構築されており、毎年データが増え続けている。格納場所等の運用を検討する。 | DB を何処に置くのか、使い勝手は、その費用は | 継続 -'24/11 |
| 事務局◎   | ②県連保管の紙データ資料の電子化を行う                                  |                         | 継続 -'24/11 |
| 担当チーム  | ③④ DB 利用ルールの検討                                       |                         | 済          |
| 担当チーム  | ⑤ DB 掲載ルールの策定                                        |                         | 済          |



## Ⅳ より良き指導者の育成

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 施策     | 1 スカウティングを支える指導者への支援体制への取り組み |
| 事業     | ② インサービス・サポートの適切な運用          |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナー G ○地区代表理事、トレーニングチーム |

### ● 実施事業について

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性            | <p>①インサービス・サポートとは「任務中の支援」のことを言うが、これは前述の AIS の第 2 フェーズ「任務遂行」の中の 1 つの項目「In-Service Support」として示されている。</p> <p>「指導者は、その任務を遂行するにあたって、励まされ、傾聴され、支援され、そして認められることが大切である。また、この運動に有能かつ意欲のある指導者を留めておくためには、インサービス・サポートを定着させる必要がある。」・・・と。</p> <p>そのためには、大きく 3 つのことを整備する。</p> <p>(1) インサービス・サポートの核となる地区コミッショナー（団担当コミッショナー）を 2-3 個団に 1 名確保する。</p> <p>(2) 地区コミッショナーが、インサービス・サポートを行うに足る資質と能力を有する。</p> <p>(3) 団における、インサービス・サポートの取り組み環境・意識の整備。</p> |
| 達成後の姿（その間に取り組むこと） | <p>㊦インサービス・サポートが、指導者育成の標準の支援ツールになっている。</p> <p>㊧指導者達が、安心して、また信頼してインサービス・サポートを活用している。</p> <p>㊨団内においてもインサービス・サポートが展開・活用されている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|           | 2023 | 2024          | 2025                                                                                          | 2026 | 2027 |
|-----------|------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|
| 年度の主な取り組み |      | <p>㊦準備・周知</p> | <p>㊦展開</p> <p>㊧地区コミ → 指導者</p> <p>㊨</p> <p>(3)インサービス・サポート</p> <p>(3)啓蒙資料作成</p> <p>(3)説明会実施</p> |      |      |

※インサービス・サポートに対応できるコミッショナーを育成するための期間を確保するため、㊦展開、㊧㊨のスケジュールを半年先延ばしにした。

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等              | 実施内容                                                                  | 実施項目・成果 | 期間        |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---------|-----------|
| コミ G ㊦              | ①インサービス・サポート（ISS）を展開するにあたってのフロー図と地区コミ G の相談窓口の設置                      |         | 継続-'24/12 |
| 県コミ G ㊦             | ① ISS 実施に向けた地区コミ勉強会（他の勉強会と内容が被っても可）の実施                                |         | 継続-'24/11 |
| 地区代表理事㊦<br>地区コミ㊦    | ①地区におけるスカウト運動推進状況の調査と、地区コミへの報告、および ISS 実施の団委員長への通知                    |         | 継続-'24/11 |
| 県コミ G ㊦<br>地区コミ G ㊦ | (3) 団や隊の指導者が理解しやすいチャートや事例を掲載したインサービス・サポートの資料を作成し、それを基に地区において説明会を実施する。 | I-2-②   |           |
|                     |                                                                       |         |           |

## Ⅳ より良き指導者の育成

|        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 施策     | 2 現代にマッチした効果ある指導者研修への取り組み      |
| 事業     | ① 時代に即した指導者研修の研究と実施            |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナー、トレーニングチーム ○指導者養成委員会   |
| 施策     | 2 現代にマッチした効果ある指導者研修への取り組み      |
| 事業     | ④ 指導者カルテ、指導者研修歴の管理             |
| 主体委員会等 | ◎地区コミッショナー、トレーニングチーム ○指導者養成委員会 |

### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>①現在のトレーニングは、集合・対面形式で行われているが、これには人間関係の構築、技能の体験的修得等のメリットがあるが、時間的に制約があり、研修を受講するための時間の捻出がデメリットとなっている。また、指導者研修の中には、集合・対面を必要としないものもある。</p> <p>ICTの発達によって、情報コンテンツの作成および提供環境が整ってきており、簡単にオンライン研修ができるようになった。これを活用して、自分の自由となる時間で、研修を受講できる仕組みを整える。</p> <p>そのため、指導者がどんな研修を望んでいるのか、オンライン化できるスカウティングの研修には何があるのか、オンラインで行うメリットは何処にあるのか等を協議し、検証する。</p> <p>②また、だれが・いつ・どの研修を受講したのかの履歴を簡単に管理できる（オンライン上の）仕組みをつくり（開設側で受講管理データを入力）、団と共用する</p> <p>③「指導者に寄り添った研修」とは何かを研究し、その研究成果を基に、県連の指導者研修体系を整理し展開していく。</p> |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | <p>⑤集合・対面研修とオンライン研修の受講体系が明確になっており、それぞれの指導者がいつまでに、どの研修を受講するかが明示されている。</p> <p>⑥団が指導者の研修修了状況を把握・管理し、指導者に適切に研修受講を促している。</p> <p>⑦必要にオンライン研修が整備され、また適時更新されている。</p> <p>⑧指導者研修が指導者にとってより身近で、かつ有功な、価値あるものと認識されており、進んで研修に参加する意識が醸成されている。修了の都度「履修証」「修了証」が発行されている。</p>                                                                                                                                                                                                                             |

|           | 2023                         | 2024                                                        | 2025                                                        | 2026 | 2027 |
|-----------|------------------------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|------|------|
| 年度の主な取り組み | <p>①a準備・周知</p> <p>②プログラム</p> | <p>①a公知</p> <p>②b</p> <p>①c</p> <p>③体系整理</p> <p>④履修証の準備</p> | <p>③常によりよいものにしていくべく研究を継続</p> <p>⑤全ての研修で修了証・履修証が発行されている。</p> |      |      |

◎現在の指導者研修修了のシール（指導者手帳に貼る）の活用についても検討

◎ AIS のフェーズ 2「任務中の支援」(2) イに「履修証」についての記述あり。

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等                 | 実 施 内 容                                                                                      | 実施項目・成果                                                        | 期間         |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|------------|
| コミ G ㊟<br>TT ㊵<br>指養委① | ①時代に即した研修とはどのようなものか調査する。                                                                     | 現代の企業等の研修の実態を腸と・研究                                             | 継続 -'24/09 |
| TT ㊶<br>コミ G ㊸         | ①㊸オンラインによる研修について<br>・指導者が、オンライン研修に求めているコトの分析<br>・オンラインを行う上でのメリット・デメリットの検討<br>・オンラインで行える研修の研究 | ①指導者が、オンライン研修に求めている事の分析<br>②オンラインを行う上でのメリット<br>③オンラインで行える研修の研究 | 継続 -'24/09 |
| TT ①<br>コミ G ㊶         | ②㊸研修履歴の管理<br>・研修履歴に関するルールの作成<br>・入力項目の検討<br>・システムの構築のための研究                                   | ①研修履歴に関するルールの作成<br>②入力項目の検討<br>③システムの構築                        | 継続 -'24/11 |
| TT ㊹<br>コミ G ㊺         | ③より良い研修制度を目指した、指導者研修体系の整理と研究                                                                 |                                                                | 継続 -'24/06 |
| 指養委①                   | ㊸全ての研修の修了者に「履修証」「修了証」を発行する。                                                                  |                                                                | 24/04-     |
| 指養委①                   | ㊸どの研修が「履修証」「修了章」に該当するかの確認。                                                                   | 県連研修は「履修証」0303 企画調整会議にて                                        | 済          |

# Ⅳ より良き指導者の育成

|        |                                 |
|--------|---------------------------------|
| 施策     | 2 現代にマッチした効果ある指導者研修への取り組み       |
| 事業     | ② 魅力ある隊活動を実施できる指導者を育成する指導者研修の実現 |
| 主体委員会等 | ◎トレーニングチーム、コミッショナーG、指導者養成委員会    |

## ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>①まず、スカウト（保護者）のニーズを調査・集約し、それを実現している「憧れの指導者の姿」とその要素を明確にする。それを団・隊の指導者に周知する。</p> <p>②その育成を目指す指導者研修を「知識やスキルの修得」を目的とした研修と「不安」を解消する研修に分け、更にそれぞれを「集合対面」か「オンライン」に区分し、それぞれに適した目標を設定して、それぞれに合った研修内容を作成する。</p> <p>③「スカウティングはゲームである」の「ゲームとは何か!?!」について、意図と位置づけと効果を深く理解して研修を提供することで、受講した参加者が「スカウティング・ゲーム」を隊活動にフィードバックできるよう、意図的にゲームを取り入れた研修を実施する。</p> <p>④その研修の方向が、本来のスカウティングの在り方であることをコミッショナーを通じて、指導者に伝達し、浸透させる。</p> |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | <p>⑤「隊活動に則した楽しい研修」とAISにより、指導者が何を身に付けていなければならないかを理解し、それを獲得している。そのことが、保護者たちに安心と期待を提供している。</p> <p>⑥「隊活動に則した楽しい研修」を受講した指導者が、自隊の活動に、ゲームの要素を随所に取り入れ、それをスカウト達が目を輝かせて取り組んでいる。</p>                                                                                                                                                                                                                                |

|           | 2023 | 2024                               | 2025   | 2026 | 2027 |
|-----------|------|------------------------------------|--------|------|------|
| 年度の主な取り組み |      | <p>①ニーズの集約・周知</p> <p>②③④ 研修の企画</p> | ③研修の実施 | ④⑥   |      |

※①ニーズの調査と集約及びその取りまとめの期間を設けたため、それ以降の②③④スケジュールを先に延ばした。  
コミッショナー、指導者養成委員会の関わりを「主」に変更した。

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等                 | 実施内容                                                                                                                | 実施項目・成果                                                                                | 期間         |
|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| TT ①<br>コミ G ①、指養<br>④ | ①スカウト（保護者）が「憧れる指導者の姿」を明確にし、その要素を明確にする<br>・保護者が指導者に求めるニーズの分析<br>・スカウトが指導者に求めるニーズの分析<br>・憧れる指導者の姿を描き出す                | ①保護者が指導者に求めるニーズ分析<br>②スカウトが指導者に求めるニーズ分析<br>③憧れる指導者の姿                                   | 継続 -'25/01 |
| TT ⑥<br>コミ G ⑥、指養<br>① | ②指導者研修の目標設定<br>・「知識やスキルの修得」「不安を解消する」研修の分類<br>・「集合対面」か「オンライン化できるか」の検討<br>・目標の明確化と研修内容の作成                             | ①「知識やスキルの修得」「不安を解消する」研修の分類<br>②「集合対面」か「オンライン化できるか」の検討<br>③目標の明確化と研修内容の作成               | 継続 -'25/01 |
| TT ⑦<br>コミ G ⑦、指養<br>⑤ | ③「スカウティングはゲームである」の深度化を考える<br>・研修に「スカウティング・ゲーム」を取れ入れた研修内容の見直し<br>・「集合対面」か「オンライン化できるか」の検討<br>・「スカウティングはゲーム」の定形外訓練への検討 | ①研修に「スカウティング・ゲーム」を取れ入れた研修内容の見直し<br>②「集合対面」か「オンライン化できるか」の検討<br>③「スカウティングはゲーム」の定形外訓練への検討 | 継続 -'25/01 |



## Ⅳ より良き指導者の育成

|        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 施策     | 2 現代にマッチした効果ある指導者研修への取り組み      |
| 事業     | ③ スカウトスキルのスタンダードの提示            |
| 主体委員会等 | ◎コミッショナー G、指導者養成委員会 ○トレーニングチーム |

### ● 実施事業について

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性            | <p>①現時点で、それぞれの隊の役務別指導者が、身に付けているべき知識・スキルについての指標がないため、それぞれの指導者達は、自分が「何」を「どのレベル」まで身に付けるべきかを掴めないでいる。それが指導者研修の参加率の低迷に繋がっている。各部門の進歩課目が1つの指標となるが、それにとどまらず、その部門で行われるだろうプログラム活動を俯瞰し、必要と考える「スカウティング知識」「スカウティング・スキル」を羅列し、役務別の知識・技術深度（レベル）のスタンダード（標準）を提示する。</p> <p>②団委員長が、AISの「リクルート」フェーズで、指導者（予定者）に提示する任務にもこれが必要となる。</p> <p>③スタンダードを修得には、地区や県連の指導者研修だけでなく、隊内・団内の研修や個別支援などでも対応できるように、団や隊の基盤整備も進めていく。</p> <p>④スタンダード項目の提示と、獲得した際のチェックができるように、指導者手帳に挟む別刷りを作成し提供する。</p> |
| 達成後の姿（その間に取り組むこと） | <p>⑤「隊指導者、団指導者になったならば、○年以内にスタンダードを身に付ける」といった気概が団・隊内に広がっている。</p> <p>⑥隊指導者、団指導者がそれらを身に付けるには、団・隊での指導・支援にを主とするが、対応できない団や、特別のスキル等については、地区や県連での研修でも身に付けられるよう実施されている。</p> <p>⑦指導者たちが、自信を持ってスカウトを指導・支援できるため、隊活動が活発になっていると同時に、指導者同士が教え合うことでコミュニケーションが活発となり、それが隊内・団内の良き雰囲気を作り上げている。</p>                                                                                                                                                                            |

|           | 2023 | 2024                                   | 2025 | 2026 | 2027 |
|-----------|------|----------------------------------------|------|------|------|
| 年度の主な取り組み |      | <p>①④</p> <p>①a</p> <p>③b</p> <p>c</p> |      |      |      |

※①④の研究・提示準備の期間が遅れているため、それ以降のスケジュールも順に遅らせた。  
指導者養成委員会を「主」に付け加えた。

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等          | 実施内容                                                                                           | 実施項目・成果                                           | 期間         |
|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|------------|
| 担当チーム<br>(TT) ④ | ①「担当チーム」を設置し、各部門の活動を俯瞰して、部門別および役務別に指導者が持ち合わせるべきスカウト・スキルを示すべく、選び出す。<br>○その修得方法・基準についても明確にする     | ①「スカウティング知識」「スカウティング・スキル」の分類<br>②役務別の知識・スキルのレベル策定 | 継続 '24/06  |
| 担当チーム<br>(TT) ① | ④スタンダード項目の提示と、履修チェックができるように、指導者手帳に挟む別刷りを作成し提供する。<br>⑤チェック表の作成<br>⑥研修履歴表との相関について検討<br>⑦チェック表の周知 | ①チェック表の作成<br>②研修履歴表との相関について検討<br>③チェック表の周知        | 継続 '24/08- |
| 担当チーム<br>(TT) ⑤ | ○技能だけでなく、スカウティングに関する基本知識について、どう扱うかも併せて検討する。                                                    |                                                   | 継続 '24/08- |
| 地区コミ⑤           | ③隊内・団内の研修や個別支援などでも対応できるように、団や隊の基盤整備を支援する。                                                      |                                                   | '24/09-    |



## Ⅳ より良き指導者の育成

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 施策     | 2 現代にマッチした効果ある指導者研修への取り組み    |
| 事業     | ⑤ 研修参加環境の調査と整備               |
| 主体委員会等 | ◎指導者養成委員会 ○コミッショナー、トレーニングチーム |

### ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                      |      |          |      |      |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------|------|------|
| 事業の方向性                | ① AIS の成人のライフサイクルの中の「任務中の支援」「トレーニング」の具体的なあり方・方法について検討し、それを周知する（ツール・方法は指養委+コミ）。また、各団においてそれが正しく実施されるように、指導・支援をする（コミッショナー）。<br>②地区においては、各団の現状を調査し、それを持ち寄り実施に当たっての問題点の抽出を行う。<br>③その問題点の解決に向けて、指導者研修のあり方を再定義し、指導者にとって役に立つ（スカウトをもっともっと伸ばすことができる）研修を構築していく。 |      |          |      |      |
| 達成後の姿<br>（その間に取り組むこと） | ④指導者たちが、必要とする研修・支援が受けられている。<br>⑤それによって、スカウティングの質が向上し、スカウトだけでなく、保護者、地域社会からよい評価が得られている。→「スカウティング」というブランドが再び認められている。                                                                                                                                    |      |          |      |      |
| 年度の主な取り組み             | 2023                                                                                                                                                                                                                                                 | 2024 | 2025     | 2026 | 2027 |
|                       | ①                                                                                                                                                                                                                                                    | ②    | ③<br>a b |      |      |

※①②③の研究・提示準備の期間が遅れているため、それ以降のスケジュールも順に遅らせた。

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等         | 実施内容                                                                                                                                                       | 実施項目・成果    | 期間         |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|------------|
| コミ G ㊦<br>TT ㊦ | ① AIS ライフサイクルの中の「任務中の支援」および「トレーニング」の姿・イメージを共通理解し、具体的な実施フローを描きだす。                                                                                           | Ⅱ-3- ㊦を参考に | 継続 '24/10  |
| 指養委㊦<br>コミ G ㊦ | ②指導者が希望する研修に参加できているのか・制約があるのか、研修実施情報がきちんと伝わっているのか、研修参加に対して団からの支援・後押しはあるのか、参加費用はどうなっているのか・・・など、地区ごとに、団の現状を調査するための項目を抽出し、地区コミにより調査を実施し、問題点を把握する。<br>(改善は次年度) |            | 継続 '24/04- |

県連の取り組み  
地区の取り組み

団・隊の取り組み  
事業の開始

継続（区切り）  
実施期間

## V 県連運営の適正化に関する取り組み

|        |                                 |
|--------|---------------------------------|
| 施策     | 1 より良き事務局の実現への取り組み              |
| 事業     | ① 事務局業務の適正化（業務の整理と人員）と県連ルールの再確認 |
| 主体委員会等 | ◎正副理事長 ○事務局、各種委員会委員長、監事         |

### ● 実施事業について

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |      |      |      |      |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|------|------|
| 事業の方向性            | ① ICT の普及による情報の過度に増大に対して、マンパワーに即した対応体制を構築する。<br>② 事務局の位置づけについては、その所掌範囲を再確認するとともに、県連全体を俯瞰することで、理事会（各種委員会等含む）、コミッショナー、トレーニングチーム、地区のそれぞれの業務を再確認し、事務局に集中している業務を適正に配分する。<br>③ 県連内の事務手続ルールを「茨城県連の事務手続」冊子として各地区、各団、県連委員会等に配付する。<br>④ また、情報をデータベースとして一元化し、必要な人が必要なときにそれを閲覧できるよう、系統化して分類し提供する。（データベースについては、Ⅲ -3- ②を参照） |      |      |      |      |
| 達成後の姿（その間に取り組むこと） | ㊤各種業務について、本来あるべきところで、確実に行われている。<br>㊦事務局を運営するために必要に人材が確保されており、その雇用のための資金が確保されている。<br>㊧事務局のワークフローが明確になっている<br>㊨データベースについては、Ⅲ -3- ②（P.31）に明記。                                                                                                                                                                    |      |      |      |      |
| 年度の主な取り組み         | 2023                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 |
|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |      |      |      |      |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

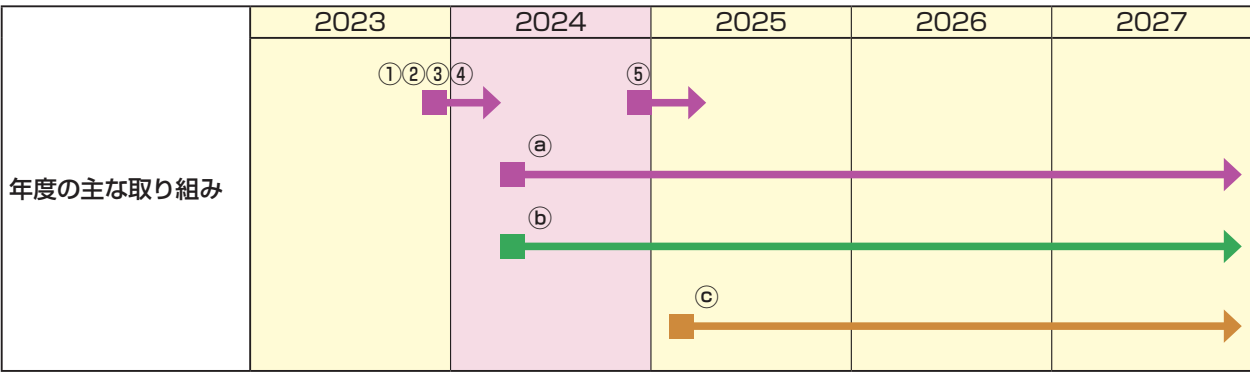
| 担当委員会等                  | 実施内容                                                                          | 実施項目・成果             | 期間         |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------|------------|
| 正副理事長㊤<br>県コミ㊦、運営委員長、監事 | ①②県連の事務・事業の総量・分野を把握し、数値化する。<br>→事務量・分野を適性に配分するべく県連（事務局、理事会、各種委員会、役員等）の構成を考える。 |                     | 継続 -'24/05 |
| 事務局㊤                    | ②事務局については、その所掌範囲を把握し、来年度に向けた必要な人的資源の獲得、予算（人件費、設備費等）の措置を講じるための検証をする。           |                     | 継続 '24/06- |
| 事務局㊤                    | ③県連における「事務手続の手引」（ルール書）を作成する                                                   |                     | 継続 -'24/05 |
| 担当                      | ④県連資料のデータベース化を行う                                                              | まずはローカル環境で PDF 化を実施 | 継続         |

# V 県連運営の適正化に関する取り組み

|        |                                 |
|--------|---------------------------------|
| 施策     | 2 女性と青年の参画                      |
| 事業     | ① 全ての組織でのジェンダーバランスと青年参画のルール化の推進 |
| 主体委員会等 | ◎理事会 ○コミッショナーG                  |

## ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>①地区および県連の役員について、その任務を認識し確実に執行できる者の就任が求められる。<br/>(→ I-1-①)</p> <p>②その条件を満たすことができる知見と実行力を有した、役員が選考・選任され、任務を執行できる仕組みを構築していく。</p> <p>③その中で、条件を満たす役員については、男女を問わず採用する。</p> <p>④また、スカウティングには「子育て」という視点も必要なことから、普遍的知識・意識を有する「母親」の選任も必要となる。これらの役員については、任務を理解しそれを確実に執行できることが選任の条件となる。</p> <p>⑤青年については、IVY リーグにおいて、建設的・積極的にスカウティングを実施していこうという気概を持つ、適任者を選出し、理事会の承認を得て、参画させる。</p> |
| 達成後の姿<br>(その間に取り組むこと) | <p>⑥男性的・女性的の両方のメリットを併せ持つ県連・地区組織の運営がなされている。</p> <p>⑥団においても、男性・女性がそれぞれの面で活躍し、調和がとれた運営がなされている。</p> <p>⑥ IVY リーグの意見が県連運営に反映できることから、IVY リーグやローバーの活動が盛んになっている。</p>                                                                                                                                                                                                            |



2024 年度実施事項 (赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致)

| 担当委員会等 | 実施内容                                          | 実施項目・成果                               | 期間         |
|--------|-----------------------------------------------|---------------------------------------|------------|
| 理事会①   | ①来年度に向けて、その任務を認識し確実に執行できる者が就任するよう、選考について協議する  |                                       | 継続 '24/04  |
| 理事等    | ②その役目が十分に果たせる「選考委員会」を設置する。                    | 規定により明確なので、選考委員会は不要。                  |            |
| 担当県コミ⑤ | ⑤建設的・積極的なスカウティングを実施していこうという気概を持つローバースカウトを育てる。 | ※茨城ローバースカウト協議会の活動を注視し、県連運営に参画の可能性を探る。 | 継続 '25/02- |



## V 県連運営の適正化に関する取り組み

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 施策     | 3 全役員・委員の任務の確認                |
| 事業     | ① 茨城県連の適正なる運営に向けた任務の確認と執行     |
| 主体委員会等 | ◎理事会 ○コミッショナー、トレーニングチーム、各種委員会 |

### ● 実施事業について

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性            | <p>①地区、県連のすべての役員が、県連と地区と団の関係を理解しており、それぞれの任務について十分に理解して、それを執行できる体制を作り上げる。</p> <p>②地区、県連の役員に対して、その就任時（役員改選のある年次総会の直後）に、県連の方針、各役員・委員の任務の確認、任期中に達成すべき事項や課題について、確認・認識するための「県連役員・委員全体会」（分科会もその中に含む）を実施し、1つの意図・意志の下で県連運営がなされるようにする。</p> <p>③各事業の報告書（理事会、地区、委員会、県コミッショナー、地区コミッショナー、トレーニングチーム等）を見直し、事業の評価を行い、またそれを公開する。</p> |
| 達成後の姿（その間に取り組むこと） | <p>㊤県連・地区のすべての役員・委員等が、自分の任務を理解し、それを適正に執行している。</p> <p>㊦単なる報告書の提出ではなく、業務の概要、実施状況、問題点、改善点、評価が明記され、公開された報告書になっている。</p>                                                                                                                                                                                                 |

|           | 2023                     | 2024       | 2025 | 2026       | 2027 |
|-----------|--------------------------|------------|------|------------|------|
| 年度の主な取り組み | <p>①㊤任務の理解</p> <p>③㊦</p> | <p>①②㊤</p> |      | <p>①②㊤</p> |      |

これは役員改選のタイミング

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等           | 実施内容                                              | 実施項目・成果        | 期間         |
|------------------|---------------------------------------------------|----------------|------------|
| 理事会              | ①県連と地区と団のそれぞれの組織と役割と位置づけを理解する。                    |                | 済          |
| 県連・地区のすべての役員・委員㊤ | ㊤県連・地区のすべての役員・委員等が、自分の任務を遂行するために、その任務を理解する。       | 県連勉強会・地区勉強会の実施 | 継続 -24/010 |
| 県連役員㊦            | ③理事会に提出される各種「報告書」の意味を再確認し、必要十分な報告書となるようその項目を整備する。 |                | 継続 -24/04  |
| 県連役員①            | ③上記の報告書で、各種報告を作成し、それをPDFにして提出する。                  |                | 継続 -24/04- |
|                  |                                                   |                |            |

# V県連運営の適正化に関する取り組み

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 施策     | 4 指導者の任命、退任表彰の実施             |
| 事業     | ① 任務別指導者任命状、退任時の表彰状についての取り組み |
| 主体委員会等 | ◎県コミッショナー G ○総務委員会、指導者養成委員会  |

## ● 実施事業について

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業の方向性                | <p>①任命権者が、スカウティングにおける指導者の位置づけを確認し、「お願いして指導者になってもらう」ではなく、自分の任務を知り、納得（同意）し、それを受諾して指導者に就任したので、それに対して責任を有している・・・という意識を醸成する。そのプロセスに必要な各種様式についても各団に提供できるように整える。</p> <p>② AIS の「成人のライフサイクル」の「採用」のフェーズの「任命」において、隊・団指導者が、それぞれ自分の任務が明示された任命状を、団委員長（任命権者）から渡されるよう、そのひな形を提供する。（任務については、団や隊ごとに異なる部分があるので、とりあえずすべてを網羅し、団・について隊の実情に合わせて選択できるような形とする）</p> <p>③「将来への判断」フェーズで、「退任」となった指導者については、団において「感謝状」を贈ることを推奨する。</p> |
| 達成後の姿<br>（その間に取り組むこと） | <p>⑤団において、AIS の「成人のライフサイクル」に基づいた指導者任命の手続きがなされている。（任命状、感謝状の採用は団の任意とすべきか）</p> <p>⑥指導者の任務と、持つべき意識を理解できる「任命状」が、標準の環境で印刷できる、ひな形データが提供され、それにより団の実情に合った任命状が作られている。</p> <p>⑦退任の際には、感謝状が贈られている。</p>                                                                                                                                                                                                             |

|           | 2023 | 2024                    | 2025 | 2026 | 2027 |
|-----------|------|-------------------------|------|------|------|
| 年度の主な取り組み |      | <p>①a b c</p> <p>②③</p> |      |      |      |

2024 年度実施事項（赤紫字が実行主体委員会等、丸付き文字は「予算表」の項目に一致）

| 担当委員会等                                    | 実施内容                                                                                            | 実施項目・成果                             | 期間             |
|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|----------------|
| 地区委員長 <sup>㊀</sup><br>地区コミ G <sup>㊀</sup> | ①「お願いしなければ指導者になってもらえない」団の状況について、「何処に問題があるのか」「どのような指導者をリクルートしているのか」「どのような指導者を育成しているのか」を調査し、解析する。 |                                     | 24/01 登録審査を兼ねて |
| 指養委                                       | ② AIS ポリシーに基づく、任務別指導者「任命状」のひな形の作成→電子媒体での提供                                                      |                                     | 済              |
| 地区コミ <sup>㊀</sup>                         | ③「指導者のライフサイクル」で「退任」となった指導者等について、感謝状を作成し贈るよう、地区内各団に周知する。                                         |                                     | 24/04-         |
| 事務局 <sup>㊀</sup>                          | ③県連役員で退任する方に感謝状を贈る。                                                                             | 県連における感謝状の贈呈については、県連表彰規定との整合性が必要である | 24/04-         |



## Ⅵ 2024 年度 一般事業

### 【理事会等】

| 実施内容                                   | 実施項目・成果                                                                                         | 期間             |
|----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| ①理事会、常任理事会、企画調整委員会の運営                  |                                                                                                 |                |
| ②「ワクワク自然体験あそび」が各団で取り組まれるための支援          | →地広委I-2-③                                                                                       |                |
| ③団・隊組織のあるべきイメージの提示と、AIS ポリシーの研究        | →総務委I-2-⑤                                                                                       |                |
| ④県連盟・地区役員等や団・隊指導者層の高齢化の解消及び次期役員・指導者の育成 | 中期計画Ⅴ-3-①による                                                                                    | 24 改選時に実施      |
| ⑤「日日の善行」運動の新たな推進                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「スカウトの日」実施キットの入手方法の通知</li> <li>・日々の善行実施事例の調査</li> </ul> | 24/6<br>24/09- |
| ⑥ WB 研修所の実施場所の確保                       | 当面は土浦市青少年の家は継続だが、将来を見据えて調査する。                                                                   |                |
| ⑦県連役員、県連委員会委員の全体集会の実施                  |                                                                                                 | 24/6.8         |

### 【総務委員会】

| 実施内容                                       | 実施項目・成果                                                                                      | 期間           |
|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| ①震災等の復興支援活動への奉仕手続の整備と参加の奨励                 |                                                                                              |              |
| ②制定から 10 年が経った茨城県連盟規定等の時代に即した内容への修正の検討     | 理事会にて対応                                                                                      | 継続           |
| ③団委員長セミナー、団委員研修会の開催                        | 地区委員長や団委員長、団委員のためのよりよいスカウト運動の理解や地域への理解のための発信方法、入団説明会のありかたなど。                                 | 都度決定         |
| ④「団における危機管理マニュアル作成の手引き」の団への作成支援            | 実際に団での作成にあたっての支援を考える。                                                                        | -24/04       |
| ⑤ボーイスカウト振興茨城議員連盟との連携、及び「意見交換会」の実施          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボーイスカウト振興茨城議員連盟総会への出席</li> <li>・意見交換会の実施。</li> </ul> | 6 月<br>11/12 |
| ⑥ボーイスカウト茨城県連盟維持財団との連携                      | 懇談会の開催                                                                                       | 随時           |
| ⑦セーフ・フロム・ハーム研修（基本編、実践編）の実施                 | 計画的な実施と、修了者の管理                                                                               | 随度           |
| ⑧納品されたスカウト用品の各団送付の適正化                      |                                                                                              | -24/12       |
| ⑨各種委員会から提供されるプログラムについて、その活動を支援するプログラム用品の紹介 | まずは「救急薬品携帯ケース」                                                                               | 24/04-       |

### 【地域連携・広報委員会】

| 実施内容                                                                              | 実施項目・成果                                                         | 期間    |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-------|
| ①県連ホームページの運営                                                                      | →地広委 I-2-④                                                      |       |
| ②県連機関紙「SC-IB NEWSLETTER、県連広報紙「SCOUTING 茨城」の発行のための各委員会・コミ・TT 等からの「情報発信担当者（通信員）」の選出 | 運営委員会：各 1 名、県コミ G：1 名、地区コミ：1 名、TT：1 名、IVY-L：1 名、団からの通信員についても考慮。 | -24/6 |
| ③「スカウトの日」の団へ通知ととりまとめ                                                              | 日連からの通知は 6 月下旬、とりまとめは 9 月末、日連報告は 10 月                           |       |
| ④県連「撮っておきの写真コンテスト」＆「カレンダープロジェクト」の実施                                               | ○毎年 10 月末メ切、11 月上旬審査、11 月下旬作成。                                  |       |
| ⑤「ワクワク自然体験あそび」の各団での実施の推進                                                          | →地広委 I-2-④-①ab                                                  |       |
| ⑥地域との連携を考えた地域奉仕活動への積極的な参加の奨励                                                      | 「SC-IB NewsLetter」により啓蒙                                         | 随時    |
| ⑦地域の行事やお祭り等とのコラボレーション等、地域連携活動の促進                                                  | →地広委 I-2-④-d                                                    |       |



|                                |                                                                        |  |
|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------|--|
| ⑧「全国防災キャラバン」の実施                | イオンモール株式会社の協力により実施。<br>資機材は日連より送付されるほか各地区等で準備する。対応地区は持ち回りで。プログラム要員の獲得。 |  |
| ⑨入団説明会の具体的なイメージ提示と、支援ツールの開発と提供 | 中期計画 I -2- ③に含む                                                        |  |

## 【指導者養成委員会】

| 実 施 内 容                                             | 実施項目・成果                                             | 期間   |
|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|------|
| ①指導者が参加したいと思う各種訓練（BS講習会、WB研修所、県定型訓練、県定型外訓練など）の企画・計画 | これまでの「当たり前」から脱却した指導者研修の実施。<br>研修参加案内の工夫、研修内容の工夫。    | 随時実施 |
| ②「毎月第 1 土日は研修の日」の周知                                 | 機会ある毎に伝える。キャンペーンを実施するか？「Ibaraki Scouting News」により啓蒙 | 実施中  |
| ③別表の指導者訓練の実施（企画・計画・実施は、コミ+TT）                       | 計画書に従って、「SC-IB NewsLetter」により周知。研修案内の発信、実施。         | 実施中  |
| ④各種研修の実施                                            | 別紙研修実施計画書による                                        |      |

## 【進歩委員会】

| 実 施 内 容                          | 実施項目・成果                           | 期間     |
|----------------------------------|-----------------------------------|--------|
| ① BVS・CS 部門からの上進率を高めるプログラムの検討と展開 | コミッショナー⑩と同じ。原因についてコミとは異なる目線で探究する。 | -24/02 |
| ②スカウト救急法講習の実施等                   | 「救急章」位置づけをスカウトに再確認させる必要あり         | 予定通り   |
| ③スカウトが自ら信仰心を持つとする気持ちの涵養と環境整備     |                                   | -24/03 |
| ④「スカウトに信仰を奨励する指導者のためのガイド」の作成     |                                   | -24/10 |
| ⑤「信仰奨励章」・「宗教章」取得のための環境整備         |                                   | -24/03 |

## 【イベント国際委員会】

| 実 施 内 容               | 実施項目・成果                      | 期間     |
|-----------------------|------------------------------|--------|
| ①（BS 部門）GB のつどいの実施等   | 参加者 GB 減少対策を考える。             | 予定通り   |
| ②（CS 部門）IB- グランプリの開催  | 告知・周知等運営方法の改善も念頭に入れて。        | 予定通り   |
| ③（VS 部門）ベンチャーラリーの実施   | プロジェクトの持って行き方を検討             | 予定通り   |
| ④（VS 部門）スカウトフォーラム等の実施 | 検討の結果を、県連として取り上げ事業に反映できるように。 | 予定通り   |
| ⑤「日日の善行」運動の実施         |                              | -24/02 |
| ⑥ 茨城県連海外派遣事業          | 実視調査                         |        |
| ⑦ アフターフォーラム           |                              |        |
| ⑧ アフターフォーラムの事業化       |                              |        |

## 【コミッショナー】

| 実 施 内 容                                  | 実施項目・成果                                                                                             | 期間     |
|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| ①礼節とスマートネスについて、自ら考え、それを実行に移していこうという意識の醸成 | 「スカウティングとはどんな運動か、何のための運動なのか」から繙いて、社会に羽ばたくときにどんな資質を身につけていることがいいのか、を考える機会を作る。（日連フォーラム以外に、県連フォーラムを開催か） | -24/03 |

|                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                    |          |
|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| ②コミッショナーの資質及び意識を向上させるための取り組みの推進                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「トレーニングチーム員としての理解基準&amp;自己評価表」に倣い、コミッショナーとして身に付けているべき事項を列挙して、それを自己評価することで、コミッショナーとしての自分自身を評価し、その足りない部分に対しての自己研鑽計画を立てて、それを実行する。</li> <li>・コミッショナーは何のために存在するのか、それについて突き詰め、また共有する。</li> </ul> | -23/12   |
| ③BVS・CS 部門からの上進率を高めるプログラムの検討と展開                                         | 上進を阻害している原因を追及し、その原因について解決策を考え、それをラウンドテーブル等で指導者を伝え、各隊運営の参考とする。                                                                                                                                                                     | -24/01   |
| ④指導者が参加したいと思う各種訓練機関（BS講習会、WB 研修所、県定型訓練、県定型外訓練など）の研究・計画と、参加意識の高揚         | これまでの「当たり前」から脱却した指導者研修の計画と実施。                                                                                                                                                                                                      | -24/02   |
| ⑤楽しい「スキルトレーニング」を展開し、その活用を促して、スカウト・スキルを更に身に付けようという意識を促し、上級訓練への参加意識を高める研究 | 中期計画Ⅳ-2-③に含んで検討                                                                                                                                                                                                                    |          |
| ⑥乙戸県連キャンプ場の使用ルールを定め、各団での使用を可能にする                                        | 9/9 理事会に提案                                                                                                                                                                                                                         | 23/09    |
| ⑦指導者のつどいの実施。                                                            | 計画性を持って通知・準備・実施                                                                                                                                                                                                                    | 6月<br>2月 |
| ⑧地区訪問（県コミ）、団訪問（地区コミ）の実施                                                 | 実施の具体化。スケジュールを明確ににする。                                                                                                                                                                                                              | -23/10   |
| ⑨「毎月第1土日は研修の日」の周知                                                       | 指養委⑧「Ibaraki Scouting News」により                                                                                                                                                                                                     | 実行中      |
| ⑩県連盟内コミ会議・ラウンドテーブル・コミ会議の実施                                              | 内容の精査「指導者は何を求めているのか」を明確に、それに沿った展開を。                                                                                                                                                                                                | -23/10   |
| ⑪「日日の善行」運動の新たな推進                                                        | 日日の善行の本来の意味を、どのように加盟員に伝え、心に浸透させられるかを重点的に推進                                                                                                                                                                                         | -24/02   |
| ⑫「そなえよつねに」「日日の善行」「自治の三訣」を班・隊活動のほか、日常生活の中でも実施する意識の醸成                     | 指導者がそれらを身近に感じ、スカウトに伝えられるよう、具体的な例示（体験談や逸話等）を以て、機会を作って伝える。                                                                                                                                                                           | →指導者のつどい |

## 【トレーニングチーム】

| 実 施 内 容                                                                | 実施項目・成果                                                                                                                                                                                                                                               | 期間                          |
|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| ①指導者が参加したいと思う各種訓練機関（BS講習会、WB 研修所、県定型訓練、県定型外訓練など）の実施と、参加指導者の意識が高まる展開    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの「当たり前」から脱却した指導者研修の実施。</li> <li>・指導者がスカウト精神、指導者意識を醸成できる意識付けを研修に盛り込む</li> </ul>                                                                                                                            | LT,ALTにより<br>実践検証<br>23/09- |
| ②楽しい「スキルトレーニング」の展開。（その活用を促して、スカウト・スキルを更に身に付けようという意識を促し、上級訓練への参加意識を高める） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「スキルトレーニング」を楽しく学ぶ場の設置。オンラインも視野に入れる。</li> <li>・新たな履修手帳も作成。</li> </ul>                                                                                                                                          | -24/01                      |
| ③乙戸県連キャンプ場の使用ルールを定め、各団での使用を可能にする                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各団の利用促進</li> <li>・ルールの策定（指導者委員会と共働）</li> <li>・訓練を最優先するため、年間通してのスケジュールリング</li> <li>・申し込みの流れ及び申込書の作成</li> </ul> <p>※土浦キャンプ場管理チームと</p>                                                                           | 24/04-                      |
| ④次期及び若手トレーニングチーム員の養成及び育成                                               | <p>次期及トレーニングチーム員の養成及び育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上級訓練を履修した指導者へのアプローチを行う</li> <li>・最優先として、コミッショナーグループへのアプローチ</li> </ul> <p>若手トレーニングチーム員の養成及び育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ローバーからの奉仕体制</li> <li>・育成方法の検討</li> </ul> | 24/04-                      |
| ⑤トレーニングチーム員の資質及び意識を向上させるための取り組みの推進                                     | <p>TTMとしての基本姿勢の確認と伝授。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの目標となるトレーナーの設定。</li> <li>・TTM用の指導スキル研究会（TTワークショップの実施、自己研究の共有、インタープリテーションの現場見学、）の設置</li> </ul>                                                                                   | 23/08-                      |

|                              |                                                                    |        |
|------------------------------|--------------------------------------------------------------------|--------|
| ⑥トレーニングチーム員の自己啓発と自主トレーニングの推進 | 「トレーニングチーム員としての理解基準&自己評価表」により自己評価をし、その足りない部分に対する自己研鑽計画を立てて、それを実行する | 23/08- |
|------------------------------|--------------------------------------------------------------------|--------|

## 【IVY-リーグ】

| 実 施 内 容                                  | 実施項目・成果 | 期間                          |
|------------------------------------------|---------|-----------------------------|
| ① 保護者等に対して、スカウトの成長した姿を見せるための取り組み（IVYリーグ） |         | LT,ALTにより<br>実践検証<br>23/09- |

## 【事務局】

| 実 施 内 容                                      | 実施項目・成果 | 期間     |
|----------------------------------------------|---------|--------|
| ①事務局のしごとを漏れなく列挙し、その根拠を理解し、執行体制と状況を確認する。      |         | -23/10 |
| ②各種規約等に従った事務を行う。                             |         | 23/07- |
| ③メールを適切に使用する。（受信メールの確認と分類保管、添付ファイルの確認、送信文面等） |         | 実施中    |
| ④倉庫（資料保管の適正化、物品の整理整頓等）                       |         | 23/10- |
| ⑤土浦野営場の総合管理（地主対応、借用契約、光熱水量等）、および土浦市との土地借用関係  |         | 23/10- |
| ⑥外部団体等からの対応（窓口）《県庁、議連、友好団体等》                 |         | 実施中    |
| ⑦連盟長への対応                                     |         | 実施中    |

## 【土浦キャンプ場管理チーム】

| 実 施 内 容                          | 実施項目・成果                                                       | 期間     |
|----------------------------------|---------------------------------------------------------------|--------|
| ①土浦キャンプ場管理チームを結成する。              | ○チーム長：県指導者養成委員長、チーム員：県コミッショナー、副県コミッショナー、ディレクター<br>○管理責任者を指名する | 24/04- |
| ②乙戸県連キャンプ場の維持および整備と、各団使用のための環境整備 | 草刈りのスケジュール、整理整頓。                                              | 24/04- |
| 乙戸県連キャンプ場の維持および整備と、各団使用のための環境整備  | ・四半期に一度、除草及び整備を行う<br>・理想のキャンプ場の検討                             |        |

| 区分      | 研修名                    | 実施予定日                |
|---------|------------------------|----------------------|
| 日連定型訓練  | 第 80 回～ 83 回ボーイスカウト講習会 | 4/14, 6/23, 9/8, 3/9 |
| 日連定型訓練  | WB研修所スカウトコース 茨城第 8 期   | 10/10                |
| 日連定型訓練  | WB研修所課程別研修 茨城第 8 回     | 11/8                 |
| 県連定型訓練  | 第9回 安全・危機管理研修（基本）      | 4/7                  |
| 県連定型訓練  | 第6回 安全・危機管理研修（STEP 1）  | 9/1                  |
| 県連定型訓練  | 第6回 安全・危機管理研修（STEP2）   | 11/17                |
| 県連定型訓練  | スカウティング基本研修            | 7/21, 12/8           |
| 県連定型外訓練 | スカウティング＋（プラス）セミナー      | 5/12, 7/7, 2/9       |
| 県連定型外訓練 | スキルアップセミナー             | 6/9, 10/6, 11/24     |

## 2024 委員会別事業実施項目

※   は、主体で事業を実施する委員会等、「赤字」は関連委員会、「青字」は、事業の一部を担当するところ。

| 理事会（正副理事長、県連役員） |                         |                                                                                        |                                                                                                        |                  |
|-----------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| No.             | 事業 No.                  | 実 施 内 容                                                                                | 実施項目・成果                                                                                                | 期間               |
| ①               | I-1-①<br>I-1-②<br>V-3-① | 「スカウティングとは何か」を確認し、地区を通して団が正しく理解する<br>スカウティングを推進する者としての気概の醸成<br>茨城県連の適正なる運営に向けた任務の確認と執行 | ②地区勉強会の企画・計画・準備及び実施                                                                                    | -25/03           |
| ②               | I-2-①                   | 様々な団体や地域と連携したプログラム開発を推進                                                                | ② SDGs バッジの検討→承認（2024/4月理事会）→バッジ発注（承認後）                                                                | 24/04            |
| ③               | II-3-①                  | 維持会員登録推進と情報発信の取組み                                                                      | ①「維持会費 県連盟協力依頼額」への対応を協議し、維持財団との話し合いを持つ。<br>※総務委⑥と                                                      |                  |
| ④               | II-3-②                  | 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用                                                              | ①②③理事会は地区委員長・県連役員に向けて、地区勉強会の準備のための理事勉強会を継続する。<br>⑦ テーマ「AIS」。<br>※県コミ G ⑨と                              | -24/10           |
| ⑤               | V-1-①                   | 事務局業務の適正化（業務の整理と人員）と県連ルールの再確認                                                          | ①②県連の事務・事業の総量・分野を把握し、数値化する。<br>→事務量・分野を適性に配分するべく県連（事務局、理 事会、各種委員会、役員等）の構成を考える。<br>※県コミ G ⑨、運営委員長、事務局⑥と | -24/05           |
| ⑥               | V-2-①                   | 全ての組織でのジェンダーバランスと青年参画のルール化の推進                                                          | ①来年度に向けて、その任務を認識し確実に執行できる者が就任するよう、選考について協議する                                                           | -24/04           |
| ⑦               | V-3-①                   | 茨城県連の適正なる運営に向けた任務の確認と執行                                                                | ⑧県連・地区のすべての役員・委員等が、自分の任務を遂行するために、その任務を理解する。                                                            | -24/10           |
| ⑧               |                         |                                                                                        | ③理事会に提出される各種「報告書」の意味を再確認し、必要十分な報告書となるようその項目を整備する。                                                      | -24/04           |
| ⑨               |                         |                                                                                        | ③上記の報告書で、各種報告を作成し、それを PDF にして提出する。                                                                     | -24/04           |
| ⑩               | 一般                      | 理事会、常任理事会、企画調整委員会の開催                                                                   |                                                                                                        |                  |
| ⑪               | 一般                      | 「ワクワク自然体験あそび」が各団で取組まれるための支援                                                            | ※地広委⑥と                                                                                                 |                  |
| ⑫               | 一般                      | 団・隊組織のあるべきイメージの提示と、AIS ポリシーの研究                                                         | ※総務委⑥と                                                                                                 |                  |
| ⑬               | 一般                      | 県連盟・地区役員等や団・隊指導者層の高齢化の解消及び次期役員・指導者の育成                                                  | 中期計画V-3-①による                                                                                           | '24 改選時に実施       |
| ⑭               | 一般                      | 「日日の善行」運動の新たな推進                                                                        | ・「スカウトの日」実施キットの入手方法の通知<br>・日々の善行実施事例の調査                                                                | '24/6<br>'24/09- |
| ⑮               | 一般                      | WB 研修所の実施場所の確保                                                                         | 当面は土浦市青少年の家は継続だが、将来を見据えて調査する。                                                                          |                  |
| ⑯               | 一般                      | 県連役員、県連委員会委員の全体集会の実施                                                                   |                                                                                                        | '24/6.8          |

| 地区代表理事（地区委員長） |        |                                   |                     |        |
|---------------|--------|-----------------------------------|---------------------|--------|
| No.           | 事業 No. | 実 施 内 容                           | 実施項目・成果             | 期間     |
| ①             | I-1-①  | 「スカウティングとは何か」を確認し、地区を通して団が正しく理解する | ①地区勉強会の企画・計画・準備及び実施 | -24/10 |

|   |                 |                                                                   |                                                                                                            |        |
|---|-----------------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| ⑥ | I-1-①           | 「スカウティングとは何か」を確認し、地区を通して団が正しく理解する                                 | ①③⑥地区委員会、地区協議会やラウンドテーブル等の機会を活用し、県連の事業の目的と目標、役員の取り組みと、各団での実践について、十分に周知する。                                   | 24/04- |
| ⑦ | I-2-②<br>II-3-② | スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究<br>「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用 | ④地区においても「AIS ポリシーにおける団運営セミナーを実施する。<br>※地区コミ⑦と                                                              | 24/09- |
| ⑧ | I-2-③           | 地域の青少年に体験活動を提供する取り組み                                              | ①③⑥「自然体験の進め方ハンドブック」活用して、地区内の団が単独で「ワクワク自然体験遊び」を実施できるように、地区で検討会を実施する。<br>※地区コミ⑧と                             | 24/07- |
| ⑨ | II-1-①          | 団・隊組織の正常化と、団・隊指導者の資質の向上                                           | ①この運動に求められている「新規加盟員の保護者の期待」を調査し確認する。同時にこの運動が求めている団（組織・指導者・運営）を確認し、より良い団を目指そうという意識を醸成する。<br>※地区コミ⑨と         | -25/03 |
| ⑩ |                 |                                                                   | ①ボーイスカウトの組織が求めている団・隊の姿を、全ての指導者が知るための「地区勉強会」を計画・実施、それを団・隊指導者に伝える。<br>※地区コミ⑩と                                | 24/06- |
| ⑪ |                 |                                                                   | ①③⑥地区委員会、地区協議会やラウンドテーブル等の機会を活用し、県連の事業の目的と目標、役員の取り組みと、各団での実践について、十分に周知する。<br>※地区コミ⑪と（⑩と同じ）                  | 24/04- |
| ⑫ |                 |                                                                   | ①地区においても「AIS ポリシーにおける団運営セミナーを実施する。<br>※地区コミ⑫と                                                              | 24/09- |
| ⑬ | II-3-②          | 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用                                         | ①②③地区委員会、地区協議会やラウンドテーブル等の機会を活用し、県連の事業の目的と目標、役員の取り組みと、各団での実践について、十分に周知する。<br>※地区コミ⑬と（⑫と同じ）                  | -24/08 |
| ⑭ | IV-1-②          | インサービス・サポート（ISS）の適切な運用                                            | ①地区におけるスカウト運動推進状況の調査と、地区コミへの報告、および ISS 実施の団委員長への通知                                                         | -24/11 |
| ⑮ | V-4-①           | 任務別指導者任命状、退任時の表彰状についての取り組み                                        | ①「お願いしなければ指導者になってもらえない」団の状況について、「何処に問題があるのか」「どのような指導者をリクルートしているのか」「どのような指導者を育成しているのか」を調査し、解析する。<br>※地区コミ⑮と | 24/04- |
| ⑯ | VI-1-①          | 「楽しい」スカウティングの実現（理解と普及）                                            | ⑤「BLT キャンプ」を支援し、地区の指導者にスカウティングの楽しさとは何かを明確にさせる。                                                             |        |
| ⑰ | VI-2-①          | 「スカウティングはゲームである」の実現（理解と普及）                                        | ⑥指導者研修への参加を促進し、スカウティングの教育の重要要素である「スカウティング・ゲーム」を理解させる。                                                      |        |

| 総務委員会 |        |                                   |                                |       |
|-------|--------|-----------------------------------|--------------------------------|-------|
| No.   | 事業 No. | 実 施 内 容                           | 実施項目・成果                        | 期間    |
| ①     | I-1-①  | 「スカウティングとは何か」を確認し、地区を通して団が正しく理解する | ②社会は、スカウティングに何を求めているのかを確実に把握する | -24/8 |



|   |                 |                                                                   |                                                                                                                    |                                |
|---|-----------------|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| ⑥ | I-2-②<br>II-3-② | スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究<br>「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用 | ④「AIS ポリシーにおける団運営セミナー」用の資料を作成し、 <b>同セミナーを実施する。</b><br><b>※県コミ G ①、指養委②と</b>                                        | 資料<br>24/04-<br>セミナー<br>24/09- |
| ⑦ | I-2-⑤           | 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立                                          | ② どんなボーイスカウトだったら子どもを参加させるかを徹底的に検討する。<br><b>※主体はコミ G ②、地広委③</b>                                                     | -24/11                         |
| ⑧ | I-2-⑤           | 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立                                          | ①保護者に最も良く情報が伝わる媒体は何か、保護者はボーイスカウトの何を知りたがっているかを調査する。<br><b>※主体はコミ G ②</b>                                            | 24/04-                         |
| ⑨ | II-1-②          | ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取り組み                                            | ②③年長 4 月からビーバー活動ができるような方策を考え理事会の承認を得る。<br><b>※県コミ G ④と</b>                                                         | -24/10                         |
| ⑩ | II-1-③          | ボーイスカウト隊以上で新規加盟員、カブ隊からの上進スカウトを増やす取り組み                             | ①④ BS,VS を対象とした募集活動の研究<br><b>※県コミ G ⑤と</b>                                                                         | -25/03                         |
| ⑪ | II-3-①          | 維持会員登録推進と情報発信の取り組み                                                | ①「維持会費」「県連盟協力依頼額」への対応を協議し、維持財団との話し合いを持つ。<br><b>※理事会⑥と</b>                                                          | -25/03                         |
| ⑫ | II-3-②          | 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用                                         | ⑧⑨セーフ・フロム・ハームが団内に周知され、対象となる指導者全員が、同セミナーを受講している。また、 <b>団でセミナー受講の管理をし、それが地区・県連に報告されるしくみが出来ている。</b><br><b>※地区コミ⑦と</b> | -25/03                         |
| ⑬ | III-1-③         | 「スカウトならば誰でも救急法ができ、地域や日常生活で役立てることができる」の実現に向けた取り組み                  | ③「隊指導者のための救急法講習会」を実施するとともに、「修了章」の有効期限と更新時期についても明確に示し、修了管理を行う。<br><b>※地区コミ⑧と</b>                                    | 24/04-                         |
| ⑭ |                 |                                                                   | ④コミ G、進歩委等の意見を元に、携帯する救急セットの中身を決め、それを入れて持ち歩く「救急ケース」を、選定し、ビーバーから指導者までに有償頒布する。                                        | -24/08                         |
| ⑮ | III-2-①         | 災害時に有用なスキルを習得するためのプログラムなどの開発の推進                                   | ①④災害の実態を調査し、その復旧活動にはどんな支援が必要なのかをピックアップし、系統立てて整理する。<br><b>※コミ G ⑩、IVY-L ⑪の支援</b>                                    | -25/03                         |
| ⑯ | 一般              | 震災等の復興支援活動への奉仕手続の整備と参加の奨励                                         |                                                                                                                    |                                |
| ⑰ | 一般              | 制定から 10 年が経った茨城県連盟規定等の時代に即した内容への修正の検討                             | 理事会にて対応                                                                                                            | 継続                             |
| ⑱ | 一般              | 団委員長セミナー、団委員研修会の開催                                                | 地区委員長や団委員長、団委員のためのよりよいスカウト運動の理解や地域への理解のための発信方法、しいては入団説明のありかた等。<br><b>参加案内の工夫と参加者の増加対策を。</b>                        | 都度決定                           |
| ⑲ | 一般              | 「団における危機管理マニュアル作成の手引き」の団への作成支援                                    | 実際に団で作成する際の支援を考える。                                                                                                 | -24/04                         |
| ⑳ | 一般              | ボーイスカウト振興茨城議員連盟との連携、及び「意見交換会」の実施                                  | ・ボーイスカウト振興茨城議員連盟総会への出席<br>・意見交換会の実施。                                                                               | 6 月<br>11/12                   |
| ㉑ | 一般              | ボーイスカウト茨城県連盟維持財団との連携                                              | 懇談会の開催                                                                                                             | 随時                             |
| ㉒ | 一般              | セーフ・フロム・ハーム研修（基本編、実践編）の実施                                         | 計画的な実施と、修了者の管理                                                                                                     | 随度                             |
| ㉓ | 一般              | 納品されたスカウト用品の各団送付の適正化                                              |                                                                                                                    | -24/12                         |
| ㉔ | 一般              | 各種委員会から提供されるプログラムについて、その活動を支援するプログラム用品の紹介                         |                                                                                                                    | 24/04-                         |



| No. | 事業 No. | 実 施 内 容                                                        | 実施項目・成果                                                                                                                                     | 期間                |
|-----|--------|----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| ①   | I-1-①  | 「スカウティングとは何か」を確認し、地区を通して団が正しく理解する                              | ②①「母親世代タスクチーム」を設置し、活動を開始する。                                                                                                                 | 6-11月             |
|     | I-2-⑤  | 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立                                       | ※県コミ⑥と                                                                                                                                      |                   |
| ②   | I-1-②  | スカウティングを推進する者としての気概の醸成                                         | ○県連機関紙「SC-IB NEWSLETTER」の発行（機関誌の位置づけを明確にする）                                                                                                 | 隔奇数月              |
|     | I-2-⑤  | 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立                                       |                                                                                                                                             |                   |
| ③   | I-2-①  | 様々な団体や地域と連携したプログラム開発を推進                                        | ①⑥ まずは県コミ G の協力を得て委員会で、「スカウティングにおける地域連携」についての共通理解を図る。その上で、具体的にどんな地域連携活動があるのかを調査する（地広委を支援）<br>※県コミ G ⑥の支援を受ける                                | 最初の委員会、<br>-24/10 |
| ④   | I-2-③  | 地域の青少年に体験活動を提供する取り組み                                           | ①③⑥「わくわく自然体験遊び」を団で実施できるように「自然体験の進め方マニュアル」を作成する。<br>※県コミ G ①の支援を受ける                                                                          | 24/06-            |
| ⑤   |        |                                                                | ④ラウンドテーブルで、地域の行事（子供会、お祭りなど）とボーイスカウトとして如何に関わっているかについて良い事例を聴取り、それを県連としてまとめる。<br>②④地域にボーイスカウトを知ってもらい、根付かせるためのヒント集として、各団に編集配付する。<br>※県コミ⑧、地区コミ⑨ | 24/07-<br>-24/10  |
| ⑥   |        |                                                                | ②③④団の募集活動を支援するツールを作成する。（スカウト数が多い団の事例の紹介、募集ツールなど）<br>※主体は地広委⑦、コミ G ⑧、地区コミ⑨、事務局⑩                                                              | -24/01            |
| ⑦   | I-2-④  | スカウト運動のブランディング（価値やイメージを高く認知してもらうために行う取り組み）と地域への恒常的に情報を発信する取り組み | ①県連キャラクター「スカウトくん」ロゴの地区・団への提供                                                                                                                | 24/06-            |
| ⑧   |        |                                                                | ②県連インスタ開始。<br>地区に広報担当者を置き、県連インスタを活用して活動を発信。                                                                                                 | 24/07-            |
| ⑨   |        |                                                                | ③県連ホームページのデザイン修正、コンテンツ整理                                                                                                                    | 24/04-            |
| ⑩   |        |                                                                | ④理事会、各委員会、コミ、TT、事務局等に情報発信担当を設置し情報を入手する。                                                                                                     | 24/04-            |
| ⑪   | I-2-⑤  | 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立                                       | ② どんなボーイスカウトだったら子どもを参加させるかを徹底的に検討する。<br>※主体はコミ G ⑩、総務委⑪                                                                                     | -24/11            |
| ⑫   |        |                                                                | ①保護者に最も良く情報が伝わる媒体は何か、保護者はボーイスカウトの何を知らたがっているかを調査する。<br>※主体はコミ⑩                                                                               | 24/04-            |
| ⑬   |        |                                                                | ⑤ SCOUTING 茨城（県連広報誌）を年 2 回に発行する。<br>（広報誌の位置づけを明確にする）                                                                                        | 6月、1月<br>発行か      |
| ⑭   | II-1-② | ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取り組み                                         | ①⑥「地頭がよくなる（HQ が高くなる）」ビーバープログラムを実施していることをいろいろな機会に地域に広報する<br>※コミ G ⑪、進歩委⑫と                                                                    | -24/11            |
| ⑮   | II-3-① | 維持会員登録推進と情報発信の取組み                                              | ②維持財団が一般維持会員に向けて発行する、県連活動報告の作成に協力する。                                                                                                        |                   |

|   |       |                                                                           |                                                                                                                         |        |
|---|-------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| ⑨ | Ⅲ-3-① | スカウトにとって魅力ある ICT の活用                                                      | ①塾や習い事などで、スカウトが班活動に割くことの出来る時間がほぼなくなりつつある。スカウト活動を隊集会だけで終わらせないための研究（ITCの活用を含む）をし、（Online でもいいので）班活動が成立する仕組みを作る。<br>※進歩委⑧と | -24/11 |
| ⑩ | Ⅲ-3-② | スカウティングに貢献する ICT の活用方法の研究（広報担当）                                           |                                                                                                                         | -25/03 |
| ⑪ | 一般    | 県連ホームページの運営                                                               | →①                                                                                                                      |        |
| ⑫ | 一般    | 県連機関紙「SC-IB NEWSLETTER、県連広報紙「SCOUTING 茨城」の発行のための各委員会・コミ・TT 等からの「情報発信者」の選出 | 運営委員会：各 1 名、県コミ G：1 名、地区コミ：1 名、TT：1 名、IVY-L：1 名、団からの通信員についても考慮。                                                         | -24/6  |
| ⑬ | 一般    | 「スカウトの日」の団へ通知ととりまとめ                                                       | 日連からの通知は 6 月下旬、とりまとめは 9 月末、日連報告は 10 月                                                                                   |        |
| ⑭ | 一般    | 県連「撮っておきの写真コンテスト」＆「カレンダープロジェクト」の実施                                        | ○毎年 10 月末メ切、11 月上旬審査、11 月下旬作成。                                                                                          |        |
| ⑮ | 一般    | 「ワクワク自然体験あそび」の各団での実施の推進                                                   | →④                                                                                                                      |        |
| ⑯ | 一般    | 地域の行事やお祭り等とのコラボレーション等、地域連携活動の促進                                           | →⑥                                                                                                                      |        |
| ⑰ | 一般    | 地域との連携を考えた地域奉仕活動への積極的な参加の奨励                                               | 「SC-IB NewsLetter」により啓蒙                                                                                                 | 随時     |
| ⑱ | 一般    | 「全国防災キャラバン」の実施                                                            | イオンモール株式会社の協力により実施。道具は日連より送付されるほか各地区等で準備する。対応地区は持ち回りで。プログラム要員の獲得。                                                       |        |

| 指導者養成委員会 |                 |                                                                   |                                                                                                                     |                                |
|----------|-----------------|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| No.      | 事業 No.          | 実 施 内 容                                                           | 実施項目・成果                                                                                                             | 期間                             |
| ①        | I-2-②           | スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究                              | ①スカウティングを取り巻く今の社会情勢を俯瞰して見て、現在の指導者研修の内容について、新たな視点で変えていいモノ、変えてはいけないモノを再検証をし、指導者が求めている研修を構築していくための協議。<br>※コミ G ①、TT ⑧と | '24/4-<br>'24/10               |
| ②        | I-2-②           | スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究                              | ①これまでの味気ない研修案内ではなく、主任講師の思いを伝える、指導者の興味を引きつける研修案内を作成していく。                                                             | '24/04                         |
| ③        |                 |                                                                   | ②③研修参加率の集計と公表                                                                                                       | '24/04                         |
| ④        | I-2-②<br>II-3-② | スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究<br>「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用 | ④「AIS ポリシーにおける団運営セミナー」用の資料を作成し、同セミナーを実施する。<br>※県コミ G ①、総務委⑥（予算は総務委で）と                                               | 資料<br>24/04-<br>セミナー<br>24/09- |
| ⑤        | II-1-②          | ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取り組み                                            | ③④「ビーバープログラム研究会」を実施する。<br>※コミ G ⑨、TT ⑧と                                                                             | 24/10-                         |
| ⑥        |                 |                                                                   | ③④ビーバーキャンプを実現するための研究をする。2024 年度から対応できる団でビーバーキャンプができるように、指導者研修を実施、団の支援条件を明確にする。<br>※コミ G ⑨、TT ⑧と                     | 未定                             |
| ⑦        | II-3-②          | 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用                                         | ①①「有効期限」を付けた「履修証」「修了章」の作成と活用                                                                                        | -24/08                         |
| ⑧        | IV-2-①          | 時代に即した指導者研修の研究と実施                                                 | ①時代に即した研修とはどのようなものか調査する。<br>※コミ G ⑨と                                                                                | -24/09                         |

|   |          |                                                     |                                                                                                                                                                             |           |
|---|----------|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| ① |          |                                                     | ④全ての研修の修了者に「履修証」「修了証」を発行するが、どの研修が「履修証」「修了章」に該当するかの確認。                                                                                                                       | 24/03 に完了 |
| ⑥ | IV -2- ② | 魅力ある隊活動を実施できる指導者を育成する指導者研修の実現                       | ①スカウト（保護者）が「憧れる指導者の姿」を明確にし、その要素を明確にする <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が指導者に求めるニーズの分析</li> <li>スカウトが指導者に求めるニーズの分析</li> <li>憧れる指導者の姿を描き出す</li> </ul> ※コミ G ⑩、TT ⑩と  | -25/01    |
| ① | IV -2- ② | 魅力ある隊活動を実施できる指導者を育成する指導者研修の実現                       | ②指導者研修の目標設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>「知識やスキルの修得」「不安を解消する」研修の分類</li> <li>「集合対面」か「オンライン化できるか」の検討</li> <li>目標の明確化と研修内容の作成</li> </ul> ※コミ G ⑩、TT ⑩と               | -25/03    |
| ③ |          |                                                     | ③「スカウティングはゲームである」の深化を考える <ul style="list-style-type: none"> <li>研修に「スカウティング・ゲーム」を取り入れた研修内容の見直し</li> <li>「スカウティングはゲーム」の定形外訓練への検討</li> </ul> ※コミ G ⑩、TT ⑩と                    | -25/03    |
| ④ | IV -2- ⑤ | 研修参加環境の調査と整備                                        | ②指導者が希望する研修に参加できているのか、制約があるのか、研修実施情報がきちんと伝わっているのか、研修参加に対して団からの支援・後押しはあるのか、参加費用はどうなっているのか・・・など、<br>②地区ごとに、団の現状を調査するための項目を抽出し、地区コミにより調査を実施し、問題点を把握する。<br>(改善は次年度)<br>※コミ G ⑩と | 24/04-    |
| ① | 一般       | 指導者が参加したいと思う各種訓練（BS講習会、WB 研修所、県定型訓練、県定型外訓練など）の企画・計画 | これまでの「当たり前」から脱却した指導者研修の実施。<br>研修参加案内の工夫、研修内容の工夫。                                                                                                                            | 随時実施      |
| ② | 一般       | 「毎月第 1 土日は研修の日」の周知                                  | 機会ある毎に伝える。キャンペーンを実施するか？「Ibaraki Scouting News」により啓蒙                                                                                                                         | 実施中       |
| ③ | 一般       | 下表の指導者訓練の実施（企画・計画・実施は、コミ+TT）                        | 計画書に従って、「SC-IB NewsLetter」により周知。研修案内の発信、実施。                                                                                                                                 | 実施中       |
| ④ | 一般       | 各種研修の実施                                             | 別紙研修実施計画書による                                                                                                                                                                |           |

| 進歩委員会 |          |                        |                                                                                                                |        |
|-------|----------|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| No.   | 事業 No.   | 実 施 内 容                | 実施項目・成果                                                                                                        | 期間     |
| ①     | II -1- ② | ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取り組み | ①⑥「地頭がよくなる（HQ が高くなる）」ビーバープログラムを実施していることをいろいろな機会地域に広報する<br>※ TT ⑩、コミ G ⑩、地広委⑩と                                  | -24/11 |
| ②     | II -2- ③ | スカウトにとって魅力あるスカウティングの実現 | ⑥進級意識調査（スカウト向け、指導者向け）を行うための項目と実施方法について協議する。<br>※コミ G ⑩と                                                        | -24/06 |
| ③     |          |                        | ③塾や習い事などで、スカウトが班活動に割くことの出来る時間がほぼなくなりつつある。スカウト活動を隊集会だけで終わらせないための研究（ITC の活用を含む）をし、（Online でもいいので）班活動が成立する仕組みを作る。 | -24/11 |

|   |       |                                      |                                                                                                                                                                                |             |
|---|-------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| ④ |       |                                      | ⑥ベンチャー「プログラム成果発表会」に向け、各団にそれを指示し、実施する。(これは県連 SDGs アワードと同時開催とする※イベ委① SDGs AW と)                                                                                                  | 24/06-11/30 |
| ⑤ |       |                                      | ④⑦富士スカウト顕彰を実施する(ベンチャープロジェクト成果発表、SDGs アワードと同時開催も考える※イベ委① SDGs AW と)                                                                                                             | 11/30       |
| ⑥ |       |                                      | ⑥富士章受賞スカウトの県知事表敬を実施する                                                                                                                                                          | 調整          |
| ⑨ | Ⅲ-1-① | 年代特性に合致した一貫性のあるプログラム開発と整備            | ①②③④⑥年代特性を考慮した部門プログラム研究(何に重点を置くのか、何を伸ばすのかの本質を年代特性に応じて、その在り方を研究し、プログラムの基本方針を確認する)を行う。(具体的なプログラムの内容ではない)<br>※コミ G ㉔と                                                             | -25/3       |
| ⑧ | Ⅲ-1-② | 進歩制度の理解促進、富士章をめざす意識の醸成、技能章修得しやすい環境整備 | ①②③④「進歩制度」の本質について、更に深く研究する。<br>※コミ G ㉔、TT ㉔と                                                                                                                                   | -24/09      |
| ⑩ |       |                                      | ⑥時代に即したプログラム(BVS～VS)の研究が行われている。<br>※コミ G ㉔、TT ㉔と                                                                                                                               | 24/04-      |
| ⑪ | Ⅲ-1-④ | 国際感覚を養うプログラムの整備                      | ①班・組活動に英語を取り入れる方法とそれを発揮できる活動流れを考える。※コミ G ㉔<br>①英語環境を作るために、それぞれの部門の隊に「英語劇」やイングリッシュ・シャワー等のプログラムの実施ヒントを提供する。<br>①地区や団でそれを発表する機会を持つように促す。<br>○発表した班・組のスカウトには県作成のアワードを贈呈。<br>※イベ委⑥と | -24/09      |
| ⑫ | Ⅲ-3-① | スカウトにとって魅力ある ICT の活用                 | ①塾や習い事などで、スカウトが班活動に割くことの出来る時間がほぼなくなりつつある。スカウト活動を隊集会だけで終わらせないための研究(ITC の活用を含む)をし、(Online でもいいので)班活動が成立する仕組みを作る。<br>※地広委㉔と                                                       | -24/11      |
| ① | 一般    | BVS・CS 部門からの上進率を高めるプログラムの検討と展開       | コミッショナー㉔と同じ。原因についてコミとは異なる目線で探究する。                                                                                                                                              | -24/02      |
| ② | 一般    | スカウト救急法講習の実施等                        | 計画通り実施                                                                                                                                                                         | 予定通り        |
| ③ | 一般    | スカウトが自ら信仰心を持つようする気持ちの涵養と環境整備         |                                                                                                                                                                                | -24/03      |
| ④ | 一般    | 「スカウトに信仰を奨励する指導者のためのガイド」の作成          |                                                                                                                                                                                | -24/10      |
| ⑤ | 一般    | 「信仰奨励章」・「宗教章」取得のための環境整備              |                                                                                                                                                                                | -24/03      |

| イベント国際委員会 |                |                                                        |                                                            |        |
|-----------|----------------|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|--------|
| No.       | 事業 No.         | 実 施 内 容                                                | 実施項目・成果                                                    | 期間     |
| ①         | I-2-①<br>Ⅲ-1-④ | 様々な団体や地域と連携したプログラム開発を推進<br>環境保全活動、社会貢献活動、SDGs プログラムの推進 | ②「SC-IB SDGs アワード」の実施に向けて、準備に取り掛かる。実施。<br>※企画は県コミ G、運営はイベ委 | 11/30  |
| ②         | Ⅱ-1-③          | ボーイスカウト隊以上で新規加盟員、カブ隊からの上進スカウトを増やす取り組み                  | ① BS、VS の募集に繋がるイベントの研究<br>※コミ G ㉔と                         | -25/03 |

|   |       |                       |                                                                                                                                                                                               |        |
|---|-------|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| ㉔ | Ⅲ-1-④ | 国際感覚を養うプログラムの整備       | ①班・組活動に英語を取り入れる方法とそれを発揮できる活動流れを考える。 <b>※コミ G ㊟</b><br>①英語環境を作るために、それぞれの部門の隊に「英語劇」やイングリッシュ・シャワー等のプログラムの実施ヒントを提供する。<br>①地区や団でそれを発表する機会を持つように促す。<br>○発表した班・組のスカウトには県作成のアワードを贈呈。<br><b>※進歩委①と</b> | -24/09 |
| ㉕ | Ⅲ-1-④ | 国際感覚を養うプログラムの整備       | ② 2025 年度の実施に向けて、海外派遣を企画・計画する。そのために、2024 年度は、派遣のそれぞれの役務を担う担当による視察チームを編成し、現地視察を実施する。<br><b>※担当コミ G ㊟と</b>                                                                                      | -25/03 |
| ① | 一般    | (BS 部門) GB のつどいの実施等   | 計画通り実施                                                                                                                                                                                        | 予定通り   |
| ② | 一般    | (CS 部門) IB- グランプリの開催  | 計画通り実施                                                                                                                                                                                        | 予定通り   |
| ③ | 一般    | (VS 部門) ベンチャーラリーの実施   | 計画通り実施                                                                                                                                                                                        | 予定通り   |
| ④ | 一般    | (VS 部門) スカウトフォーラム等の実施 | 計画通り実施                                                                                                                                                                                        | 予定通り   |
| ⑤ | 一般    | 「日日の善行」運動の実施          | <b>※コミッショナー⑪</b>                                                                                                                                                                              | -24/02 |
| ⑥ | 一般    | アフターフォーラムの実施          |                                                                                                                                                                                               |        |

| コミッショナー（県コミ G、全コミッショナー） |                |                                                                   |                                                                                                              |                                |
|-------------------------|----------------|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| No.                     | 事業 No.         | 実 施 内 容                                                           | 実施項目・成果                                                                                                      | 期間                             |
| ㉖                       | I-1-①          | 「スカウティングとは何か」を確認し、地区を通して団が正しく理解する                                 | ③正しく・愉快で・魅力があり、地頭を良くする多彩なスカウティングのプログラムのヒント集の企画・研究、そして編集・発行、配付                                                | -24/12                         |
| ㉗                       | I-1-①<br>I-2-⑤ | 「スカウティングとは何か」を確認し、地区を通して団が正しく理解する<br>保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立     | ②㉖「母親世代タスクチーム」を設置し、活動を開始する。<br><b>※地広委①と</b>                                                                 | 6-11 月                         |
| ㉘                       | I-1-②          | スカウティングを推進する者としての気概の醸成                                            | ③ラウンドテーブルや地区の指導者の会合等で「指導者としての気概」について話し合い、それを地区や団に伝える                                                         | -24/10                         |
| ㉙                       | I-2-①<br>Ⅲ-1-④ | 様々な団体や地域と連携したプログラム開発を推進<br>環境保全活動、社会貢献活動、SDGs プログラムの推進            | ② SDGs バッジの検討→承認（2024/4 月理事会）→バッジ発注（承認後）                                                                     | -24/04                         |
| ㉚                       |                |                                                                   | ② SDGs プログラムについて、地区コミ G が指導者に方向を示したり具体的なヒントを提示できるように、研究会を実施する（活動プログラムと家庭でのプログラムの両方を対象に）<br><b>※地区コミ G ㊟と</b> | -25/03                         |
| ㉛                       |                |                                                                   | ②㉚ SDGs プログラム勉強会（指導者向け）の開催準備<br>→実施は 2024 年度（4 半期に 1 回計 4 回）                                                 | -25/03                         |
| ㉜                       |                |                                                                   | ②「SC-IB SDGs アワード」の実施に向けて、準備に取り掛かる。<br><b>※企画は県コミ G、運営はイベ委</b>                                               | 11/30                          |
| ㉝                       | I-2-①          | 様々な団体や地域と連携したプログラム開発を推進                                           | ①㉖「スカウティングにおける地域連携」についての共通理解を図る。 <b>（地広委①を支援）</b>                                                            | -24/10                         |
| ㉞                       | I-2-②<br>Ⅱ-3-② | スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究<br>「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用 | ④「AIS ポリシーにおける団運営セミナー」用の資料を作成し、同セミナーを実施する。<br><b>※総務委㉞と</b>                                                  | 資料<br>24/04-<br>セミナー<br>24/09- |



|   |        |                                                |                                                                                                                                           |                               |
|---|--------|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| ① | I-2-②  | スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究           | ①スカウティングを取り巻く今の社会情勢を俯瞰して見て、現在の指導者研修の内容について、新たな視点で変えていいモノ、変えてはいけないモノを再検証をし、指導者が求めている研修を構築していくための協議。<br>※指養委②、TT ②と                         | '24/4 ~ '24/10                |
| ② | I-2-②  | スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究           | ④団や隊の指導者が理解しやすいチャートや事例を掲載したインサービス・サポートの資料を作成し、それを基に地区において説明会を実施する。<br>※地区コミ G ②と                                                          | 資料<br>24/04-<br>説明会<br>24/09- |
| ③ | I-2-③  | 地域の青少年に体験活動を提供する取り組み                           | ①③④「わくわく自然体験遊び」を団で実施できるように「自然体験の進め方マニュアル」を作成する。(地区代表理事、地区コミッショナーに説明する)<br>※主体は地広委②                                                        | 24/06-                        |
| ④ |        |                                                | ④ラウンドテーブルで、地域の行事(子供会、お祭りなど)とボーイスカウトとして如何に関わっているかについて良い事例を聴取り、それを県連としてまとめる。<br>②④地域にボーイスカウトを知ってもらい、根付かせるためのヒント集として、各団に編集配付する。<br>※主体は地区コミ② | '24/07-<br><br>-24/10         |
| ⑤ |        |                                                | ②⑤団の募集活動を支援するツールを作成する。(スカウト数が多い団の事例の紹介、募集ツールなど)<br>※主体は地広委①                                                                               | -24/01                        |
| ⑥ | I-2-⑤  | 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立                       | ②どんなボーイスカウトだったら子どもを参加させるかを徹底的に検討する。<br>※総務委②、地広委②                                                                                         | -24/11                        |
| ⑦ |        |                                                | ①保護者に最も良く情報が伝わる媒体は何か、保護者はボーイスカウトの何を知りたがっているかを調査する。<br>※総務委②、地広委①                                                                          | 24/04-                        |
| ⑧ |        |                                                | ②⑧「母親世代タスクチーム」を設置し、活動を開始する。<br>※主体は地広委②                                                                                                   | 6月～11月                        |
| ⑨ | II-1-① | 団・隊組織の正常化と、団・隊指導者の資質の向上                        | ② AIS 指導者のライフサイクルに、研修体系を組み合わせ、その指導者の役務に必要な研修を明確にする。                                                                                       | 24/04-                        |
| ⑩ | II-1-① | 団・隊組織のあるべきイメージの提示と、AIS ポリシーにもとづいた団・隊指導者位置づけの確認 | ② WB 実修所への参加を促すために、「第1教程(課題研究)勉強会」を定期的実施するための、カリキュラムを策定する。<br>※ TT ②と                                                                     | 24/04-                        |
| ⑪ | II-1-② | ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取り組み                         | ①③④「地頭がよくなる(HQが高くなる)」ビーバープログラムを研究し、ビーバープログラムのヒント集を編集する。<br>※ TT ②                                                                         | -24/11                        |
| ⑫ |        |                                                | ①⑤「地頭がよくなる(HQが高くなる)」ビーバープログラムを実施していることをいろいろな機会地域に広報する<br>※進歩委②、地広委②と                                                                      | -24/11                        |
| ⑬ |        |                                                | ②⑤年長4月からビーバー活動ができるような方策を考え理事会の承認を得る。<br>※総務委②と                                                                                            | -24/10                        |
| ⑭ |        |                                                | ③④「ビーバープログラム研究会」を実施する。<br>※ TT ②、指養委②と                                                                                                    | 24/10-                        |



|   |       |                                                  |                                                                                                                   |                               |
|---|-------|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| ⑮ |       |                                                  | ③④ビーバーキャンプを実現するための研究をする。2024年度から対応できる団でビーバーキャンプができるように、指導者研修を実施、団の支援条件を明確にする。<br>※TT①、指養委①と                       | 未定                            |
| ⑫ | Ⅱ-1-③ | ボーイスカウト隊以上で新規加盟員、カブ隊からの上進スカウトを増やす取り組み            | ①④BS,VSを対象とした募集活動の研究<br>※総務委①と                                                                                    | -25/03                        |
| ⑬ |       |                                                  | ①BS,VSの募集に繋がるイベントの研究<br>※イベ委②と                                                                                    | -25/03                        |
| ⑭ | Ⅱ-1-③ | ボーイスカウト隊以上で新規加盟員、カブ隊からの上進スカウトを増やす取り組み            | ②⑥「CS→BS上進タスクチーム」の設置                                                                                              | 24/04-                        |
| ⑯ | Ⅱ-2-③ | スカウトにとって魅力あるスカウティングの実現                           | ①②⑥ラウンドテーブルには、指導者育成、プログラム開発を組み込み、その実行案を作って、ラウンドテーブルに臨む。<br>※地区コミ②と                                                | -25/03                        |
| ⑰ |       |                                                  | ⑥進級意識調査（スカウト向け、指導者向け）を行うための項目と実施方法について協議する。<br>※進歩委②と                                                             | -24/06                        |
| ⑱ | Ⅱ-3-② | 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用                        | ①②③理事会は地区委員長・県連役員に向けて、地区勉強会の準備のための理事勉強会を継続する。<br>⑦テーマ「AIS」。<br>※理事会②と                                             | -24/10                        |
| ⑲ |       |                                                  | ①①「成人の職業や資格等が認められる研修の修了認定」、および「有効期限を付ける研修の選」定について、研究や協議がなされている。<br>※ディレクター③と                                      | -24/08                        |
| ⑳ |       |                                                  | ①団や隊の指導者が理解しやすいように、チャートや事例をビジュアル的に掲載したインサービス・サポートの資料を作成し、それを基に地区において説明会を実施する。<br>※地区コミ③と                          | 資料<br>24/04-<br>説明会<br>24/09- |
| ㉑ | Ⅲ-1-① | 年代特性に合致した一貫性のあるプログラム開発と整備                        | ①②③④⑥⑦年代特性を考慮した部門プログラム研究（何に重点を置くのか、何を伸ばすのかの本質を年代特性に応じて、その在り方を研究し、プログラムの基本方針を確認する）を行う。（具体的なプログラムの内容ではない）<br>※進歩委③と | -25/3                         |
| ㉒ | Ⅲ-1-② | 進歩制度の理解促進、富士章をめざす意識の醸成、技能章修得しやすい環境整備             | ①②③④「進歩制度」の本質について、更に深く研究する。<br>※進歩委④、TT④、地区コミ④と                                                                   | -24/09                        |
| ㉓ |       |                                                  | ⑥時代に即したプログラム（BVS～VS）の研究が行われている。<br>※進歩委①、TT①と                                                                     | 24/04-                        |
| ㉔ | Ⅲ-1-③ | 「スカウトならば誰でも救急法ができ、地域や日常生活で役立てることができる」の実現に向けた取り組み | ①指導者は、スキルトレーニングの全課目をスカウトは部門別の履修細目を定める。<br>①救急手当カードを作成する<br>※県コミタスクにて                                              | -24/04                        |
| ㉕ |       |                                                  | ③各隊の年プロに「救急法」取得プログラムを組み込ませるべく働きかける<br>※地区コミ⑤と                                                                     | -25/03                        |

|   |       |                                 |                                                                                                                                                                           |                                |
|---|-------|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| サ | Ⅲ-1-④ | 国際感覚を養うプログラムの整備                 | ①班・組活動に英語を取り入れる方法とそれを発揮できる活動流れを考える。<br>①英語環境を作るために、それぞれの部門の隊に「英語劇」やイングリッシュ・シャワー等のプログラムの実施ヒントを提供する。進歩委①<br>①地区や団でそれを発表する機会を持つように促す。イベ委◎<br>○発表した班・組のスカウトには県作成のアワードを贈呈。イベ委◎ | -24/09                         |
| シ |       |                                 | ②2025年度の実施に向けて、海外派遣を企画・計画する。そのために、2024年度は、派遣のそれぞれの役務を担う担当による視察チームを編成し、現地視察を実施する。<br>※イベ委◎と                                                                                | -25/03                         |
| ス | Ⅲ-2-① | 災害時に有用なスキルを習得するためのプログラムなどの開発の推進 | ①③災害の実態を調査し、その復旧活動にはどんな支援が必要なのかをピックアップし、系統立てて整理する。<br>※総務委③、IVY-L◎                                                                                                        | -25/03                         |
| セ | Ⅲ-2-② | 環境保全活動、社会貢献活動、SDGsプログラムの推進      | ①SDGsプログラムのボーイスカウトにおける在り方・取扱方について方向性を出す。                                                                                                                                  | -24/06                         |
| ソ |       |                                 | ②SDGsプログラムのコミ研究会を実施する。<br>活動プログラムと家庭でのプログラムの両方を対象に                                                                                                                        | -24/09                         |
| タ |       |                                 | ②③SDGsプログラム勉強会（指導者向け）の開催とその準備。                                                                                                                                            | -25/03                         |
| チ | Ⅲ-3-① | スカウトにとって魅力あるICTの活用              | ①スカウトの自習の在り方について協議する。（スカウティングの本質、進歩制度）                                                                                                                                    | -24/11                         |
| ツ |       |                                 | ①「班制度」をより機能的に展開できるICTの活用について協議する。                                                                                                                                         | -24/11                         |
| テ | Ⅳ-1-② | インサービス・サポート（ISS）の適切な運用          | ①インサービス・サポート（ISS）を展開するにあたってのフロー図と地区コミGからの相談担当県副コミの設置                                                                                                                      | -24/12                         |
| ト |       |                                 | ①ISS実施に向けた地区コミ勉強会（他の勉強会と内容が被っても可）の実施                                                                                                                                      | -24/11                         |
| ナ |       |                                 | (3) 団や隊の指導者が理解しやすいチャートや事例を掲載したインサービス・サポートの資料を作成し、それを基に地区において説明会を実施する。→②                                                                                                   | 資料<br>24/04-<br>説明会<br>'24/09- |
| ニ | Ⅳ-2-① | 時代に即した指導者研修の研究と実施               | ①時代に即した研修とはどのようなものか調査する。<br>※指養委①、進歩委①と                                                                                                                                   | -24/09                         |
| ヌ |       |                                 | ①③オンラインによる研修について<br>・指導者が、オンライン研修に求めているコトの分析<br>・オンラインを行う上でのメリット・デメリットの検討<br>・オンラインで行える研修の研究<br>※TT③と                                                                     | -24/09                         |
| ネ |       |                                 | ②⑥研修履歴の管理<br>・研修履歴に関するルール作成<br>・入力項目の検討<br>・システムの構築のための研究<br>※TT①と                                                                                                        | -24/11                         |
| ノ |       |                                 | ③より良い研修制度を目指した、指導者研修体系の整理と研究<br>※TT④と                                                                                                                                     | -24/06                         |

|   |          |                                         |                                                                                                                                                                      |        |
|---|----------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| ⑧ |          |                                         | ①スカウト（保護者）が「憧れる指導者の姿」を明確にし、その要素を明確にする<br>・保護者が指導者に求めるニーズの分析<br>・スカウトが指導者に求めるニーズの分析<br>・憧れる指導者の姿を描き出す<br>※指養委⑧、TT ⑧と                                                  | -25/01 |
| ⑨ |          |                                         | ②指導者研修の目標設定<br>・知識やスキルの修得「不安を解消する」研修の分類<br>・「集合対面」か「オンライン化できるか」の検討<br>・目標の明確化と研修内容の作成<br>※指養委①、TT ⑧と                                                                 | -25/03 |
| ⑦ | IV -2- ② | 魅力ある隊活動を実施できる指導者を育成する指導者研修の実現           | ③「スカウティングはゲームである」の深度化を考える<br>・研修に「スカウティング・ゲーム」を取り入れた研修内容の見直し<br>・「集合対面」か「オンライン化できるか」の検討<br>・「スカウティングはゲーム」の定形外訓練への検討<br>※指養委⑩、TT ⑧と                                   | -25/03 |
| ⑥ | IV -2- ⑤ |                                         | ① AIS ライフサイクルの中の「任務中の支援」および「トレーニング」の姿・イメージを共通理解し、具体的な実施フローを描き出す。<br>※ TT ①と                                                                                          | -24/10 |
| ⑤ |          |                                         | ②指導者が希望する研修に参加できているのか・制約があるのか、研修実施情報がきちんと伝わっているのか、研修参加に対して団からの支援・後押しはあるのか、参加費用はどうなっているのか・・・など、地区ごとに、団の現状を調査するための項目を抽出し、地区コミにより調査を実施し、問題点を把握する。<br>(改善は次年度)<br>※指養委⑩と | 24/04- |
| ④ | V -1- ①  | 事務局業務の適正化（業務の整理と人員）と県連ルールの再確認           | ①②県連の事務・事業の総量・分野を把握し、数値化する。<br>→事務量・分野を適性に配分するべく県連（事務局、理事会、各種委員会、役員等）の構成を考える。<br>※三役、運営委員長と                                                                          | -24/05 |
| ③ | V -2- ①  | 全ての組織でのジェンダーバランスと青年参画のルール化の推進           | ⑤建設的・積極的なスカウティングを実施していこうという気概を持つローバースカウトを育てる。<br>(※茨城ローバースカウト協議会の活動を注視し、県連運営に参画の可能性を探る。)                                                                             | -25/02 |
| ② | VI -1- ① | 「楽しい」スカウティングの実現（理解と普及）                  | ⑤指導者に「楽しい」「楽しい」を体験してもらうための研修である「BLT キャンプ」を、実行チームを設置して実施する<br>・スカウティングの楽しさとは何かを明確にする。                                                                                 |        |
| ① | VI -2- ① | 「スカウティングはゲームである」の実現（理解と普及）              | ⑥指導者研修においては、指導者の位置づけと役割を強調し、同時に研修の中に「スカウティング・ゲーム」を取り入れる。<br>・ゲームを取り入れることで、スカウティングの教育の方法を理解させる。                                                                       |        |
| ① | 一般       | 礼節とスマートネスについて、自ら考え、それを実行に移していこうという意識の醸成 | 「スカウティングとはどんな運動か、何のための運動なのか」から繙いて、社会に羽ばたくときにどんな資質を身につけていることがいいのか、を考える機会を作る。（日連フォーラム以外に、県連フォーラムを開催か）                                                                  | -24/03 |

|   |    |                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                  |               |
|---|----|------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| ② | 一般 | コミッショナーの資質及び意識を向上させるための取り組みの推進                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>「トレーニングチーム員としての理解基準&amp;自己評価表」に倣い、コミッショナーとして身に付けているべき事項を列挙して、それを自己評価することで、コミッショナーとしての自分自身を評価し、その足りない部分に対しての自己研鑽計画を立てて、それを実行する。</li> <li>コミッショナーは何のために存在するのか、それについて突き詰め、また共有する。</li> </ul> | -'23/12       |
| ③ | 一般 | BVS・CS 部門からの上進率を高めるプログラムの検討と展開                                         | 上進を阻害している原因を追及し、その原因について解決策を考え、それをラウンドテーブル等で指導者を伝え、各隊運営の参考とする。                                                                                                                                                                   | -'24/01       |
| ④ | 一般 | 指導者が参加したいと思う各種訓練機関（BS講習会、WB 研修所、県定型訓練、県定型外訓練など）の研究・計画と、参加意識の高揚         | これまでの「当たり前」から脱却した指導者研修の計画と実施。                                                                                                                                                                                                    | -'24/02       |
| ⑤ | 一般 | 楽しい「スキルトレーニング」を展開し、その活用を促して、スカウト・スキルを更に身に付けようという意識を促し、上級訓練への参加意識を高める研究 | 中期計画Ⅳ-2-③に含んで検討                                                                                                                                                                                                                  |               |
| ⑥ | 一般 | 乙戸県連キャンプ場の使用ルールを定め、各団での使用を可能にする                                        | 9/9 理事会に提案                                                                                                                                                                                                                       | 24/04-        |
| ⑦ | 一般 | 指導者のつどいの実施。                                                            | 計画性を持って通知・準備・実施                                                                                                                                                                                                                  | 6月<br>2月      |
| ⑧ | 一般 | 地区訪問（県コミ）、団訪問（地区コミ）の実施                                                 | 実施の具体化。スケジュールを明確ににする。                                                                                                                                                                                                            | 24/04-        |
| ⑨ | 一般 | 「毎月第1土日は研修の日」の周知                                                       | 指養委⑧「Ibaraki Scouting News」により                                                                                                                                                                                                   | 実行中           |
| ⑩ | 一般 | 県連盟内コミ会議・ラウンドテーブル・コミ会議の実施                                              | 内容の精査「指導者は何を求めているのか」を明確に、それに沿った展開を。                                                                                                                                                                                              | 24/04-        |
| ⑪ | 一般 | 「日日の善行」運動の新たな推進                                                        | 日日の善行の本来の意味を、どのように加盟員に伝え、心に浸透させられるか                                                                                                                                                                                              | -'24/02       |
| ⑫ | 一般 | 「そなえよつねに」「日日の善行」「自治の三訣」を班・隊活動のほか、日常生活の中でも実施する意識の醸成                     | 指導者がそれらを身近に感じ、スカウトに伝えられるよう、具体的な例示（体験談や逸話等）を以て、機会を作って伝える。                                                                                                                                                                         | →指導者の<br>つどいか |
| ⑬ | 一般 | 県連内コミッショナー会議の実施                                                        |                                                                                                                                                                                                                                  |               |
| ⑭ | 一般 | 全国県コミッショナー会議への出席                                                       | 全3回。1回は全国大会、2回はNYC                                                                                                                                                                                                               |               |

| コミッショナー（地区コミG） |                           |                                                                                              |                                                                                                  |                               |
|----------------|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| No.            | 事業No.                     | 実施内容                                                                                         | 実施項目・成果                                                                                          | 期間                            |
| ①              | I-2-①                     | 様々な団体や地域と連携したプログラム開発を推進                                                                      | ② SDGs プログラムについて、地区コミGが指導者に方向を示したり具体的なヒントを提示できるように、研究会を実施する（活動プログラムと家庭でのプログラムの両方を対象に）<br>※県コミG⑥と |                               |
| ②              | I-2-②                     | スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究                                                         | ④ 団や隊の指導者が理解しやすいチャートや事例を掲載したインサービス・サポートの資料を作成し、それを基に地区において説明会を実施する。<br>※県コミG⑥と                   | 資料<br>24/04-<br>説明会<br>24/09- |
| ③              | I-2-②<br>II-1-①<br>II-3-② | スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究<br>団・隊組織の正常化と、団・隊指導者の資質の向上<br>「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用 | ④ 地区においても「AIS ポリシーにおける団運営セミナー」を実施する。<br>※地区委員長⑥と                                                 | 24/09-                        |
| ④              | I-2-③                     | 地域の青少年に体験活動を提供する取り組み                                                                         | ①③⑥自然体験の進め方ハンドブック」活用して、地区内の団が単独で「ワクワク自然体験遊び」を実施できるように、地区で検討会を実施する。<br>※地区委員長⑥と                   | 24/07-                        |

|   |         |                                                  |                                                                                                                                                          |                               |
|---|---------|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| e |         |                                                  | <p>④ラウンドテーブルで、地域の行事（子供会、お祭りなど）とボーイスカウトとして如何に関わっているかについて良い事例を聴取り、それを県連としてまとめる。</p> <p>②④地域にボーイスカウトを知ってもらい、根付かせるためのヒント集として、各団に編集配付する。</p> <p>※県コミ G ㊟と</p> | 24/07-<br>-24/10              |
| f | II-1-①  | 団・隊組織の正常化と、団・隊指導者の資質の向上                          | ①この運動に求められている「新規加盟員の保護者の期待」を調査し確認する。同時にこの運動が求めている団（組織・指導者・運営）を確認し、より良い団を目指そうという意識を醸成する。                                                                  | -25/03                        |
| g |         |                                                  | ①ボーイスカウトの組織が求めている団・隊の姿を、全ての指導者が知るための「地区勉強会」を計画・実施、それを団・隊指導者に伝える。                                                                                         | 24/06-                        |
| h |         |                                                  | ①地区においても「AIS ポリシーにおける団運営セミナー」を実施する。                                                                                                                      | 24/09-                        |
| i | II-1-①  | 団・隊組織の正常化と、団・隊指導者の資質の向上                          | ②③④団が地域や保護者が求めている「団の価値」について、地区コミから説明し、定着を狙う。                                                                                                             | 24/04-                        |
| j |         |                                                  | ⑥「団の価値」を生み出すための行動として、団が指導者を必要な指導者研修に送り出している。                                                                                                             | 24/06-                        |
| u | II-2-③  | スカウトにとって魅力あるスカウティングの実現                           | ①②④ラウンドテーブルは、指導者育成、プログラム開発を組み込み、その実行案を作って、ラウンドテーブルに臨む。                                                                                                   | -25/03                        |
| k | II-3-②  | 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用                        | ①②③地区委員会、地区協議会やラウンドテーブル等の機会を活用し、県連の事業の目的と目標、役員の取り組みと、各団での実践について、十分に周知する。                                                                                 | -24/08                        |
| l |         |                                                  | ③「成人のライフスタイル」（「採用」「任務遂行」「将来への判断」）が団で取り入れられている。                                                                                                           | 24/04-                        |
| m |         |                                                  | ①団や隊の指導者が理解しやすいチャートや事例を掲載したインサービス・サポートの資料を作成し、それを基に地区において説明会を実施する。                                                                                       | 資料<br>24/04-<br>説明会<br>24/09- |
| n |         |                                                  | ⑤⑥セーフ・フロム・ハームが団内に周知され、対象となる指導者全員が、同セミナーを受講している。また、団でセミナー受講の管理をし、それが地区・県連に報告されるしくみが出来ている。                                                                 | -25/03                        |
| o | III-1-② | 進歩制度の理解促進、富士章をめざす意識の醸成、技能章修得しやすい環境整備             | ⑥「進歩制度」の本質について、更に深く研究し、共通理解がとれた項目について、ラウンドテーブルで指導者に伝える。                                                                                                  | -24/09                        |
| x | III-1-③ | 「スカウトならば誰でも救急法ができ、地域や日常生活で役立てることができる」の実現に向けた取り組み | ⑧各隊の年プロに「救急法」取得プログラムを組み込ませるべく働きかける。                                                                                                                      | -25/03                        |
| p | III-1-③ | 「スカウトならば誰でも救急法ができ、地域や日常生活で役立てることができる」の実現に向けた取り組み | ③「隊指導者のための救急法講習会」を実施するとともに、「修了章」の有効期限と更新時期についても明確に示し、修了管理を行う。                                                                                            | 24/04-                        |



|   |       |                            |                                                                                                             |                               |
|---|-------|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| ⑨ | Ⅲ-3-① | スカウトにとって魅力ある ICT の活用       | ①各団で ICT を活用した活動の事例を集める。                                                                                    | -24/11                        |
| ⑦ | Ⅳ-1-② | インサービス・サポート（ISS）の適切な運用     | ①地区におけるスカウト運動推進状況の調査と、地区コミへの報告、および ISS 実施の団委員長への通知<br>※地区委員長①と                                              | -24/11                        |
| ⑤ |       |                            | (3) 団や隊の指導者が理解しやすいチャートや事例を掲載したインサービス・サポートの資料を作成し、それを基に地区において説明会を実施する。<br>※県コミ㉔と                             | 資料<br>24/04-<br>説明会<br>24/09- |
| ⑤ | Ⅳ-2-③ | スカウトスキルのスタンダードの提示          | ③隊内・団内の研修や個別支援などでも対応できるように、団や隊の基盤整備を支援する。                                                                   | 24/09-                        |
| ④ | Ⅴ-4-① | 任務別指導者任命状、退任時の表彰状についての取り組み | ①「お願いしなければ指導者になってもらえない」団の状況について、「何処に問題があるのか」「どのような指導者をリクルートしているのか」「どのような指導者を育成しているのか」を調査し、解析する。<br>※地区委員長⑧と | -24/                          |
| ③ | Ⅴ-4-① | 任務別指導者任命状、退任時の表彰状についての取り組み | ③「指導者のライフサイクル」で「退任」となった指導者等について、感謝状を作成し贈るよう、地区内各団に周知する。                                                     |                               |
| ② | Ⅵ-1-① | 「楽しい」スカウティングの実現（理解と普及）     | ⑤指導者に「楽しい」「楽しい」を体験してもらうための研修である「BLT キャンプ」を、実行チームを設置して実施する<br>・スカウティングの楽しさとは何かを明確にする。                        |                               |

| トレーニングチーム |        |                                                |                                                                                                                     |                 |
|-----------|--------|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| No.       | 事業 No. | 実 施 内 容                                        | 実施項目・成果                                                                                                             | 期間              |
| ①         | I-2-②  | スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究           | ①スカウティングを取り巻く今の社会情勢を俯瞰して見て、現在の指導者研修の内容について、新たな視点で変えていいモノ、変えてはいけないモノを再検証をし、指導者が求めている研修を構築していくための協議。<br>※コミ G ①、指養委㉔と | 24/04-<br>24/10 |
| ②         | I-2-②  | スカウティングを正しく理解した、魅力&実力のある指導者の育成のための研究           | ②㉔㉕ より良い研修実施のための自主トレの実施                                                                                             | 24/04-          |
| ③         | Ⅱ-1-①  | 団・隊組織のあるべきイメージの提示と、AIS ポリシーにもとづいた団・隊指導者位置づけの確認 | ② AIS 指導者のライフサイクルに、研修体系を組み合わせ、その指導者の役務に必要な研修を明確にする。<br>※コミ G ①と                                                     | 24/04-          |
| ④         |        |                                                | ② WB 実修所への参加を促すために、「第1 教程（課題研究）勉強会」を定期的に実施するための、カリキュラムを策定する。<br>※コミ G ㉔と                                            |                 |
| ⑤         | Ⅱ-1-②  | ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取り組み                         | ③㉔「ビーバープログラム研究会」を実施する。<br>※コミ G ⑤、指養委㉔                                                                              | 24/10-          |
| ⑥         |        |                                                | ③㉔ビーバーキャンプを実現するための研究をする。2024 年度から対応できる団でビーバーキャンプができるように、指導者研修を実施、団の支援条件を明確にする。<br>※コミ G ㉔、指養委㉔と                     | 未定              |
| ⑦         | Ⅱ-3-②  | 「成人のライフサイクル」の県内への周知と適切な運用                      | ①①成人の職業や資格等が認められる研修の修了認定、および、有効期限を付ける研修の剪定について、研究や協議がなされている。<br>※県コミ G ㉔と                                           | -24/08          |



|   |       |                                      |                                                                                                                                                 |        |
|---|-------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| ⑧ | Ⅲ-1-② | 進歩制度の理解促進、富士章をめざす意識の醸成、技能章修得しやすい環境整備 | ①②③④「進歩制度」の本質について、更に深く研究する。<br>※コミ G ④、進歩委⑧と                                                                                                    | -24/09 |
| ⑨ |       |                                      | ⑤時代に即したプログラム（BVS～VS）の研究が行われている。<br>※コミ G ⑤、進歩委⑨と                                                                                                | 24/04- |
| ⑩ | Ⅲ-2-① | 災害時に有用なスキルを習得するためのプログラムなどの開発の推進      | ②③災害の実態調査を元に必要な技能を習得する新たな視点からのスカウト技能研究会を考える。                                                                                                    | -25/03 |
| ⑪ | Ⅳ-2-① | 時代に即した指導者研修の研究と実施                    | ①②オンラインによる研修について<br>・指導者が、オンライン研修に求めているコトの分析<br>・オンラインを行う上でのメリット・デメリットの検討<br>・オンラインで行える研修の研究<br>※コミ G ⑪と                                        | -25/01 |
| ⑫ |       |                                      | ③④研修履歴の管理<br>・研修履歴に関するルール作成<br>・入力項目の検討<br>・システムの構築のための研究<br>※コミ G ⑫と                                                                           | -25/01 |
| ⑬ |       |                                      | ③より良い研修制度を目指した、指導者研修体系の整理と研究<br>※コミ G ⑬と                                                                                                        | -24/06 |
| ⑭ | Ⅳ-2-① | 時代に即した指導者研修の研究と実施                    | ①時代に即した研修とはどのようなものか調査する。<br>※指養委⑭、進歩委⑭と                                                                                                         | -24/09 |
| ⑮ | Ⅳ-2-② | 魅力ある隊活動を実施できる指導者を育成する指導者研修の実現        | ①スカウト（保護者）が「憧れる指導者の姿」を明確にし、その要素を明確にする<br>・保護者が指導者に求めるニーズの分析<br>・スカウトが指導者に求めるニーズの分析<br>・憧れる指導者の姿を描き出す<br>※指養委⑮、コミ G ⑮と                           | -25/01 |
| ⑯ |       |                                      | ②指導者研修の目標設定<br>・「知識やスキルの修得」「不安を解消する」研修の分類<br>・「集合対面」か「オンライン化できるか」の検討<br>・目標の明確化と研修内容の作成<br>※指養委⑯、コミ G ⑯と                                        | -25/01 |
| ⑰ |       |                                      | ③「スカウティングはゲームである」の深度化を考える<br>・研修に「スカウティング・ゲーム」を取り入れた研修内容の見直し<br>・「集合対面」か「オンライン化できるか」の検討<br>・「スカウティングはゲーム」の定形外訓練への検討<br>※指養委⑰、コミ G ⑰と            | -25/01 |
| ⑱ | Ⅳ-2-③ | スカウトスキルのスタンダードの提示                    | ①「担当チーム」を設置し、各部門の活動を俯瞰して、部門別および役務別に指導者が持ち合わせるべきスカウト・スキルを示すべく、選び出す。<br>②「スカウティング知識」「スカウティング・スキル」の分類<br>③役務別の知識・スキルのレベル策定<br>○その修得方法・基準についても明確にする | -25/01 |
| ⑲ |       |                                      | ④スタンダード項目の提示と、履修チェックができるように、指導者手帳に挟む別刷りを作成し提供する。<br>⑤チェック表の作成<br>⑥研修履歴表との相関について検討<br>⑦チェック表の周知                                                  | -25/01 |

|   |          |                                                                       |                                                                                                                                   |                         |
|---|----------|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| ⑤ |          |                                                                       | ○技能だけでなく、スカウティングに関する基本知識につて、どう扱うかも併せて検討する。                                                                                        | -24/09                  |
| ④ | IV -2- ⑤ | 研修参加環境の調査と整備                                                          | ① AIS ライフサイクルの中の「任務中の支援」および「トレーニング」の姿・イメージを共通理解し、具体的な実施フローを描きだす。<br>※コミ G 〇と                                                      | -24/10                  |
| ④ | II -1- ② | ビーバースカウト部門の加盟員を増やす取り組み                                                | ①⑥「地頭がよくなる(HQが高くなる)」ビーバースカウトプログラムを実施していることをいろいろな機会地域に広報する<br>※コミ G ①、地広委⑥、TT ⑥と                                                   | -24/11                  |
| ④ | VI -2- ① | 「スカウティングはゲームである」の実現(理解と普及)                                            | ⑥指導者研修においては、指導者の位置づけと役割を強調し、同時に研修の中に「スカウティング・ゲーム」を取り入れる。<br>・ゲームを取り入れることで、スカウティングの教育の方法を理解させる。                                    |                         |
| ① | 一般       | 指導者が参加したいと思う各種訓練機関(BS講習会、WB 研修所、県定型訓練、県定型外訓練など)の実施と、参加指導者の意識が高まる展開    | ・これまでの「当たり前」から脱却した指導者研修の実施。<br>・指導者がスカウト精神、指導者意識を醸成できる意識付けを研修に盛り込む<br>・県定形外訓練の内容見直し(「スカウティングはゲーム」を感じる内容の深度化)                      | LT,ALTにより実践検証<br>-25/01 |
| ② | 一般       | 楽しい「スキルトレーニング」の展開。(その活用を促して、スカウト・スキルを更に身に付けようという意識を促し、上級訓練への参加意識を高める) | ①スカウトスキルの活用と必要性について<br>・スカウトスキルチェック表の作成<br>・認証の機会を作る<br>②スカウトスキルの活用と必要性について<br>・スカウトスキルチェック表の作成<br>・認証の機会を作る                      | -25/03                  |
| ③ | 一般       | 乙戸県連キャンプ場の使用ルールを定め、各団での使用を可能にする                                       | ・各団の利用促進<br>・ルールの策定(指導者委員会と共働)<br>・訓練を最優先するため、年間通してのスケジュール<br>・申し込みの流れ及び申込書の作成<br>※土浦キャンプ場管理チームと                                  | 24/04-                  |
| ④ | 一般       | 次期及び若手トレーニングチーム員の養成及び育成                                               | 次期及びトレーニングチーム員の養成及び育成<br>・上級訓練を履修した指導者へのアプローチを行う<br>・最優先として、コミッショナーグループへのアプローチ<br>若手トレーニングチーム員の養成及び育成<br>・ローバーからの奉仕体制<br>・育成方法の検討 | -25/01                  |
| ⑤ | 一般       | トレーニングチーム員の資質及び意識を向上させるための取り組みの推進                                     | トレーナーの資質向上<br>・LT 先導による、TT メンバーへの意識改革<br>・自己研修のレベルアップ<br>・アドホックチーム運営による、意識の醸成                                                     | -25/01                  |
| ⑥ | 一般       | トレーニングチーム員の自己啓発と自主トレーニングの推進                                           | トレーナーの自己研修<br>・ワークショップによる発表                                                                                                       | -25/01                  |
| ⑦ | 一般       | TT 研究集会の実施                                                            |                                                                                                                                   |                         |
| ⑧ | 一般       | 日連、ディレクター研修への参加                                                       |                                                                                                                                   |                         |
| ⑨ | 一般       | 日連 TT 研究集会の参加                                                         | 栃木                                                                                                                                |                         |
| ⑩ | 一般       | TT 資料印刷・製本                                                            | 「野営大全」                                                                                                                            |                         |

| IVY リーグ |        |         |         |    |
|---------|--------|---------|---------|----|
| No.     | 事業 No. | 実 施 内 容 | 実施項目・成果 | 期間 |

|   |       |                                       |                                                                                 |        |
|---|-------|---------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|--------|
| ① | I-2-⑤ | 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立              | ①②③ⅣYリーグでは、各団のスカウトがいつかはやりたい活動（プロジェクト、海外遠征、ハイアドベンチャー、環境保全活動、SDGs など）が企画・計画されている。 | -25/02 |
| ② | Ⅲ-2-① | 災害時に有用なスキルを習得するためのプログラムなどの開発の推進       | ④令和6年能登半島地震の災害復旧ボランティアに参加し、実際に現地で復旧支援活動を体験することで、必要な支援についての知見を蓄える。               | -24/12 |
| ③ |       |                                       | ①④災害の実態を調査し、その復旧活動にはどんな支援が必要なのかをピックアップし、系統立てて整理する。<br>※主体は総務委                   | -25/03 |
| ④ | V-2-① | 全ての組織でのジェンダーバランスと青年参画のルール化の推進         | ⑤建設的・積極的なスカウティングを実施して、いこうという気概を持つローバースカウトを育てる。<br>※ローバー担当県副コミ③                  | -25/02 |
| ⑤ | 一般    | 保護者等に対して、スカウトの成長した姿を見せるための取り組み（ⅣYリーグ） |                                                                                 |        |

| 事務局 |        |                                             |                                                                     |        |
|-----|--------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|--------|
| No. | 事業 No. | 実施内容                                        | 実施項目・成果                                                             | 期間     |
| ①   | I-2-③  | 地域の青少年に体験活動を提供する取り組み                        | ②③団の募集活動を支援するツールを作成する。（スカウト数が多い団の事例の紹介、募集ツールなど）<br>※主体は地広委①         | -24/01 |
| ②   | Ⅲ-3-②  | プログラムのヒント・データベースの構築                         | ① DB は、既にローカル環境で構築されており、毎年データが増え続けている。格納場所等の運用を検討する。                | -24/11 |
| ③   |        |                                             | ②県連保管の紙データ資料の電子化を行う                                                 | -24/11 |
| ④   | V-1-①  | 事務局業務の適正化（業務の整理と人員）と県連ルールの再確認               | ②事務局については、その所掌範囲を把握し、来年度に向けた必要な人的資源の獲得、予算（人件費、設備費等）の措置を講じるための検証をする。 | -24/06 |
| ⑤   | V-1-①  | 事務局業務の適正化（業務の整理と人員）と県連ルールの再確認               | ③県連における「事務手続の手引」（ルール書）を作成する                                         | -24/05 |
| ⑥   | V-4-①  | 任務別指導者任命状、退任時の表彰状についての取り組み                  | ③県連役員で退任する方に感謝状を贈る。                                                 |        |
| ⑦   | 一般     | 事務局のしごとを漏れなく列挙し、その根拠を理解し、執行体制と状況を確認する。      |                                                                     | -23/10 |
| ⑧   | 一般     | 各種規約等に従った事務を行う。                             |                                                                     | 23/07- |
| ⑨   | 一般     | メールを適切に使用する。（受信メールの確認と分類保管、添付ファイルの確認、送信文面等） |                                                                     | 実施中    |
| ⑩   | 一般     | 倉庫（資料保管の適正化、物品の整理整頓等）                       |                                                                     | 23/10- |
| ⑪   | 一般     | 土浦野営場の総合管理（地主対応、借用契約、光熱水量等）、および土浦市との土地借用関係  |                                                                     | 23/10- |
| ⑫   | 一般     | 外部団体等からの対応（窓口）《県庁、議連、友好団体等》                 |                                                                     | 実施中    |
| ⑬   | 一般     | 連盟長対応                                       |                                                                     | 実施中    |
| ⑭   | 一般     | 関東ブロック会議                                    | 3 回中 1 回対面経費                                                        |        |
| ⑮   | 一般     | 事務室借料                                       |                                                                     |        |
| ⑯   | 一般     | HP、ルールサーバ レンタル                              |                                                                     |        |
| ⑰   | 一般     | 全国大会への参加                                    | 理事長、副理事長、県コミ、事務局長、IRC                                               |        |
| ⑱   | 一般     | ZOOM 年会費                                    | プラン「プロ」                                                             |        |

| 土浦キャンプ場管理チーム |        |                                 |                                                                                                 |        |
|--------------|--------|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| No.          | 事業 No. | 実 施 内 容                         | 実施項目・成果                                                                                         | 期間     |
| ①            | 一般     | 土浦キャンプ場管理チームを結成する。              | ○チーム長:県指導者養成委員長、チーム員:県コミッショナー、副県コミッショナー、ディレクター<br>・管理責任者は土浦キャンプ場管理チームで指名                        | 24/04- |
| ②            | 一般     | 乙戸県連キャンプ場の使用ルールを定め、各団での使用を可能にする | ・各団の利用促進<br>・ルールの策定（指導者委員会と共働）<br>・訓練を最優先するため、年間通してのスケジューリング<br>・申し込みの流れ及び申込書の作成<br>※トレーニングチームと | 24/04- |
| ③            | 一般     | 乙戸県連キャンプ場の維持および整備と、各団使用のための環境整備 | ・四半期に一度、除草及び整備を行う<br>・理想のキャンプ場の検討<br>・トレーニングチーム等の負担軽減を考えるとアウトソーシングも視野に入れる                       | 24/04- |

| BLT キャンプ実行チーム |        |               |                 |       |
|---------------|--------|---------------|-----------------|-------|
| No.           | 事業 No. | 実 施 内 容       | 実施項目・成果         | 期間    |
| ①             | 一般     | BLT キャンプを実施する | 実行委員会を編成し、実施する。 | 24/08 |
| ②             |        |               | A-CON の下見       | 24/09 |